

# 高校生からみた「日本」

## — ナショナルなものへの感覚 —

「日本」といっても、世代や出生地、仕事、ライフスタイルなどにより、それぞれの日本像があるのではないかと。第二次世界大戦後、半世紀を経て、現在の高校生は戦争体験を持たない親に育てられている。そうだとすれば、高校生はこれまでのおとなと異なる日本像を持っているのではないかと。本号では、そうした高校生たちの抱く日本像を探ろうと思った。

### ◆調査概要

- 対象 ● 東京都・群馬県・静岡県 の公立高校 3 校の 1～2 年生  
 時期 ● 2003 年 2 月～3 月  
 方法 ● 学校通しによる質問紙調査  
 サンプル数 ● 1,591 名 (男子 824 名、女子 767 名)

## TOPIC

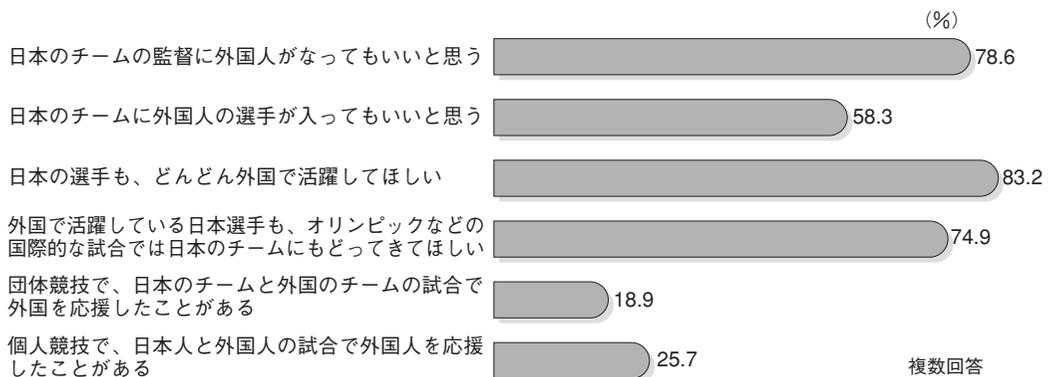
### 1

## スポーツの国際化

— スポーツの海外交流は賛成 — (⇒ p.18)

### ■日本チームの活躍範囲

野球やサッカーなどのチームがオリンピックのような国際的な試合に出るとき、どう思うか



「日本のチームの監督に外国人がなってもいい」と約 8 割が思い、「日本の選手も、どんどん外国で活躍してほしい」と 8 割強が思っている。サッカー日本代表の監督はトルシエからジーコへ、松井やイチローは大リーグで活躍していることなどの影響であろう。しかし、日本のチームに外国人の選手が入ることにはいくらか抵抗があるようで、肯定する割合は 6 割弱である。

## TOPIC 2

## 日本的な音楽

(⇒p.11～16)

— 伝統的な歌は日本的だが、親しみにくい —

### ■さまざまな歌の感じ方

(%)

	なつかしさを 感じる	親しみを 感じる	日本の音楽らしさ を感じる	この歌を 知らない
越天楽今様	3.5	3.1	52.3	41.5
さくらさくら	15.8	14.1	76.9	3.2
翼をください	40.9	57.9	8.2	1.5
北の国から	39.7	40.9	16.4	9.4
アイーダ	11.4	46.4	5.5	32.3
大きな古時計	52.3	53.2	8.5	1.1
いとしのエリー	25.0	56.0	5.3	12.5
負けないで	29.9	63.8	5.3	4.8
いい日旅立ち	37.6	21.7	19.7	23.6

複数回答

《さくらさくら》のような伝統的な歌に8割が日本の音楽らしさを感じているが、「親しみ」は14.1%ほどしか感じていない。それに対して《翼をください》などの歌には、6割弱が親しみを感じているが、日本の音楽らしさについては1割弱しか感じていない。高校生に親しみやなつかしさを感じる音楽はあるが、それらの歌に「日本的な」という意味での音は持っていないようである。

## TOPIC 3

## 日本を感じるとき

(⇒p.20)

— 京都・和服・茶道に日本を連想 —

### ■「日本」または「日本人」を感じるときはどんなときか

(%)



「とても」＋「かなり」  
感じる割合

「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸能に触れるとき」に8割前後が、「温泉に入ってこたつでのんびりするとき」「スポーツの試合で『ニッポン、ニッポン』と叫んで応援するとき」に6割が「日本」や「日本人」を感じている。高校生は、自然な形で日本を意識しているようである。

## TOPIC

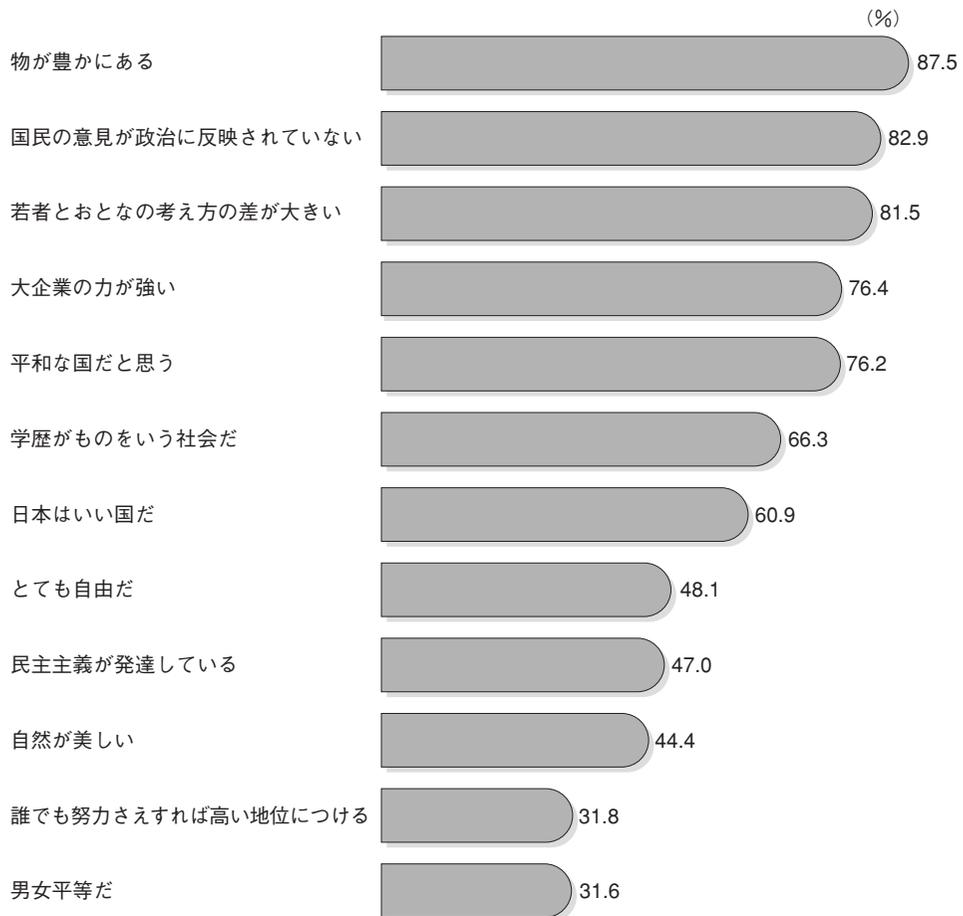
## 4

## 日本のイメージ

—物が豊かで平和だが、自由で民主的な国とはいえない—

(⇒p.33)

## ■日本のイメージ



「まったく」+「かなり」そう思う割合

日本のイメージとして「物が豊か (87.5%)」で「平和な国 (76.2%)」だと思うが、「とても自由」で「民主主義が発達している」とは5割が思っていない。さらに「国民の意見が政治に反映されていない」と思う割合は8割強に達する。高校生は日本に対して明るいイメージを持っていないことがわかる。

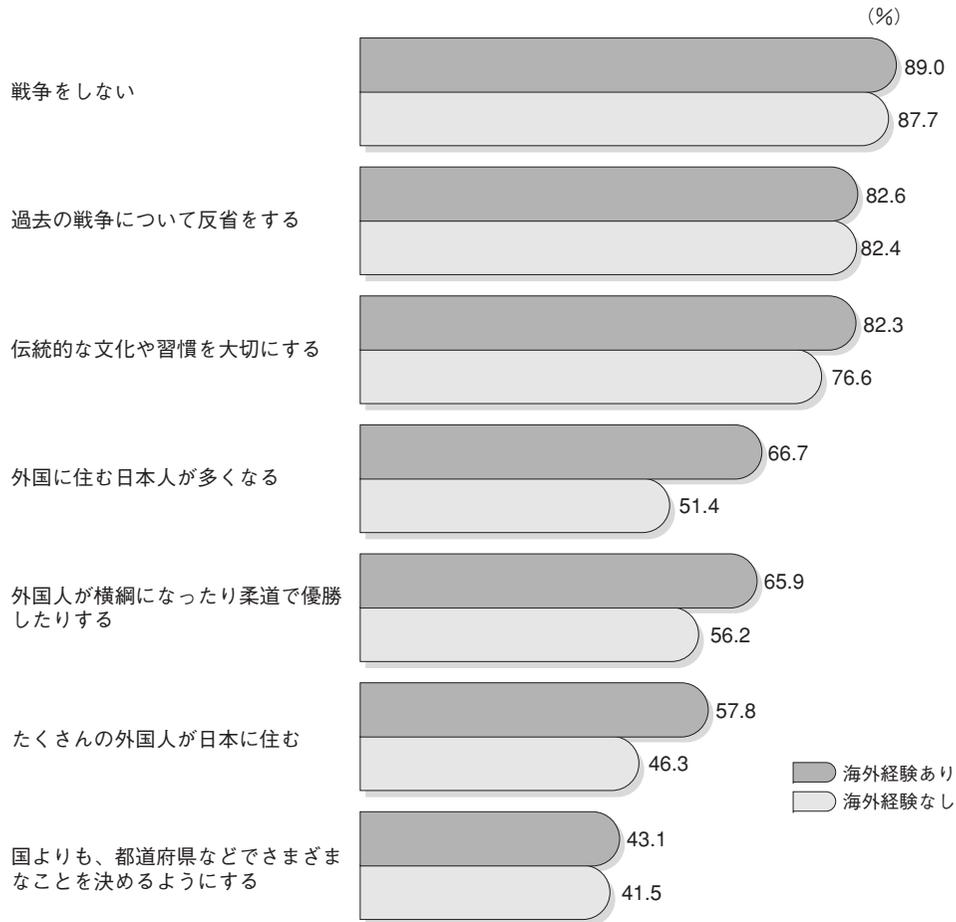
## TOPIC 5

## 海外経験

—海外経験者は国際的な感覚を持つ—

(⇒p.42～43)

## ■日本に関すること × 海外(外国)経験の有無

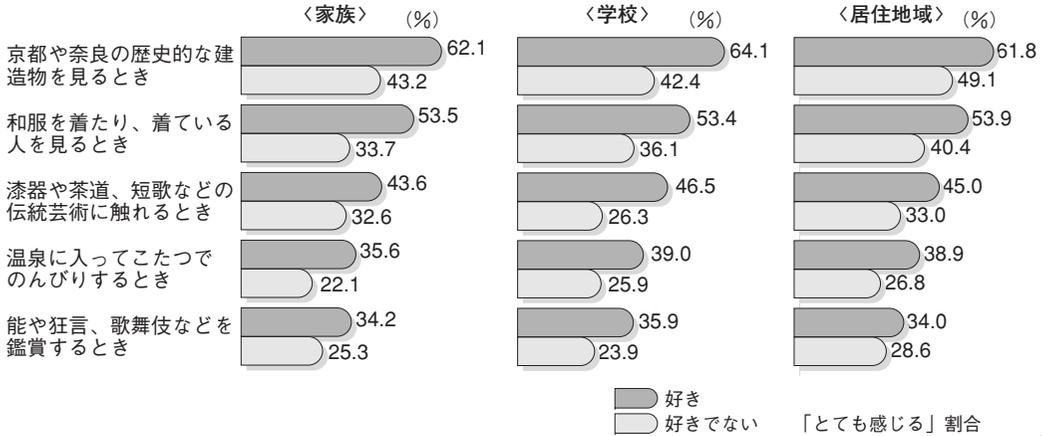


「賛成」 + 「どちらかといえば賛成」の割合

海外(外国)経験者は31.0%を占める。そして海外経験者は「外国に住む日本人が多くなる」や「たくさんの外国人が日本に住む」など今後の国際的な交流についての考え方に肯定的である。高校生にとって海外経験は外国への視野を広げ、日本のことについても考えるなどの態度形成に強い影響を持つように思われる。

## TOPIC 6 日本(人)を意識するとき (⇒p.24 ~ 25) — 集団にコミットする高校生が鍵 —

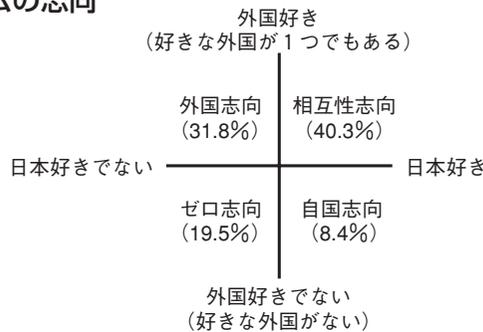
### ■ 日本・日本人を意識するとき×集団への愛着



家族や学校、地域にコミットしている高校生は日本を意識している。その他、部活動やクラスにコミットしている生徒も日本を感じている。集団にコミットしていることが健全なナショナル意識の土台に存在するのであろう。

## TOPIC 7 日本と外国 (⇒p.46) — 日本が好きなのは外国も好き —

### ■ ナショナリズムの志向



「日本が好き」と「外国が好き」との関連を確かめると「日本も好きだが、外国も好き」が40.3%、「外国が好きだが、日本は好きでない」が31.8%、「日本も外国も好きでない」が19.5%、「日本は好きだが、外国は好きでない」は8.4%である。「外国嫌いでも日本のみが好き」という排他的な感覚をとる者が少ないのが特徴である。

まとめ

## グローバル化の中で地域性を育む

グローバルな時代を反映して、高校生たちが国際的な感覚を持っているのが目につく。それと同時に、日本にこだわりを持たないのが特徴的だった。現在のようにグローバル化された情勢のもとでは、それぞれの国が交流の少ない中で、その国の固有な文化を持つというかつての国意識は崩壊していく。20世紀型の国家に基礎をおいた「ナショナル」なパラダイムは有効性を失っている。だからといって、グローバル化されても、ナショナルなものが、完全に喪失することはないように思われる。

グローバル化を認めた上で、独自性を発揮する。それが21世紀型のナショナルなもののパラダイムであろう。こうしたとき、ナショナルなものの原点に国というより、我が住む町を出発点とするのが現実的である。「我が住む町」に愛着が持てれば、その延長線上に国意識も成り立つ。しかし、高校生が町と無関係に生きているのが現状であろう。

地域に根を持たない状態のまま、国意識のみを育てることはできない。そうした意味では、高校生の地域性の欠如がナショナルを考えるときの最も大きな問題のように思われる。

## はじめに

## 「ナショナル」をどう捉えるか

深谷 昌志

## ●ニッポンについての意識が変わる

このモノグラフは、高校生にとっての「ナショナルなもの」を分析しようとしている。

モノグラフの研究が始まってから20年以上が過ぎようとしている。この間、さまざまなテーマを分析の対象としてきた。調査の実施が難しいと思われている調査やタブー視され扱いにくいテーマの調査も実施してきた。そうした中でも、ナショナリズムの問題を正面から扱うことには躊躇する気持ちが強かった。

研究会の例会のとき、若い同人から、高校生の日本意識が変わってきているという問題提起がなされた。具体例として、日韓共同の形で開催されたワールドカップでの若者たちの熱狂ぶりが問題になった。若い世代が顔一面に装飾をこらし、日の丸をふりながら、「ニッポン、チャチャチャ」と声援を送る。底抜けに明るいニッポンで、伝統的な日本と断絶しているものがあるのではという問題提起である。

この原稿は、2003年8月に執筆している。7月に世界水泳選手権が開催され、北島康介が100と200メートルの平泳ぎで優勝した。彼に限らず、選手たちには国際競技に出場する緊張感がみられるものの、競泳後、「楽しかった」と、楽しんでいる姿が印象的だった。かつての選手のように、日の丸の重圧に押しつぶされる気配がみられないのである。

2003年の春、ジャイアンツの松井秀喜がニューヨーク・ヤンキースに入団した。シアトル・マリナーズのイチローやロサンゼルス・ドジャースの野茂英雄がそうであるように、松井も、もっとレベルの高い野球の世界があるから、大リーグにチャレンジするのであって、日米という意識の差は少ないのではないかと。

同じように、サッカーの中田英寿や中村俊輔も、ステップ・アップを目指してのヨーロッパ行き

で、<sup>まなじり</sup> 眦を決しての海外行きではないように思われる。

そうした事例が示すように、日本と外国とを区切る壁の背が低くなり薄くなって、少なくとも、外国との行き来に抵抗がなくなった。一口に言って、グローバリゼーションの流れの中で、高校生の日本意識も変わってきたのではないかと。

## ●ウルトラ・ナショナリズムとは何だったか

敗戦から半世紀が経ち、戦前のウルトラ・ナショナリズムは歴史の中に姿を消し、極端な国家主義がもたらした傷跡も風化してきた。なにしろ、戦後生まれの世代がほどなく還暦を迎える状況である。そうだとすれば、戦前は遠い昔の話で、風化もやむを得ない気持ちがする。

しかし、このところの世の中の動きをみていると、とうに克服したはずのウルトラ・ナショナリズムという名の亡霊が生き返りそうな気配を感じる。十分な論議をすることなく、ウルトラ・ナショナリズムを密封したことが、復活に連なるような思いになる。

そこで改めて、ウルトラ・ナショナリズムを考えてみると、日本に限らず、ウルトラ・ナショナリズムには共通の特性がみられる。なにより、他国と対比させて、自国の文化の独自性を強く主張するところに特色がある。しかも、ウルトラの程度が強まるにつれて、かつての日本が主張した「万世一系の神国」やナチズムの「ゲルマン民族の血と土地の優越性」のように、非合理的なドグマに基づいた独自性が構築される。

そうした過程で、体制内の批判派を圧迫し、ドグマに対する体制的な凝縮性を高める。そして、ドグマを犯すことのできない神話にまで高めると同時に、ドグマを信じない近隣諸国の侵略を試みる。

このようにウルトラ・ナショナリズムの土台

に、自国文化に対する独善的な優越性の主張がある。しかし、現在のように、メディアの発展が進み、地球規模で情報が錯綜する社会になると、自国文化をドグマのように主張するのは困難になる。

実際に、現代のウルトラ・ナショナリズム社会といえば、最近までのイラクや北朝鮮を連想する。これらの国で、神経質なまでに情報遮断を試みていたのは周知の事実であろう。換言するなら、密接な交流のある状況では、自国だけの優越性を独断的に主張するのは困難になる。

そう考えると、これから先、新しい形のウルトラ・ナショナリズムが生まれることはあるにせよ、伝統型の復活は少ないのではないかと思われる。

## ●交流を通して偏見が氷解

筆者が「ナショナル」を痛感したのは、いずれも外国での体験である。30年ほど前、初めてソウルを訪ねた。正直に言って、その頃、筆者の韓国感情は、多くの日本人がそうであったように決してよいものではなかった。日本人とみると、戦前の政策に対する贖罪を声高に求め、反日意識からことあるごとに日本人に敵視する態度をとっていた。

しかし、ソウルで出会った多くの韓国人は人間的で、反日的な態度をみせないようにしてくれた。そうしたつきあいをしているうちに、韓国人に対する緊張した警戒心が薄れ、反韓国感情が氷解するのを感じた。それと同時に、ソウルの友人たちも、筆者を通して、日本人観が変わったと語ってくれた。

それまで、韓国料理といえば、焼肉と辛いキムチと思っていた。しかし、キムチは辛いものでなく、さまざまな味があるのを知った。同じように、焼肉の他に、多くの料理があり、それらがとてもおいしいのがわかった。

これまで韓国には20回以上訪問した。そして、韓国に対する理解が深まるのを感じた。現在では、韓国へ行っても焼肉はほとんど食べないが、韓国料理は大好きになった。それと同時に、韓国には刺身、そばやうどん、海苔などの和食によく似たものがあり、和食の独自性とは何かと考えるようになった。

韓国での体験を通して、交流の必要性を感じた。情報が遮断されると、偏見が偏見と知らずに強化される。しかし、交流が深まると、他国に対する無知に気がつく。春に慶州を訪ねたとき、桜が満

開だった。桜文化を日本独自とっていたが、韓国にも桜文化があった。同じように、歌舞伎や能のような文化、あるいは、仏道や寺も、韓国に同じようなものがあり、というより、それらは中国を発祥の地として、朝鮮半島を経由して、日本にもたらされた。中国を母とするなら、韓国は兄、日本は末弟という構造になる。

## ●自分にとっての「内なる日本」

アメリカを訪ねると、自分とは何かと考えさせられることが多い。ソウルでは韓国文化との対比で、「非韓国＝日本」という構図で、自分を捉えることができる。しかし、アメリカだと、それぞれ多様なルーツを持つ人の社会なので、他の文化を尊重するだけでは自分の座が生まれてこない。カナダやメキシコ、イタリアやドイツなどをルーツにする人たちに混じると、しっかりと自分を持っていないと、自分が空虚になり、自我を保てないのである。

海外から帰国すると、ナショナリストになるといわれる。たしかに内なる自分を確保できないと、自分を失ってしまう。

筆者自身、海外に行くようになってから、自分作りの手段として、浮世絵や歌舞伎、日本画などに親しむようになった。しかし、東京の下町育ちの筆者は、歌舞伎を内なるものと感じることはできなかった。そして、自分にとって、ゆっくりくつろげ、自分のものと感じられるのが東京の下町文化と思うようになった。落語やうなぎ料理やそば、三社祭などのふれあいに自我を見いだそうとしている。

もちろん、身びいきに考えても、落語が日本文化を代表するとは思えない。しかし、東京の上野で生まれた筆者にとっては、下町文化が自分にとっての日本のように思う。

そうだとすると、それぞれがその人なりの日本を持っていて当然で、信州育ちの人は信州の自然や味に、大阪育ちの人は食い倒れや通天閣、六甲おろしに日本を感じるのかもしれない。

世代や出生地により、それぞれが日本を持っているのではないか。それが、その人にとっての日本となる。つまり、それぞれの人によって内なる日本像が異なる。そうだとすれば、現代の高校生も、高校生なりに自分を内から支えるものがあるのではないか。本号では、そうした高校生の日本を探ろうと思った。

## ●調査対象校の特性

大野 道夫

調査対象校の特性は表1に示されるとおりである。やはり微妙な問題なので、調査対象校の確保に困難な面があった。性別は男子51.8%、女子48.2%、学年別は1年43.5%、2年56.5%である。なお全体の13.7%が国際科か英語科であり、一般

の高校生より外国への関心が高い特性が考えられる。また調査時点は本年2月下旬～3月上旬だが、北朝鮮の核問題、イラクへの査察と3月17日に開戦した戦争などの問題があり、これらが高校生の意識に影響を与えた可能性がある。

■表1 調査対象校の特性

				(人)		
				全 体	学 科 別	
A校	関東	公立	256	普通科 (256)		
B校	関東	公立	576	普通科 (435)	国際科 (141)	
C校	中部	公立	759	普通科 (682)	英語科 (77)	

## 第1章

## 「日本の歌」架空説？

西島 央

## 1. はじめに

しばらく前の話だが、CATVの歌番組で、ある女性ロック歌手がインタビューに「これからもロックをやっていききたい」そして「日本的なものを大切にしていきたい」と答えているのを見たことがある。彼女の言う「日本的なもの」とはいったい何だろうか。

学習指導要領には、音楽科の基本方針の1つとして「我が国の伝統的な音楽文化を味わい尊重する態度の育成」が示されている。単に楽曲を知識として知るだけでなく、「日本の音楽らしさ」「なつかしさ」「親しみ」といったものを感じ取らせることで、楽曲をアイデンティティのよりどころに、日本という国のまとまりをつくろうとする意図があると考えられる。そして「日本の伝統的な音楽」としては、小・中学校では、歌唱共通教材として《ふるさと》や《赤とんぼ》といった唱歌・童謡が示され、高校では、雅楽などの古典音楽や各地域に伝承されている民俗音楽がそれにあたと示されている。

そうか、彼女が大切にしたいのはこういう楽曲のもつ特徴だったのか…。だがしかし、彼女が「日本的なもの」として挙げたのはサザンオールスターズだったのだ。ご多分にもれず、《ふるさと》や《赤とんぼ》に「日本の音楽らしさ」「なつかしさ」「親しみ」を感じてしまう筆者には、この回答は意外だった。なぜなら、サザンオールスターズに「親しみ」こそ感じるものの、「日本の音楽らしさ」を感じたことはなかったからだ。

たしかに、歌は、それ自体のみで存在するわけではなく、作り手や送り手と受け手がいてはじめて成立する。歌の出自や作り手の意図どおりに受け止められたり、期待された役割を果たしたりするとは限らない。むしろ受け手の多様な歌い方や感じ方—消費のしかた—によって歌の果たす社会的役割は大きく左右される。そう考えれば、筆者

と彼女でこのようなズレがあってもかまわないのかもしれない。

だが、ここで2つの疑問が生じる。第一に、筆者が「日本の音楽らしさ」をもつと思う歌に感じるような「なつかしさ」や「親しみ」を、彼女は同じようにサザンオールスターズの歌に感じているのだろうか？ つまり、「日本の音楽らしさ」といったとき、それは常に「なつかしさ」や「親しみ」を伴っているものなのだろうか？ 第二に、そもそも、日本人のアイデンティティのよりどころとなるような、確固たる「日本の音楽らしさ」「日本的なもの」をもった「日本の歌」は存在するのだろうか？

本章では、このような問題関心から、さまざまな歌が高校生にどのように消費されているかを検討し、それをもとに、「日本の歌」や「日本的なもの」について考えていきたい。具体的には、伝統的な歌、スタンダードな歌、外国の歌、最近のJ-POPの4つのジャンルから3、4曲ずつ挙げて、それぞれについて「日本の音楽らしさ」「なつかしさ」「親しみ」を感じるかどうかを答えてもらったその回答の特徴を考察する。なお、表1-1は回答結果をまとめたものであるが、「この歌を知らない」と回答した場合以外は複数回答可としたので、和が100%にならない。以下の各節では「この歌を知らない」と回答したものを除いて分析を進める。

2. 「なつかしさ」や「親しみ」を感じない  
伝統的な歌 (図1-1)

伝統的な歌として、戦前から学校音楽で歌われてきている《ふるさと》と《蛍の光》、日本古来の音楽として学校音楽に取り入れられている《越天楽今様》と《さくらさくら》の4曲がどのように感じられているかみていこう。

《さくらさくら》の76.9%から《蛍の光》の39.0%まで、いずれの歌も「日本の音楽らしさ」を感

じる割合が高く、「日本の伝統的な音楽」として認知されていることがわかる。しかし、「なつかしさ」や「親しみ」を感じる割合は、《さくらさくら》が10%台、《越天楽今様》は3%ほどと非常に低く、アイデンティティのよりどころになっているとは言い難い。《ふるさと》は、日本の原風景の代表曲らしく、「なつかしさ」は40.7%と高いが、「親しみ」は16.5%しかない。「なつかしさ」「親しみ」ともに30%前後で三角形のバランスが最もよかったのは《蛍の光》だが、この歌が外国曲であることは意外と知られていないまま、

古くから卒業式などで歌い継がれている歌として、すっかり日本人のアイデンティティのよりどころになってしまっているのではないだろうか。

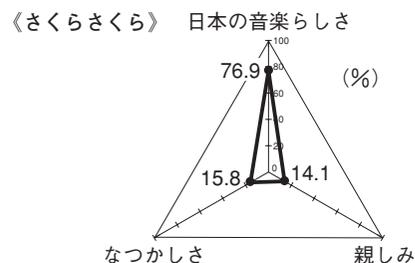
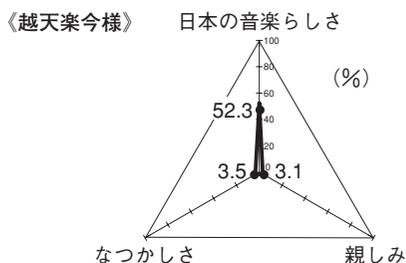
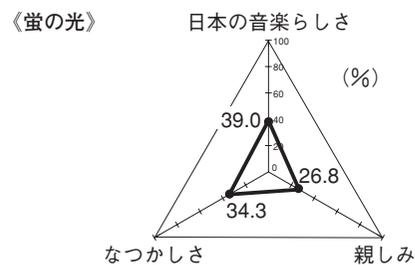
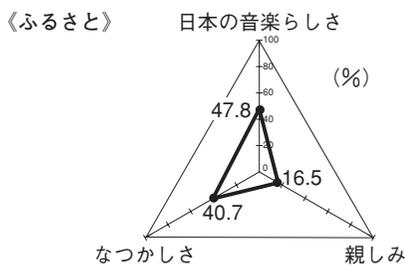
図表にはまとめていないが、日本観に関する音楽以外の視点との関係を見ると、「みそ汁と日本」の結びつきを感じる人の方が、「日本の音楽らしさ」を感じたり「なつかしさ」を感じたりする割合が、また国際的な試合で「応援歌を歌いたい」人の方が、「なつかしさ」や「親しみ」を感じる割合が、いずれも10ポイント前後高かった。「みそ汁と日本」の結びつきを感じる人や国際的な試

■表1-1 さまざまな歌の感じ方

	(%)							
	ふるさと	蛍の光	越天楽今様	さくらさくら	翼をください	北の国から	アイダ	大きな古時計
この歌を知らない	14.3	9.5	41.5	3.2	1.5	9.4	32.3	1.1
日本の音楽らしさを感じる	47.8	39.0	52.3	76.9	8.2	16.4	5.5	8.5
親しみを感じる	16.5	26.8	3.1	14.1	57.9	40.9	46.4	53.2
なつかしさを感じる	40.7	34.3	3.5	15.8	40.9	39.7	11.4	52.3
	いとしのエリー	負けないで	いい日旅立ち	LOVE LOVE	カントリーロード	川の流れるように	First Love	
この歌を知らない	12.5	4.8	23.6	11.5	7.1	2.9	7.2	
日本の音楽らしさを感じる	5.3	5.3	19.7	3.8	3.5	56.3	4.0	
親しみを感じる	56.0	63.8	21.7	64.7	55.3	15.6	74.0	
なつかしさを感じる	25.0	29.9	37.6	21.8	45.5	34.4	13.6	

複数回答

■図1-1 伝統的な歌の感じ方



合で「応援歌を歌いたい」人にとっては、伝統的な歌が「日本的なもの」という記号として機能していることをあらわしているといえる。

一般に伝統的な歌には、「日本の音楽らしさ」は感じるものの、「なつかしさ」や「親しみ」を感じる割合は低い。日本古来の歌や古くから歌い継がれている歌として認知レベルで受け止められているにすぎず、「なつかしさ」や「親しみ」といった心をつなぐような感じ方はされていないことだろう。

### 3. 「日本的なもの」を背負って立てないスタンダードな歌 (図1-2)

スタンダードな歌として、60年代の《翼をください》、70年代の《いい日旅立ち》、80年代の《北の国から》、美空ひばりの《川の流れるように》の4曲がどのように感じられているかみていこう。

《翼をください》の40.9%から《川の流れるように》の34.4%まで、いずれの歌も「なつかしさ」を感じる割合が高く、いわゆる「なつメロ」としてすっかり定着していることがわかる。また、《翼をください》と《北の国から》は、「親しみ」を感じる割合も57.9%と40.9%と高い。《翼をください》は合唱曲として歌われるほか、フランスW杯の時の日本代表の応援歌だったし、《北の国

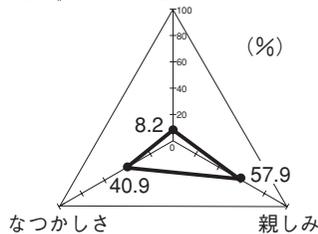
から》はテレビの北海道関係のシーンなどでよく使われるなど、現在でもふだんから露出が高いからだろう。一方、「日本の音楽らしさ」を感じる割合は全体に低く、歌と北海道が連動している《北の国から》でも16.4%と低い。しかし、《川の流れるように》は56.3%と、《さくらさくら》に次ぐ高い値だった。歌詞や曲調からは日本らしさを連想させるものがない歌だが、美空ひばり＝演歌と捉えて「日本の音楽らしさ」があると認知しているのだろうか。

いずれも露出が高い歌だからか、友だちとCDやMDなどの貸し借りをしたりJ-POPや洋楽の話をしたりする人としらない人とは、前者の方が数ポイント「なつかしさ」や「親しみ」を感じる割合が高かった。ここに挙げた歌を直接聴いているかどうかはわからないが、ふだんから歌に接する機会の多い人にとっては、スタンダードな歌が「なつかしさ」や「親しみ」を強く感じる歌となっているといえる。

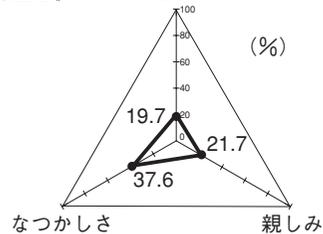
一般にスタンダードな歌には、「なつかしさ」を強く感じ、「親しみ」もけっこう感じているが、「日本の音楽らしさ」はあまり感じていない。「なつかしさ」や「親しみ」といった感じ方をしており、これらの歌を知っている人々の心をつないでいるが、「日本的なもの」を背負って立って人々の心をつないでいるわけではないようだ。

■ 図1-2 スタンダードな歌の感じ方

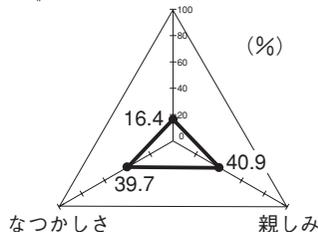
《翼をください》 日本の音楽らしさ



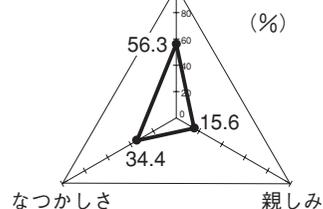
《いい日旅立ち》 日本の音楽らしさ



《北の国から》 日本の音楽らしさ



《川の流れるように》 日本の音楽らしさ



#### 4. 《蛍の光》になれない外国の歌 (図1-3)

外国の歌として、昨年のW杯で日本の応援歌だった《アイダ》、童謡として広まっていたのに加えて、昨年平井堅が歌ってヒットした《大きな古時計》、映画「耳をすませば」の主題歌となったほか、学校音楽でもよく取り上げられている《カントリーロード》の3曲がどのように感じられているかみていこう。

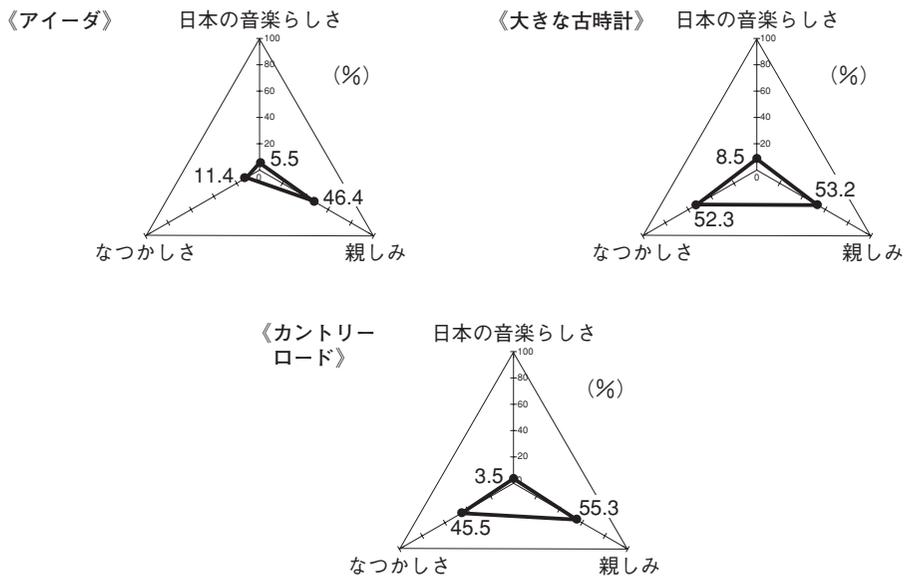
《カントリーロード》の55.3%から《アイダ》の46.4%まで、いずれの歌も「親しみ」を感じる割合がとても高く、国境線を越えて広く親しまれている様子うかがえる。また《大きな古時計》と《カントリーロード》は、「なつかしさ」を感じる割合も52.3%と45.5%と高い。どちらも幼稚園や小学校の頃から歌う機会が多いので、「なつかしさ」も感じるようになっていけるだろう。一方、「日本の音楽らしさ」を感じる割合は、高くても《大きな古時計》の8.5%と全体に非常に低い。外国の歌と認知されているのか、音楽的な特徴を感じ取っているのか、それとももっと別の「日本的なもの」ではない何かを感じ取って

るのだろうか。

どの歌も音楽系の部活動に入っている者の方が「親しみ」を感じる割合が10ポイントほど高かった。学校音楽と親和性が高いことから、部活動で演奏した経験があるのかもしれない。また、「みそ汁と日本」の結びつきを感じる者や国際的な試合で「応援歌を歌いたい」者の方が「親しみ」や「なつかしさ」を感じる割合が数ポイント高かった。こういった生徒は、《アイダ》ならサッカー日本代表というように、歌そのものより歌の背後にあるものに「親しみ」や「なつかしさ」を感じ取っているのではないだろうか。

全般に外国の歌には、「親しみ」を強く感じ、「なつかしさ」も感じているが、「日本の音楽らしさ」はほとんど感じていない。スタンダードな歌と似た感じ方だが、消費のしかたに違いがみられることから、「親しみ」や「なつかしさ」の質が違うのではないか。つまり、スタンダードな歌は共有しているという感じ方だが、外国の歌は個別の経験のなかで感じているように思われるのだ。これらの外国の歌は、《蛍の光》のように「日本の音楽らしさ」を感じるようにはならないのかもしれない。

■図1-3 外国の歌の感じ方



## 5. 「日本の歌」ではない(?) 最近のJ-POP (図1-4)

最近のJ-POPとして、80年前後の《いとしのエリー》、90年代前半の《負けないで》、90年代後半の《LOVE LOVE LOVE》、2000年代になってからの《First Love》の4曲がどのように感じられているかみていこう。

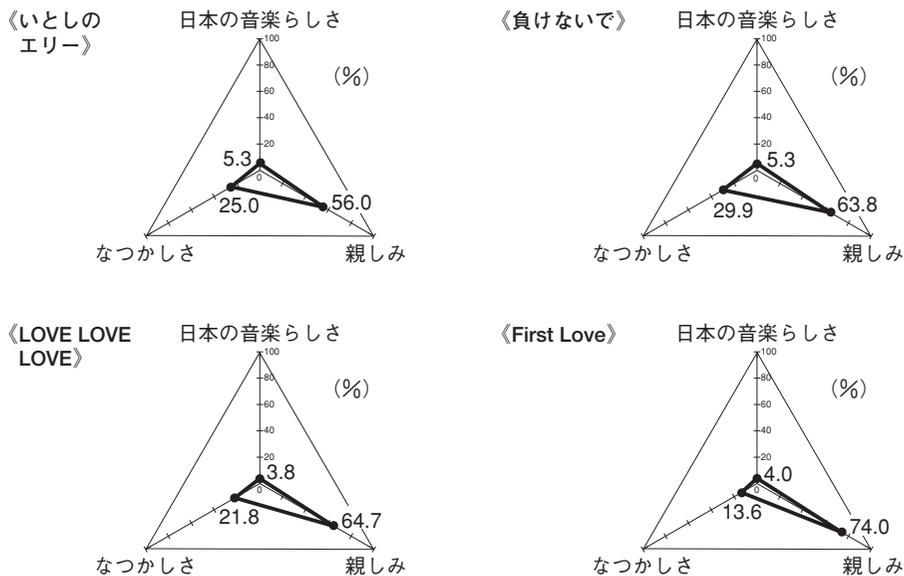
《First Love》の74.0%から《いとしのエリー》の56.0%まで、いずれの歌も「親しみ」を感じる割合が非常に高く、高校生にとってJ-POPがとても身近な存在であることがわかる。一方、「なつかしさ」は《First Love》にはまだそんなに感じていないし、それ以外の歌でも2~3割の者しか感じていない。また新しい歌ほど「親しみ」が増しているのに対して、「なつかしさ」は全体に古い歌ほど強く感じる傾向にあり、時代感覚に優れているのに驚かされる。「日本の音楽らしさ」はどの歌にもほとんど感じていない。しかも、スタンダードな歌と比べて「日本の音楽らしさ」を感

じる割合がずいぶん低いばかりか、外国の歌と同程度かそれ以下にしか「日本の音楽らしさ」を感じている者がいないのである。J-POPは「日本の歌」ではないのだろうか。

カラオケで歌ったりテレビで聴いたりする機会が多いからか、どの歌も、友だちとCDやMDなどの貸し借りをしたりJ-POPや洋楽の話をしたりする者の方がしない者より「親しみ」を感じる割合が10ポイント前後高かった。また、国際的な試合で「応援歌を歌いたい」者も、「親しみ」を感じる割合が10ポイント前後高かった。「日本的なもの」とは関係なく、大衆文化をより楽しもうとする者がJ-POPに「親しみ」を感じているといえる。

全般に最近のJ-POPには、「親しみ」を非常に強く感じているが、「なつかしさ」はあまり感じず、「日本の音楽らしさ」はまったく感じていない。大衆文化として消費されているようすからは、彼らの耳を今楽しませてくれさえすれば、「日本の歌」であるかどうかなどということは関係ないにちがいない。

■ 図1-4 最近のJ-POPの感じ方



## 6. 「日本の歌」は存在しないのか？

さて、以上の分析をもとに、冒頭にたてた疑問について考察してみよう。第一の疑問について分析結果を整理すると、「日本の音楽らしさ」を感じる伝統的な歌には「親しみ」を感じていなかった。「なつかしさ」を感じるスタンダードな歌には「日本の音楽らしさ」を感じていなかった。「親しみ」を感じる外国の歌には「日本の音楽らしさ」を感じていなかった。同じく「親しみ」を感じる最近のJ-POPには「なつかしさ」も「日本の音楽らしさ」も感じていなかった。日本人のアイデンティティのよりどころとなるような「日本の音楽らしさ」「なつかしさ」「親しみ」をそろって感じる消費のされ方をしている歌はほとんどなかったと言っていい。つまり、「日本の音楽らしさ」とは常に「なつかしさ」や「親しみ」を伴っているわけではないのだ。

このことをふまえて第二の疑問について考えると、歌の出自や作り手の意図で「日本の音楽らしさ」や「日本的なもの」をもった「日本の歌」が存在するわけではないと考えられよう。受け手の消費のしかた次第で、外国の歌でも《蛍の光》のように「日本の音楽らしさ」を感じている歌もある。日本の音楽らしい特徴はなくても、美空ひば

りの歌だというだけで《川の流れるように》には「日本の音楽らしさ」を感じている。日本人がつくった歌でも、最近のJ-POPには「日本の音楽らしさ」を感じていない。つまり、「日本の音楽らしさ」や「日本的なもの」は、受け手の多様な歌い方や感じ方—消費のしかた—の積み重ねで歴史的につくりあげられ、変化していくものなのではないだろうか。

よく考えれば、今私たちが「日本の伝統的な音楽」と呼んでいる雅楽や民俗音楽は、明治～大正期にはいったん排除され、昭和初期頃から見直され始めたものだし、唱歌・童謡にいたってはたかだか百年前に作りあげられたものにすぎない。そう考えると、確固たる「日本の音楽らしさ」「日本的なもの」などないのかもしれない。

では、確固たる「日本の音楽らしさ」「日本的なもの」がないということは、「日本の歌」も存在しないということなのだろうか。いや、きっとそうではないだろう。それぞれの時代を生きる日本人が消費していく歌が「日本の歌」なのだ。そして、その時々々の歌こそが「日本の音楽らしさ」「日本的なもの」をもった歌なのだ。だから、冒頭の女性ロック歌手は、今の日本のロック界をリードするサザンオールスターズに「日本的なもの」を見だし、そういったものを大切にしたいと考えたのではないだろうか。

## 第2章

## 食べ物とスポーツ

大野道夫

## 1. 食べ物の「ナショナルリティ」

ある食べ物と特定の国との結びつきをきくと、表2-1に示されるように、「とても感じる」＋「かなり感じる」について、「キムチと韓国」88.5%、「みそ汁と日本」85.9%がともに8割台であった。「みそ」という語は朝鮮語の「蜜祖」から来たといわれるが、現代の高校生においては、キムチとみそ汁が最も「ナショナル」な食べ物のようであった。

なお、その他の食べ物では、「カレーとインド」68.1%、「ピザとイタリア」67.3%、「ハンバーガ

ーとアメリカ」56.1%、「コーラとアメリカ」49.5%、「ラーメンと中国」24.6%の順で、特定な国との結びつきを感じるようであった。

このように、アメリカとハンバーガー、コーラとの結びつきも約半数の高校生が感じており、どの食べ物も高校生の意識の中でグローバル化されているといえないようであった。なお、「ラーメンと中国」の結びつきを感じている高校生は約4分の1で最も少なかったが、これはさまざまなラーメンが日本で考案され、作り出されており、グローバル化というよりはラーメンの日本化が進んだため、と思われる。

■表2-1 食べ物と特定の国との結びつき

	(%)			
	とても感じる	かなり感じる	あまり感じない	ぜんぜん感じない
ハンバーガーとアメリカ	27.0	29.1	32.9	10.8
コーラとアメリカ	23.3	26.2	35.0	15.3
ピザとイタリア	34.1	33.2	23.6	9.0
カレーとインド	43.9	24.2	23.4	8.4
みそ汁と日本	60.3	25.6	9.4	4.5
キムチと韓国	64.4	24.1	7.8	3.5
ラーメンと中国	10.0	14.6	47.9	27.3

## 2. スポーツ

### 1) ナショナルチームの範囲

日本での野球、サッカー、そして相撲などの格闘技でも、多くの外国人選手の活躍がみられている。また野茂英雄、松井秀喜、中田英寿などの外国での活躍に、多くの日本人は熱いまなざしを向けている。そのようななかで、高校生は「日本のチーム」についてどのように考えているのだろうか？

「野球やサッカーなどのチームが、オリンピックのような国際的な試合に出るときなど」についてきいてみよう。まず外国人の監督、選手についてきくと、表2-2にみられるように、「日本のチームの監督に外国人がなってもいいと思う」は78.6%で、約8割はチームが強くなるなら外国人監督を認めているようである。ただ実際に試合をする選手となると「日本のチームに外国人の選手が入ってもいいと思う」は58.3%で、2割減った約6割の高校生が、外国人選手の日本チームへの参加を認めていた。またその内訳は、「何人でも入ってよい」が26.9%なのに対し、「2、3割くら

い」が36.6%、「1割くらい」が31.0%であり、多くの高校生が3割以下の加入にとどめたいようであった。

次に日本人選手について聞くと、「日本の選手も、どんどん外国で活躍してほしい」と思う高校生は8割以上(83.2%)で、多くの高校生が日本人選手の海外への進出に賛成していた。ただそれに対して、「外国で活躍している日本選手も、オリンピックなどの国際的な試合では日本のチームにもどってきてほしい」と思う高校生も、7割以上(74.9%)に達していた。このように高校生は、日本人選手の海外のチームなどでの活躍には違和感はないものの、いざ国際的な試合では日本チームの一員としてもどってきてほしい、という期待を日本人選手に対して持っているようであった。

また応援についてみると、「個人競技で、日本人と外国人の試合で外国人を応援したことがある」が25.7%なのに対し、「団体競技で、日本のチームと外国のチームの試合で外国を応援したことがある」は18.9%であった。このようにサッカーのベッカムなど、人気のある外国人選手は増えているが、8割前後の高校生は日本人と日本チームを応援しているようであった。

■表2-2 日本のチームの範囲 × 性

	(%)		
	全体	男子	女子
日本のチームの監督に外国人がなってもいいと思う	78.6	75.7	81.6
日本のチームに外国人の選手が入ってもいいと思う	58.3	49.6	67.5
外国人の選手がどれくらい入ってもいいと思うか※			
何人でも入ってよい	26.9	32.8	22.6
半分くらい	4.4	5.1	3.9
2、3割くらい	36.6	33.6	39.8
1割くらい	31.0	28.4	33.7
日本の選手も、どんどん外国で活躍してほしい	83.2	82.9	83.6
外国で活躍している日本選手も、オリンピックなどの国際的な試合では日本のチームにもどってきてほしい	74.9	74.2	75.7
団体競技で、日本のチームと外国のチームの試合で外国を応援したことがある	18.9	23.5	14.0
個人競技で、日本人と外国人の試合で外国人を応援したことがある	25.7	25.0	26.5

※ 以外は複数回答

## 2) 応援の方法

次に「オリンピックなどの国際試合」での応援の方法についてみていくことにしたい。

まず声を上げてすることについてみると、表2-3に示されるように、「みんなで日本選手の名前を叫ぶ」（「とてもしたい」＋「かなりしたい」、以下同様）が73.3%、「みんなで『ニッポン!』と叫ぶ」が70.5%、また「応援歌を歌う」が69.3%でともに約7割であった。このように「ニッポン!」と国名を叫ぶことは、選手名を叫ぶことや応援歌を歌うことと同じくらいに、こだわりなく「したい」ことのものであった。なお、「ウエーブをする」は62.9%だった。

「日の丸」についてみると、「日の丸の旗を持って応援する」が51.3%、「日の丸を顔や腕に描く」が38.5%、「日の丸をアレンジしたTシャツやタオルなどを身につける」が36.4%だった。このように日の丸に関連した応援を「したい」高校生は、「ニッポンと叫ぶ」より2～3割少なくなって、4～5割であった。

最後に「君が代」については、「試合の前に起立して、みんなで『君が代』を歌う」が31.0%、「試合の前にタレントなどが『君が代』を歌う」が30.2%で、ともに「したい（してほしい）」と

思う高校生は、さらに減って約3割であった。

このような傾向は自由回答にもあらわれている。「君が代」から「連想すること」は、

- ・肯定的イメージ8.6%…日本の代表（的な歌）、（日本の）シンボルなど
- ・否定的イメージ25.1%…暗い、古い、（歌詞が）わからない、歌いにくい、など
- ・その他56.9%…国歌（である）、天皇、卒業式などの儀式、など

となっており、肯定的イメージよりも、否定的イメージの方が強い（無回答は9.4%）。なお否定的イメージには、「戦前のイメージソング」などの政治的問題の他に、「歌詞の意味が謎だし、今の社会に合っていないし、歌うと気分が暗くなる」「テンポがおそすぎる、あれじゃ試合前にきいたらモチベーションが下がる」などの、歌（歌詞とメロディー）としての問題を指摘するものが多くみられた。

なお、「外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する」は約8割（77.5%）で、かなりフェアな応援の傾向がみられた。それに対して「日本に不利な判定にブーイングする」は半分弱（45.1%）、「ミスジャッジでも日本に有利な判定には拍手する」は約3割（29.2%）であった。

■表2-3 応援の方法

	(%)			
	とても したい (してほしい)	かなり したい (してほしい)	あまり したくない (してほしくない)	ぜんぜん したくない (してほしくない)
試合の前に起立して、みんなで「君が代」を歌う	8.7	22.3	43.1	25.5
試合の前にタレントなどが「君が代」を歌う※	7.4	22.8	39.9	29.5
日の丸の旗を持って応援する	15.5	35.8	34.1	14.5
日の丸を顔や腕に描く	9.7	28.8	39.1	22.3
日の丸をアレンジしたTシャツやタオルなどを身につける	9.2	27.2	41.7	21.8
みんなで「ニッポン!」と叫ぶ	33.2	37.3	21.4	7.8
みんなで日本選手の名前を叫ぶ	33.7	39.6	19.9	6.6
ウエーブをする	27.2	35.7	27.7	9.0
応援歌を歌う	27.8	41.5	22.7	7.5
外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する	32.2	45.3	18.1	4.0
日本に不利な判定にブーイングする	17.6	27.5	37.5	17.0
ミスジャッジでも日本に有利な判定には拍手する	9.7	19.5	49.2	21.3

※の項目は（ ）内のスケールを使用

## 第3章

# 高校生の日本・日本人意識

三枝恵子

近年、日本の伝統・文化の尊重、郷土や国を愛する心の育成の重要性が指摘され、「愛国心」や「日本人としての自覚」を成績評価とすることへの是非が活発に論議されている。そうした中、2003年3月20日、中央教育審議会により教育基本法の基本理念に『『公共』の精神の涵養』や「国を愛する心」などを新たに規定することが適当と最終答申がなされた。

食生活やファッションなどの生活スタイルは欧米化し、音楽や趣味なども多様化している。逆に日本の伝統的な文化や芸術、伝統行事などへの関心やふれあいは減少している。卒業式や入学式に日の丸を掲げ、「君が代」が演奏されるが、高校生はその意義を認識しているのか、それとも彼らにとっては壇上を飾る花、式を彩るセレモニーの1つにすぎないのだろうか。一方で、昨年のサッカーW杯のように、頬に日の丸をペイントし「ニッポン、ニッポン」と絶叫し我を忘れて応援する

と同時に他国のチームにも熱心な応援を繰り返す姿をみると、彼らの中にある「日本・日本人」意識がそうさせるのか、それとも国や民族の枠を超えた新しい意識が形成されているのか考えさせられる。

ここでは「日本や日本人を意識するとき」をキーワードに、高校生のナショナリズムを探ってみたい。

## 1. 高校生が日本や日本人を意識するとき

高校生たちが「日本・日本人を意識するとき」とはどのようなときなのか、伝統的な事柄や生活様式、歴史的遺産、日本人の特質などをあらかず場面を11項目設定し、どんなときに日本や日本人を意識するのかと尋ねてみた。表3-1によれば、最も日本・日本人として意識するときは「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」で「とても感

■表3-1 日本・日本人を意識するとき

	(%)			
	とても感じる	かなり感じる	あまり感じない	ぜんぜん感じない
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	53.1	32.1	10.1	4.4
和服を着たり、着ている人を見るとき	43.6	85.2 38.5	13.5	4.2
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	35.4	82.1 40.9	16.8	6.5
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	29.8	76.3 30.8	29.6	9.6
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	28.4	60.6 40.3	22.7	8.2
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	20.4	68.7 38.9	30.5	9.9
オリンピックで日の丸があがったとき	19.5	59.3 35.4	33.8	11.1
日本の昔話や童話に触れるとき	18.4	54.9 40.1	34.0	7.2
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	8.7	58.5 16.8	47.9	26.5
水道水が安心して飲めるとき	8.2	25.5 12.3	46.8	32.5
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	5.2	20.5 15.8	53.0	25.6
		21.0		

じる」53.1%、「かなり感じる」32.1%を合わせると85.2%と9割弱となる。次いで、「和服を着たり、着ている人を見るとき」で「とても感じる」43.6%、「かなり感じる」を合わせ82.1%、「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」では「とても+かなり感じる」と答えた者は76.3%、「能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき」も同様に68.7%と、伝統的な日本文化や生活様式に触れたときに「日本や日本人」を意識する者が圧倒的に多いことがわかる。一方、「外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと」や「水道水が安心して飲めるとき」、「宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること」など、よく日本や日本人の特質であると言いきらされる事象について日本・日本人を感じるのはわずかに少数である。

次に、この「日本・日本人を意識するとき」を、

表3-2により、性・学年別でみてみた。「とても感じる」数値で比較すると、性差が開いている項目は、「和服を着たり、着ている人を見るとき」が最も高く、男子33.7%、女子54.3%とその差は20ポイントを超える。次いで、「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「スポーツの試合で『ニッポン、ニッポン』と応援するとき」も10ポイント以上差が開いており、女子の方がそうした場面で日本や日本人を意識する割合が高い。こうした背景には日常生活の中で、女子高校生には夏に浴衣を着たり成人式の振り袖姿にあこがれたり、茶道や華道、琴など部活動を通して日本の伝統文化や芸術に触れる機会が男子より多いことが推測できる。一方、学年差はほとんどみられない。

表3-3では、学校別を示している。調査サンプルは公立高校1、2年生が対象である。調査校

■表3-2 日本・日本人を意識するとき×属性（性・学年）

			（%）	
	男子	女子	1年	2年
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	47.2	< 59.8	57.7	49.9
和服を着たり、着ている人を見るとき	33.7	≪ 54.3	46.4	41.5
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	30.0	< 41.6	38.5	33.3
温泉に入っただつでのんびりするとき	28.1	31.7	30.8	29.1
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	25.5	31.8	31.0	26.6
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	15.3	< 26.0	21.6	19.6
オリンピックで日の丸があがったとき	18.9	20.2	19.9	19.2
日本の昔話や童話に触れるとき	17.0	20.0	18.3	18.5
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	9.6	7.7	7.7	9.5
水道水が安心して飲めるとき	10.5	5.9	7.1	9.1
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	6.0	4.3	5.2	5.1

「とても感じる」割合  
 <10ポイント ≪20ポイント以上の差

■表3-3 日本・日本人を意識するとき×学校

	（%）		
	A校	B校	C校
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	37.6	52.2	59.4
和服を着たり、着ている人を見るとき	34.0	39.2	50.3
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	23.4	35.6	39.7
温泉に入っただつでのんびりするとき	30.5	27.4	31.5
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	22.7	27.4	31.3
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	17.6	18.5	23.0
オリンピックで日の丸があがったとき	18.8	16.4	22.2
日本の昔話や童話に触れるとき	17.3	15.9	20.7
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	8.2	10.1	7.8
水道水が安心して飲めるとき	10.5	6.6	8.7
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	3.9	4.7	5.9

「とても感じる」割合  
 ——— は最大値    - - - - は最小値（10ポイント以上の差）

は3校で各学校を比較すると、C校が「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」に、日本・日本人と「とても感じる」割合が最大値を示し、A校とは10ポイント以上の差が開いている。今回の調査対象校であるC校は地方の創立20年の比較的新しい高校で、英語科と普通科を併せ持つ共学校である。英語科にはサマーセミナーが設定され、学校行事としてはオーストラリア、アメリカ研修旅行があり、また、アメリカ、オーストラリアからの留学生や海外帰国生も積極的に受け入れ、国際交流を図った国際的人材の育成を重視した教育目標を掲げる高校である。そうした教育が高校生の日本・日本人意識に影響を与えていると思われる。

## 2. 高校生の日本・日本人意識の形成

高校生が「日本・日本人を意識するとき」に性差や学校差がみられた。特に、学校差では英語科の設置や国際交流による国際人を育む教育の重視が日本・日本人としての意識と関連が深いことは

表3-3に示した。そこで、高校生の日本・日本人意識の形成に、国際交流や海外経験、教科の好き嫌い、成績、集団への愛着などが、どのような影響を与えているのか、さらに数値を追って探ってみたい。

まず、学校生活との関連からみてみよう。表3-4は、好きな授業と「日本・日本人を意識するとき」とのクロス集計の結果である。調査票では「国語（現代文）」「国語（古文）」「英語（外国語）」「日本史」「世界史」「地理」「公民（現代社会、倫理、政治・経済）」の7科目について、好きな授業を尋ねている。表では、各科目の授業が「好きな群」と「好きでない群」との比較で両群に1項目でも5ポイント以上の差がみられた4科目（「現代文」「古文」「日本史」「英語」）のデータを示した。「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」に日本・日本人の意識を「とても感じる」と答えた割合は、「現代文」「古文」「日本史」「英語」各々の授業が好きな生徒に共通して高い数値を示している。

次に、各授業が「好き」と答えた生徒の中で日本・日本人を意識する強さを比較すると、大きな

■表3-4 日本・日本人を意識するとき × 授業科目の好き嫌い

	現代文		古文		日本史		英語	
	好き	好きでない	好き	好きでない	好き	好きでない	好き	好きでない
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	59.6	> 51.5	<u>60.7</u>	> 51.9	60.3	> 51.0	57.4	> 50.8
和服を着たり、着ている人を見るとき	<u>52.8</u>	> 41.0	48.2	> 42.8	45.2	43.2	48.0	> 41.0
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	41.9	> 33.8	<u>43.4</u>	> 34.2	37.1	35.1	38.6	33.8
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	<u>34.7</u>	> 28.4	27.3	30.3	29.2	30.0	32.7	28.1
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	31.4	27.7	<u>34.3</u>	> 27.5	29.5	28.2	30.2	27.5
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	21.2	20.3	21.6	20.3	20.2	20.6	<u>25.8</u>	> 17.3
オリンピックで日の丸があがったとき	<u>21.8</u>	18.9	17.6	19.9	19.8	19.4	21.1	18.5
日本の昔話や童話に触れるとき	<u>22.4</u>	> 17.3	20.1	18.1	17.8	18.6	20.2	17.4
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	<u>12.1</u>	7.7	9.0	8.6	8.6	8.7	7.9	9.2
水道水が安心して飲めるとき	<u>9.6</u>	7.9	6.5	8.6	8.4	8.2	8.4	8.2
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	<u>6.8</u>	4.7	2.9	5.6	4.7	5.3	6.6	4.3

「とても感じる」割合  
> 5ポイント以上の差          は各項目中の最大値

差はみられないが、「現代文」と「古文」の好きな生徒に「京都や奈良の歴史的な建造物を見ると」「和服を着たり、着ている人を見ると」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき」に日本・日本人と「とても感じる」割合が比較的高いことがわかる。すなわち、「現代文」や「古文」など「国語」が好きな生徒ほど、日本の伝統文化や芸術に触れたとき日本・日本人を意識する割合が高いことになる。

	(%)			
	現代文	古文	日本史	英語
京都や奈良の歴史的な建造物を見ると…	59.6	<u>60.7</u>	60.3	57.4
和服を着たり、着ている人を見ると…	<u>52.8</u>	48.2	45.2	48.0
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき…	41.9	<u>43.4</u>	37.1	38.6
温泉に入ってこたつでのんびりするとき…	<u>34.7</u>	27.3	29.2	32.7

能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき…	31.4	<u>34.3</u>	29.5	30.2
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき…	21.2	21.6	20.2	<u>25.8</u>
オリンピックで日の丸があがったとき…	<u>21.8</u>	17.6	19.8	21.1

(「とても感じる」割合 —— は最大値)

それでは、成績の自己評価と「日本・日本人を意識するとき」の関連はどうだろうか。表3-5によれば、「京都や奈良の歴史的な建造物を見ると」「和服を着たり、着ている人を見ると」では、成績の評価と日本・日本人を意識する割合にほとんど差はみられない。あえて差を見いだそうとするならば「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき」「温泉に入ってこたつでのんびりするとき」「外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと」「水道水が安心して飲めるとき」「宗教とは関係なくクリスマスやバレ

■表3-5 日本・日本人を意識するとき×成績

	(%)				
	上	中の上	中	中の下	下
京都や奈良の歴史的な建造物を見ると	55.8	54.5	53.9	52.5	51.1
和服を着たり、着ている人を見ると	44.2	42.9	43.1	44.7	45.2
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	<u>40.0</u>	35.8	<u>34.8</u>	36.0	35.0
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	<u>35.8</u>	<u>28.0</u>	28.9	28.5	33.0
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	<u>32.6</u>	29.5	<u>27.2</u>	27.4	28.9
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	16.8	<u>16.4</u>	<u>23.3</u>	19.9	21.1
オリンピックで日の丸があがったとき	17.9	17.9	19.6	18.9	21.1
日本の昔話や童話に触れるとき	17.9	18.7	20.7	16.3	18.1
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	<u>13.7</u>	9.3	8.0	<u>6.6</u>	10.2
水道水が安心して飲めるとき	<u>11.6</u>	9.0	7.3	<u>5.9</u>	10.2
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	<u>10.6</u>	5.2	<u>3.7</u>	4.3	6.4

—— は最大値    - - - - は最小値 (5ポイント以上の差)

ンタインのイベントに熱心になること」で、成績の上位者が日本・日本人を意識する割合が若干高い傾向がみられる。

表3-6は、部活動の参加・不参加と「日本・日本人を意識するとき」との関連である。表によれば、運動部の生徒は、「能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき」「温泉に入ってこたつでのんびりするとき」「オリンピックで日の丸があがったとき」に、文化部では「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「スポーツの試合で、『ニッポン、ニッポン』と叫んで応援するとき」「日本の昔話や童話に触れるとき」「宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること」で、日本・日本人としての意識を「とても感じる」割合が高い。特に、「温泉に入ってこたつでのんびりするとき」「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」に日本・日本人としての意識を感じる割合では、部活動に加入している者と加入したことがない者との差は10ポイント以上と顕著である。

そこで次に、集団や地域への愛着との関係を確認してみたい。表3-7は、家族、クラス、学校、居住地域、居住する県、日本への愛着と「日本・

日本人を意識するとき」との関連を示した。表を概観すると、家族、学校、居住地域、居住する県、日本に愛着が強いほど、さまざまな場面で日本・日本人として意識する傾向がみられる。中でも日本・日本人として意識するときに最も関連が深いのは日本が「好き」と答えた者である。当然と言えば当然であるが、日本が「好き」な者は、「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」「スポーツの試合で『ニッポン、ニッポン』と叫んで応援するとき」「オリンピックで日の丸があがったとき」などで、日本・日本人と意識する割合が高く、日本を「好きでない」者と比べると20ポイント以上の差がみられる。次いで、学校への愛着が強い者も、「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」で、同様に20ポイント以上の差がみられる。

したがって、学校生活では「現代文」や「古文」の授業が好きな生徒、部活動に加入している生徒、そして家族、学校、地域、日本など集団への愛着が強い生徒ほど、伝統的な芸術や歴史遺産などさまざまな場面で日本・日本人としての意識が強くなり、高校生の日本・日本人意識の形成に深い影響を与えていることがうかがえる。

■表3-6 日本・日本人を意識するとき × 部活動

(%)

	運動部		文化部		以前加入・ 今不参加	入った ことがない
	熱心	不熱心	熱心	不熱心		
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	56.1	47.9	<u>57.3</u>	51.3	52.6	<u>41.9</u>
和服を着たり、着ている人を見るとき	44.4	38.9	47.2	<u>50.4</u>	42.5	<u>29.5</u>
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	36.3	<u>30.2</u>	<u>39.6</u>	37.6	33.2	32.4
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	<u>32.9</u>	26.9	26.1	32.1	29.4	<u>19.0</u>
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	<u>30.3</u>	26.2	27.5	29.5	<u>25.2</u>	27.6
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	19.7	21.3	21.2	<u>24.4</u>	20.6	<u>16.2</u>
オリンピックで日の丸があがったとき	<u>22.4</u>	20.4	14.7	19.2	17.3	<u>14.3</u>
日本の昔話や童話に触れるとき	19.5	15.8	<u>23.4</u>	17.1	17.8	<u>12.4</u>
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	<u>5.4</u>	9.3	<u>11.9</u>	10.3	8.9	11.4
水道水が安心して飲めるとき	9.0	7.4	9.2	9.4	6.1	6.7
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	4.7	<u>2.8</u>	5.5	6.0	<u>7.9</u>	2.9

「とても感じる」割合

—— は各項目中の最大値 - - - - は各項目中の最小値（5ポイント以上の差）

■表3-7 日本・日本人を意識するとき × 集団への愛着

(%)

	家 族		ク ラ ス		学 校	
	好き	好き でない	好き	好き でない	好き	好き でない
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	62.1	> 43.2	62.0	> 51.3	64.1	≫ 42.4
和服を着たり、着ている人を見るとき	53.5	> 33.7	54.3	> 38.3	53.4	> 36.1
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	43.6	> 32.6	44.5	37.4	46.5	≫ 26.3
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	35.6	> 22.1	36.9	28.7	39.0	> 25.9
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	34.2	25.3	33.7	31.3	35.9	> 23.9
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	23.9	> 13.7	29.5	> 18.3	26.5	18.0
オリンピックで日の丸があがったとき	22.7	14.7	26.3	20.0	27.9	> 14.5
日本の昔話や童話に触れるとき	22.1	13.7	23.1	16.5	28.5	> 16.1
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	7.8	10.5	7.8	8.7	10.7	9.8
水道水が安心して飲めるとき	8.5	6.3	8.8	10.4	11.0	9.0
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	5.1	5.3	5.9	2.6	8.0	3.9
	居住地域		居住する県		日 本	
	好き	好き でない	好き	好き でない	好き	好き でない
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	61.8	> 49.1	64.8	> 50.0	64.6	≫ 41.8
和服を着たり、着ている人を見るとき	53.9	> 40.4	55.0	> 42.9	55.8	≫ 35.4
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	45.0	> 33.0	45.4	> 31.0	43.5	> 29.9
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	38.9	> 26.8	40.3	> 26.7	36.0	29.9
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	34.0	28.6	37.4	29.1	35.3	> 24.5
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	27.5	24.0	30.5	> 18.1	31.7	≫ 10.2
オリンピックで日の丸があがったとき	28.3	> 15.8	33.3	> 14.8	32.9	≫ 8.8
日本の昔話や童話に触れるとき	25.6	17.6	29.2	> 15.8	26.4	> 12.9
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	10.3	10.4	9.7	11.0	10.4	12.2
水道水が安心して飲めるとき	11.9	10.9	12.3	9.1	12.2	6.1
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	7.0	7.7	6.0	4.3	7.6	4.8

「とても感じる」割合  
 >10ポイント ≧20ポイント以上の差  
 好き=「好き」 好きでない=「やや嫌い」+「嫌い」

さて、海外に出かけると日本のよさや日本人としての自覚を再認識するとの話はよく耳にする。また、多様な文化や国際理解を深めるためにと修学旅行を海外とする学校も増加している。そこで「日本・日本人を意識するとき」と海外経験との関連を数値でみてみたい。表3-8によれば、海外に「10回以上」行っている者は、「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき」に、日本・日本人を意

識する割合が高いが、最大値と最小値の差が1割前後である。しかし、海外経験が増えることで日本・日本人としての意識が強まるかと言えば必ずしも関連が深いとは限らない。

次に、高校生が日本や外国への考え方に影響を与えたと答えた「親・家族」「新聞・マスコミ」「授業・教師」「雑誌・本」と、日本・日本人を意識するときの関連をみてみよう(表3-9)。「和服を着たり、着ている人を見るとき」では「親・家族」の影響が強いと答えた者に、「漆器や茶道、

■表3-8 日本・日本人を意識するとき × 海外に行った経験

	(%)				
	ない	1回	2、3回	4～9回	10回以上
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	52.7	53.8	54.3	<u>50.0</u>	<u>65.4</u>
和服を着たり、着ている人を見るとき	43.5	44.8	45.1	40.3	42.3
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	<u>34.6</u>	36.3	38.2	36.1	<u>42.3</u>
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	29.0	<u>33.2</u>	30.6	30.6	<u>26.9</u>
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	28.5	<u>25.6</u>	30.6	26.4	<u>30.8</u>
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	20.4	19.3	23.3	19.4	19.2
オリンピックで日の丸があがったとき	19.9	17.9	<u>20.8</u>	<u>13.9</u>	15.4
日本の昔話や童話に触れるとき	17.7	19.7	21.4	<u>22.2</u>	<u>7.7</u>
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	9.3	7.2	6.9	8.3	11.5
水道水が安心して飲めるとき	7.6	10.3	9.8	9.7	7.7
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	4.9	3.6	<u>9.2</u>	5.6	<u>0.0</u>

「とても感じる」割合  
 ——— は最大値    - - - - は最小値 (5ポイント以上の差)

短歌などの伝統芸術に触れるとき」では「授業・教師」の影響が強いと答えた者ほど日本・日本人としての意識が高いことがわかる。それ以外の項目ではほとんど差がみられず、「新聞・マスコミ」「雑誌・本」などとの関連にも大きな差はみられない。

高校生の日本・日本人としての意識の形成には、「現代文」や「古文」の授業の好き嫌い、部活動、家族・学校・地域・日本など集団への愛着が影響を与えている。しかも、日本の伝統的な文化や生

活様式、芸術に触れることを通してより深く日本・日本人意識を形成することがわかる。C校が「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」に、日本・日本人を意識する割合が高いのも、英語の授業はもちろんであるが、A L Tとの人間関係や国際交流を通して日本文化や伝統芸術に理解を深める結果が大きいと推測できる。

■表3-9 日本・日本人を意識するとき × 日本や外国への考え方に影響を与えたもの

(%)

	影響の有無							
	親・家族		新聞・マスコミ		授業・教師		雑誌・本	
	有	無	有	無	有	無	有	無
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	56.2	52.0	54.6	51.0	55.2	52.4	51.7	54.2
和服を着たり、着ている人を見るとき	48.1	> 41.7	45.1	41.1	45.0	43.0	40.6	45.3
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	38.9	34.1	36.3	34.3	40.8	> 33.2	33.7	36.6
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	31.5	29.1	28.6	32.0	30.0	29.8	29.3	30.1
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	28.4	28.6	30.1	25.7	32.3	> 26.7	26.5	29.6
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	22.7	19.5	21.3	19.1	22.9	19.4	18.4	21.6
オリンピックで日の丸があがったとき	21.4	18.7	19.2	20.1	22.0	18.4	17.7	20.5
日本の昔話や童話に触れるとき	20.2	17.6	18.3	18.6	19.8	17.7	16.1	19.7
宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	9.1	8.5	8.4	9.1	8.5	8.8	10.2	7.8
水道水が安心して飲めるとき	9.7	7.6	7.0	10.5	9.9	7.5	7.6	8.6
外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	6.4	4.6	4.9	5.7	5.4	5.1	4.1	5.8

「とても感じる」割合  
> 5ポイント以上の差

### 3. 国際化の流れの中で

次に、「日本の学校を9月入学にする」「大学の講義は英語でする」「外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする」「帰化した元外国人が日本の首相になる」の国際化の4項目について、高校生がどのように考えているのかみていこう。

まず、表3-10の学校教育への意見からみていこう。①「日本の学校を9月入学にする」ことに「賛成」と答えた者は6.1%にすぎず、「どちらかといえば賛成」を合わせても11.4%、逆に「どちらかといえば反対+反対」が42.8%と、反対が賛成意見を大きく上回っている。性・学年別で「どちらかといえば賛成+賛成」の数値にほとんど差はみられない。しかし、反対意見でみると、女子に「どちらかといえば反対+反対」と答えた者が46.5%おり、男子の39.6%を7ポイントほど上回り、9月入学については女子に若干反対意見が強

いことがうかがえる。2学期制へ移行する学校が増加し、海外留学する生徒も増え、9月入学の方が時代のニーズに合った合理的なシステムかと思うが、高校生たちにとって入学式（始業式）は4月に桜の花とともにという日本的なものへの愛着が強く感じられる。

次に、②「大学の講義は英語でする」ことでは「賛成」4.1%、「どちらかといえば賛成」を合わせても賛成意見は13.2%と1割程度にすぎず、「反対+どちらかといえば反対」が55.9%と圧倒的に多い。海外のニュースに登場する外国の元首や大統領、または小学生まで流暢な英語でインタビューを受け答えている姿を見ると羨ましくもあり、日本でも大学では英語で講義してもよいのではないかと思うが、高校生に支持を得るのはなかなか難しいようである。今回の調査結果から理由を明らかにすることはできないが、高校生たちに聞いてみると、「学問的な専門英語は社会に出ても必要ない、むしろ海外旅行やビジネス英語な

■表3-10 国際化への意見 × 性・学年

#### ①日本の学校を9月入学にする

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
全体	6.1	5.3	45.5	18.9	23.9
	11.4			42.8	
男子	7.8	4.9	47.7	13.1	26.5
	12.7			39.6	
女子	4.3	5.8	43.4	25.2	21.3
	10.1			46.5	
1年	5.4	4.4	47.2	19.7	23.4
	9.8			43.1	
2年	6.7	6.0	44.4	18.4	24.5
	12.7			42.9	

#### ②大学の講義は英語でする

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
全体	4.1	9.1	30.6	24.5	31.4
	13.2			55.9	
男子	4.5	7.3	29.1	22.5	36.6
	11.8			59.1	
女子	3.8	11.1	32.4	26.8	25.9
	14.9			52.7	
1年	3.5	8.0	31.2	25.7	31.6
	11.5			57.3	
2年	4.7	10.0	30.3	23.7	31.3
	14.7			55.0	

#### ③外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
全体	36.7	22.3	29.1	7.8	3.8
	59.0			11.6	
男子	38.5	18.0	30.9	7.9	4.6
	56.5			12.5	
女子	35.1	27.0	27.4	7.7	2.9
	62.1			10.6	
1年	36.6	23.5	27.2	7.7	4.9
	60.1			12.6	
2年	37.0	21.4	30.8	7.9	2.9
	58.4			10.8	

#### ④帰化した元外国人が日本の首相になる

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
全体	14.0	16.2	36.4	19.4	13.8
	30.2			33.2	
男子	16.3	15.5	34.3	16.8	17.2
	31.8			34.0	
女子	11.5	17.1	38.8	22.4	10.2
	28.6			32.6	
1年	11.0	15.4	37.4	21.3	14.8
	26.4			36.1	
2年	16.3	16.9	35.7	18.0	13.0
	33.2			31.0	

ど簡単な英語が話せればよいから。大学の講義を無理して英語で受講する必要性がないから。大学で勉強する専門教育は将来仕事についてきどれほど生かせるのか、ほとんど生かせないのが現状なのに英語で講義されてはもっと役に立たないから。将来英語を必要な人が少ないことや海外で活躍することはわずかだから。日本人なのでしっかり日本語をマスターした方がよいから」などさまざまな意見が出され、おおむね大学での英語の講義に反対であった。

では、スポーツ面ではどうだろうか。③「外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする」ことに「賛成」は36.7%、「どちらかといえば賛成」22.3%を合わせると59.0%と約6割、「反対+どちらかといえば反対」の11.6%との差が大きく開いており、国技といわれる相撲や柔道でさえも外国人が優勝することに反対意見は少ない。スポーツの世界では強いことが尊重され証明されればよいということだろうか。

一方、賛成、反対の意見が拮抗しているのは④「帰化した元外国人が日本の首相になる」ことについてで、「賛成」は14.0%にすぎないが、「どちらかといえば賛成」16.2%を合わせると3割に達し、「反対+どちらかといえば反対」もほぼ3割で、日本の国を元外国人にゆだねることへのためらいもうかがえる。

高校生は、学校教育に関しては伝統的に続いている現状に肯定的であり、欧米的なシステムの導入には消極的である。一方、スポーツの分野では国を超えて強い者・優れた者が勝利を勝ち取るのは当然と考え、相撲や柔道といった国技といわれるスポーツも例外ではなく、日本的な伝統や情緒は次第に薄れていくのであろう。そして、政治や教育などではスポーツのような国際化した開放的な意識はまだ持ち合わせていないようである。

表3-11①～④は、成績別に示した。「賛成+どちらかといえば賛成」の数値で成績の上位者と下位者と比較すると、上位者は「大学の講義は英

■表3-11 国際化への意見 × 成績

①日本の学校を9月入学にする

	(%)				
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
上	11.6	3.2	34.7	16.8	33.7
中の上	5.6	4.1	40.7	20.5	29.1
中	4.9	6.5	46.7	20.2	21.7
中の下	6.1	5.1	49.7	19.7	19.4
下	6.7	5.6	47.1	15.6	25.1

②大学の講義は英語でする

	(%)				
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
上	10.5	11.6	24.2	22.1	31.6
中の上	3.7	9.7	31.0	20.1	35.4
中	4.5	8.4	32.5	28.0	26.7
中の下	2.9	9.0	30.3	27.1	30.6
下	3.9	9.2	29.5	22.3	35.1

③外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする

	(%)				
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
上	42.1	17.9	24.2	7.4	8.4
中の上	34.1	21.3	27.0	12.7	4.9
中	35.3	23.5	31.0	7.5	2.6
中の下	35.1	25.0	30.9	6.4	2.7
下	42.9	18.9	27.6	6.1	4.5

④帰化した元外国人が日本の首相になる

	(%)				
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
上	21.1	20.0	27.4	17.9	13.7
中の上	15.7	14.6	28.4	22.4	19.0
中	11.6	15.5	39.6	22.2	11.2
中の下	13.3	19.9	38.3	17.3	11.2
下	15.0	13.4	39.6	16.4	15.6

語でする」「帰化した元外国人が日本の首相になる」ことに賛成意見が多く下位者との差が開いている。

	(%)	
	成績上位	下位
日本の学校を9月入学にする……	14.8	12.3
大学の講義は英語です……	22.1	> 13.1
外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする……	60.0	61.8
帰化した元外国人が日本の首相になる……	41.1	> 28.4
（「賛成+どちらかといえば賛成」の割合）		
（>は5ポイント以上の差）		

最後に、こうした国際化の流れに沿った意見と「日本・日本人を意識するとき」とのクロスデータをみてみよう。ここでは「外国人が横綱になっ

たり柔道で優勝したりする」「帰化した元外国人が日本の首相になる」の2項目について結果を示した。

表3-12の「外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする」ことについては、「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき」に日本・日本人と「とても感じる」群に「賛成+どちらかといえば賛成」の数値が高い。

「帰化した元外国人が日本の首相になる」ことを「賛成+どちらかといえば賛成」する者は、「和服を着たり、着ている人を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「スポーツの試合で『ニッポン、ニッポン』と叫んで応援するとき」などに日本・日本人としての意識を

■表3-12 外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする × 日本・日本人を意識するとき

		(%)				
		賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	とても感じる	40.2	21.9	25.9	8.0	4.0
	ぜんぜん感じない	38.6	7.1	34.3	2.9	17.1
		62.1 45.7				
和服を着たり、着ている人を見るとき	とても感じる	42.0	21.3	24.0	7.7	5.1
	ぜんぜん感じない	37.3	11.9	35.8	3.0	11.9
		63.3 49.2				
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	とても感じる	44.4	21.7	22.9	6.7	4.3
	ぜんぜん感じない	40.8	12.6	26.2	5.8	14.6
		66.1 53.4				
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	とても感じる	42.4	20.3	25.2	7.8	4.2
	ぜんぜん感じない	41.8	16.2	24.8	7.8	9.2
		62.7 58.0				
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	とても感じる	44.1	20.6	24.2	7.5	3.5
	ぜんぜん感じない	41.2	12.2	29.0	5.3	12.2
		64.7 53.4				
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	とても感じる	41.2	20.1	22.3	9.3	7.1
	ぜんぜん感じない	44.3	15.8	27.8	3.2	8.9
		61.3 60.1				
オリンピックで日の丸があがったとき	とても感じる	42.9	17.4	27.1	7.1	5.5
	ぜんぜん感じない	45.2	13.6	28.8	2.8	9.6
		60.3 58.8				
日本の昔話や童話に触れるとき	とても感じる	48.1	18.6	22.7	7.6	3.1
	ぜんぜん感じない	41.7	15.7	24.3	5.2	13.0
		66.7 57.4				

— は10ポイント以上の差

「ぜんぜん感じない」群に多くみられる（表3-13）。

分析を通して、高校生が日本・日本人として意識するのは「京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき」「和服を着たり、着ている人を見るとき」「漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき」「能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき」など、伝統的な日本文化や芸術、生活様式に触れることでより高まる。

高校生の日本・日本人としての意識の形成には、「現代文」や「古文」など「国語」の授業や家族・学校・地域・日本など集団への愛着が影響を与える。しかも、日本の伝統的文化や生活様式、芸術に触れることを通してより深く日本・日本人意識を形成する。

日本・日本人としての意識の強さは、スポーツ分野においては一層グローバルになり、国や民族

を問わず実力のある選手を認めていく方向性を示し、一方、政治や学校生活の分野ではたとえば4月入学など伝統的な文化や生活様式に愛着を示し、こうした分野での国際化へはまだまだいくつもの心のハードルを越えなければならない。

しかし、松井やイチローがアメリカで活躍し、実力のあるサッカー選手が海外に移籍し、外国人が国技といわれる相撲で横綱となり、柔道で優勝する。さらに、日頃は海外でそれぞれの環境で活躍する選手も日本代表チームとして一緒にプレーすることもできる。スポーツこそ寝食を共にしチームワークを養うことこそが勝利の方程式であると考えられた時代は終焉しつつある。こうした時代の中で、高校生たちも、「日本・日本人としての意識」を場面の設定や内容に応じてしなやかに柔軟に変化させ周囲と意識を共有しつつ、伝統的文化にもこだわっている姿が印象的であった。

■表3-13 帰化した元外国人が日本の首相になる × 日本・日本人を意識するとき

						(%)
		賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	とても感じる	14.1	15.3	33.9	22.3	14.4
	ぜんぜん感じない	22.9	10.0	35.7	2.9	28.6
		29.4				
		32.9				
和服を着たり、着ている人を見るとき	とても感じる	16.6	15.3	32.4	20.7	14.9
	ぜんぜん感じない	28.4	13.4	32.8	6.0	19.4
		31.9				
		41.8				
漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	とても感じる	16.2	15.3	33.0	21.1	14.4
	ぜんぜん感じない	24.3	13.6	27.2	7.8	27.2
		31.5				
		37.9				
温泉に入ってこたつでのんびりするとき	とても感じる	16.7	15.0	34.7	19.7	14.0
	ぜんぜん感じない	22.2	13.1	28.8	13.1	22.9
		31.7				
		35.3				
能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	とても感じる	16.4	15.7	34.6	18.6	14.6
	ぜんぜん感じない	22.9	10.7	26.0	9.9	30.5
		32.1				
		33.6				
スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	とても感じる	15.1	14.8	30.9	19.4	19.8
	ぜんぜん感じない	24.1	16.5	29.1	9.5	20.9
		29.9				
		40.6				
オリンピックで日の丸があがったとき	とても感じる	14.8	14.5	30.6	21.0	19.0
	ぜんぜん感じない	28.2	11.9	26.0	13.6	20.3
		29.3				
		40.1				
日本の昔話や童話に触れるとき	とても感じる	19.9	16.5	30.6	17.5	15.5
	ぜんぜん感じない	20.0	12.2	30.4	11.3	26.1
		36.4				
		32.2				

— は5ポイント以上の差

## 第4章

## 社会認識と社会観

蒲生真紗雄

教師たちの多くが結果的に、戦前のファシズム体制に協力してしまったという反省から、戦後の社会科教育では、意識的に愛国心の涵養やナショナリズム的思考を否定し、教材として取り上げることすら忌避してきたきらいがあった。戦後生まれ世代の筆者もその1人であった。しかし、21世紀をむかえて国際社会の一員として行動することをますます求められる生徒たちを育成するにあたっては、自分の生まれた社会や文化に対して正確な認識を持ち、日本人としてのアイデンティティを確立させることの必要性は増大してきた。偏狭なナショナリズムの復活を許さないためにもである。

そうした状況のなかで、「今の若者は保守化している」とか、今の日本を肯定的に捉えている生徒が多い（『モノグラフ・高校生』vol.53「社会とのスタンス」1998年）といわれている。そこで、本章では高校生の社会認識や日本イメージの現状を探ってみた。

## 1. 社会認識と日本のイメージ

まず、最近の社会の出来事に対する認識度を探

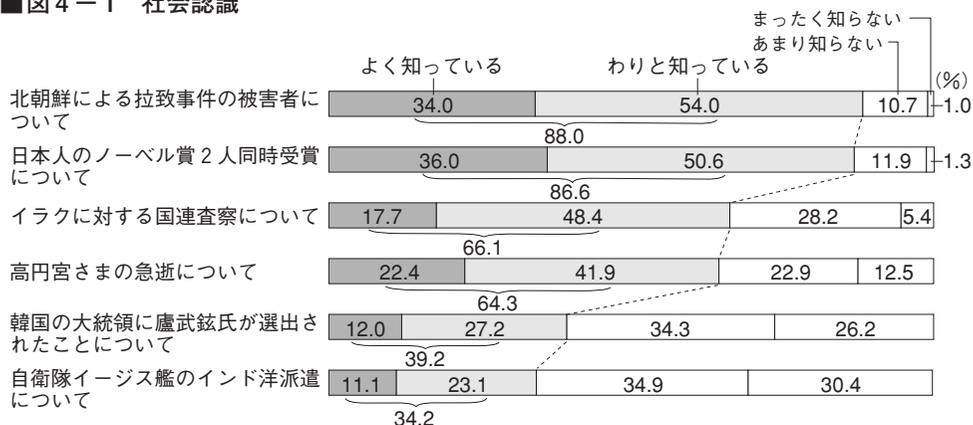
ってみた。「あなたは、次のような出来事を知っていますか」という問いに対する回答結果が、図4-1である。

2003年2月の調査時点でもマスコミを連日にぎわしていた北朝鮮による拉致事件の被害者や日本人のノーベル賞2人同時受賞に対する認識度は9割近くの高さ（「よく」＋「わりと」知っている割合、以下同じ）を示している。一方で、隣国の韓国の大統領に盧武鉉氏が選出されたことや自衛隊のイージス艦のインド洋派遣については、4割弱にすぎない。拉致事件やノーベル賞同時受賞と同様に、連日のようにマスコミで取り上げられていたイラクに対する国連査察についても、意外と低い7割弱の認識である。

高校生の社会認識の度合いは、日本国内や日本に直接関係があると思われる出来事には高いが、外交など国外であまり身近に感じないものには低いことがここから読み取れる。社会認識の内向き姿勢の傾向が顕著である点は気にかかる。

表4-1は、性・学年別のクロス集計結果である。性別では、イラクに対する国連査察（男子の方が10.3ポイント高い）やイージス艦のインド洋派遣（男子の方が22.9ポイント高い）など外交問

■ 図4-1 社会認識



題に対する認識で、明確な性差が示されている。社会認識の内向き度が女子の方に強いといえる。学年別の差はあまりないといえよう。

では、高校生たちは今の日本をどうみているのだろうか。図4-2は、日本の社会をどう思っているかと12項目についてのイメージを問うたものである。

<日本のプラスイメージ> (%)

①物が豊かにある	87.5
②平和な国だと思う	76.2
③日本はいい国だ	60.9

④とても自由だ	48.1
⑤民主主義が発達している	47.0
⑥自然が美しい	44.4
⑦誰でも努力さえすれば高い地位につける	31.8
⑧男女平等だ	31.6

<日本のマイナスイメージ> (%)

①国民の意見が政治に反映されていない	82.9
②若者とおとなの考え方の差が大きい	81.5
③大企業の力が強い	76.4
④学歴がものをいう社会だ	66.3

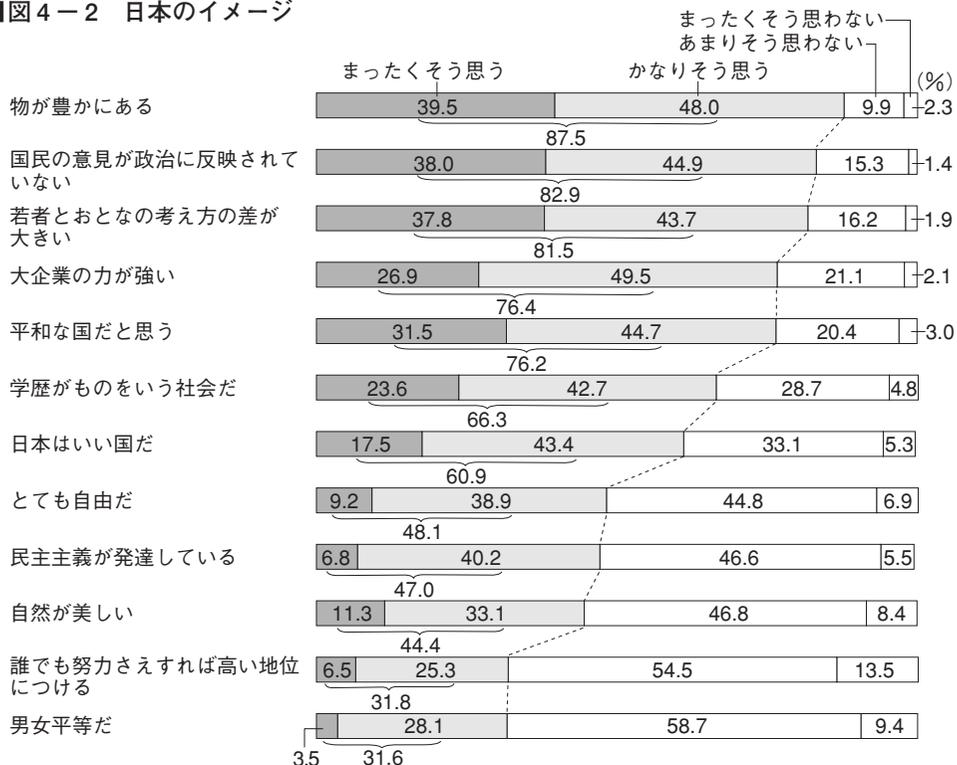
(まったく十かなりそう思う割合)

■表4-1 社会認識 × 性・学年

	全 体	性 別		学 年 別	
		男子	女子	1 年	2 年
北朝鮮による拉致事件の被害者について	88.0	85.3	< 91.4	89.1	87.5
日本人のノーベル賞2人同時受賞について	86.6	87.0	86.5	88.0	85.9
イラクに対する国連査察について	66.1	71.2	» 60.9	65.8	66.7
高円宮さまの急逝について	64.3	63.2	65.8	60.8	< 67.3
韓国の大統領に盧武鉉氏が選出されたことについて	39.2	40.3	38.3	38.4	40.0
自衛隊イージス艦のインド洋派遣について	34.2	45.4	» 22.5	32.4	35.8

「よく」+「わりと」知っている割合  
 < 5ポイント ≪10ポイント以上の差

■図4-2 日本のイメージ



日本は物が豊かにあり、平和な、いい国だが、国民の意見が政治に反映されていないし、若者とおとなの考え方の差が大きいとみている。また、大企業の力が強く、学歴がものをいう社会で、男女平等はまだまだ不十分と思っている。日本社会の問題点について、かなりの確なイメージを持っているといえよう。

表4-2は、性・学年別のクロス集計結果である。物が豊かで、平和な国だというプラスイメージは男子よりも女子の方に強いが、「民主主義が発達している」や「自然が美しい」などでは男子のプラスイメージの方が強いので、必ずしも女子の方に日本によいイメージを持っている者が多い

ともいえない。男女平等については、明確に女子の方が厳しい評価を示している。学年差はあまり認められない。

## 2. 日本のイメージの変化の意味

ところで、高校生の日本に対するイメージに変化はあるのだろうか。16年前に調査した本モノグラフ（vol.23「若者は保守化したのか」1988年）と同内容のもの11項目との経年変化を示したのが図4-3である。もちろん、調査対象校も学年も同一ではないので、厳密さには欠けるが、一応の目安にはなると思われる。

■表4-2 日本のイメージ×性・学年

	(%)				
	全 体	性 別		学年別	
		男子	女子	1 年	2 年
物が豊かにある	87.5	83.4 <	92.3	90.1	85.8
国民の意見が政治に反映されていない	82.9	83.4	83.1	82.7	83.8
若者とおとなの考え方の差が大きい	81.5	81.9	81.7	82.9	80.9
大企業の力が強い	76.4	77.9	75.3	79.2	74.7
平和な国だと思う	76.2	75.3	77.8	77.3	75.9
学歴がものをいう社会だ	66.3	69.3 >	63.5	65.7	67.1
日本はいい国だ	60.9	61.2	61.3	62.7	60.3
とても自由だ	48.1	47.9	48.5	46.9	49.2
民主主義が発達している	47.0	50.9 >	43.7	46.5	48.1
自然が美しい	44.4	46.5	42.6	44.9	44.5
誰でも努力さえすれば高い地位につける	31.8	33.2	30.3	32.8	31.1
男女平等だ	31.6	35.3 >	27.8	31.9	31.5

「まったく」+「かなり」そう思う割合  
<5ポイント以上の差

<変化の大きいもの> 今回の調査－1987年調査 (%)

- ①国民の意見が政治に  
反映されていない…………… 82.9－63.4＝ 19.5
- ②学歴がものをいう社会だ… 66.3－85.2＝－18.9
- ③大企業の力が強い…………… 76.4－87.6＝－11.2
- ④民主主義が発達している… 47.0－57.9＝－10.9  
(まったく十かなりそう思う割合)

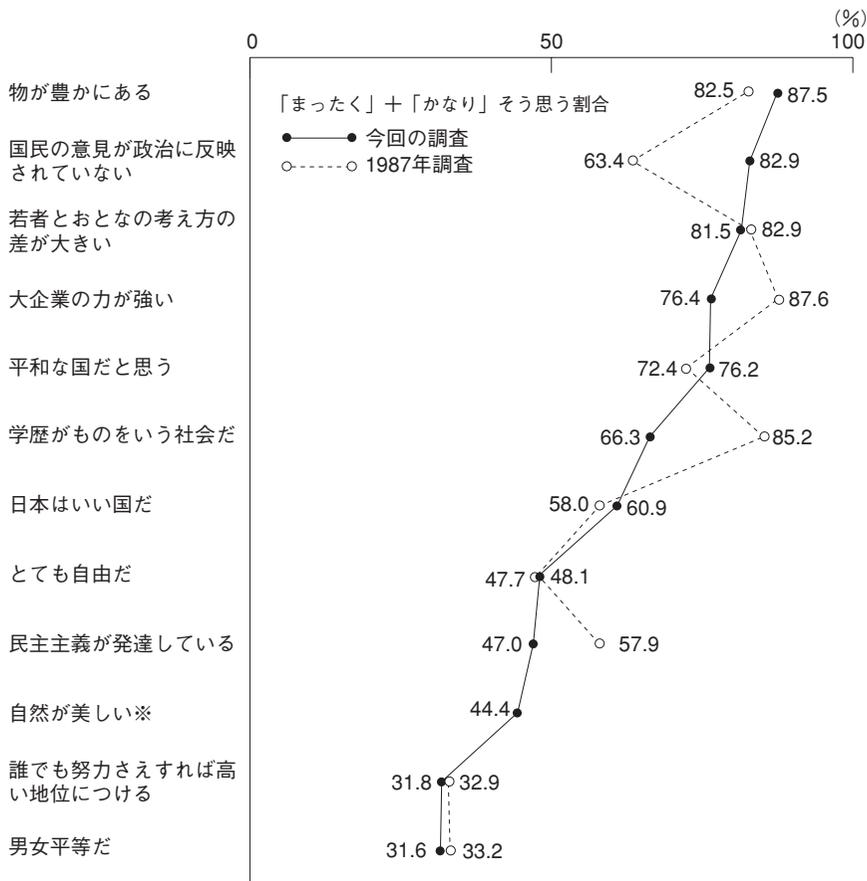
1987年は大企業の力が強く、学歴がものをいう社会であったが、現在は、国民の意見が政治に反映されていない社会になったし、民主主義が必ずしも発達しているとはいえないと認識していることが読み取れる。バブル崩壊(1991年)をうけて、大企業の力や学歴にも若干のかげりが見えていることを、的確にこの数値は示しているといえよう。高校生たちのイメージは社会の変化を見事に写している。

<変化の小さいもの> 今回の調査－1987年調査 (%)

- ①物が豊かにある……………87.5－82.5＝ 5.0
- ②若者とおとなの考え方の  
差が大きい……………81.5－82.9＝－1.4
- ③平和な国だと思う……………76.2－72.4＝ 3.8
- ④日本はいい国だ……………60.9－58.0＝ 2.9
- ⑤とても自由だ……………48.1－47.7＝ 0.4
- ⑥誰でも努力さえすれば  
高い地位につける……………31.8－32.9＝－1.1
- ⑦男女平等だ……………31.6－33.2＝－1.6  
(まったく十かなりそう思う割合)

物が豊かにある日本は、平和でいい国だというプラスイメージは、バブル崩壊によるインフレ社会からデフレが定着した社会になっても大きな変化はない。むしろ、日本を肯定する者が若干増加したともいえよう。第二次世界大戦後に戦争を経

■図4-3 日本のイメージの経年変化



※この項目は1987年調査にはない

験したことの無い日本で生活してきた、高校生の  
 いろいろなイメージであろう。イラクへの自衛  
 隊の派遣が高校生の平和イメージにどのように反  
 映するのか、今後注目していきたい。

### 3. 日本の社会観

日本の社会を好意的にみている生徒とそうでな  
 い生徒との社会認識や、日本のイメージの差異を  
 探ってみたのが、表4-3と表4-4である。

社会認識の度合いと社会への関心度は、同一で  
 はないが、かなり密接に結びついているといえる。  
 そこで、今回の項目の中では一番政治性や社会性  
 を強く持っている「自衛隊イージス艦のインド洋  
 派遣について」を指標として選んで、社会の関心  
 度のある・なしとの関係を分析してみた。社会認  
 識との関係では、全項目でほぼ関心度の高さに正  
 比例していることがわかる。特に外交問題では、  
 イラクに対する国連査察について「よく知っている」層と「まったく知らない」層では2.5倍の差  
 があり、韓国の大統領の選出に至っては5.7倍の

開きがあった(表4-3)。

日本のイメージについては、社会への関心度の  
 高い層は「国民の意見が政治に反映されていない」  
 や「大企業の力が強い」に強く肯定し、逆に「男  
 女平等だ」には否定的な数値を示している。日本  
 を素直に明るく肯定するというよりも、批判的な  
 目を持ちながら肯定するというグループと読み取  
 れる。これに対して社会への関心度の低い層は、  
 「国民の意見が政治に反映されていない」に最も  
 低い数値を示し、「日本はいい国だ」に最も高い  
 数値を示すなど、やや無批判的に日本を肯定する  
 グループといえよう(表4-4)。

次に、日本のイメージのうちから、「民主主義  
 が発達している」というかなり政治的な意識と、  
 「日本はいい国だ」という素朴な感性が反映する  
 2つの項目を尺度として取り上げた。社会認識と  
 の関係(表4-3)では、「民主主義が発達して  
 いる」と「まったくそう思う」者の関心度が一番  
 高く、以下正比例的に減少している。日本を政治  
 的に高く評価するか否かと関心度の高低は、相関  
 しているといえる。一方で、「日本はいい国だ」

■表4-3 社会認識 × 社会への関心度・日本の社会観

(%)

	全体	自衛隊イージス艦の インド洋派遣について				民主主義が発達している				日本はいい国だ			
		よく 知っている	わりと 知っている	あまり 知らない	まったく 知らない	まったく そう 思う	かなり そう 思う	あまり そう思 わない	まったく そう思 わない	まったく そう 思う	かなり そう 思う	あまり そう思 わない	まったく そう思 わない
北朝鮮による拉致事件の被害者について	88.0	98.8	97.6	85.3	80.8	90.8	89.1	87.7	76.2	88.9	89.6	86.9	82.4
日本人のノーベル賞2人同時受賞について	86.6	98.8	97.0	84.7	77.1	92.6	87.3	86.7	75.0	88.1	87.2	85.9	83.6
イラクに対する国連査察について	66.1	95.5	92.7	63.8	38.7	75.0	70.6	61.6	54.5	62.9	67.0	66.0	70.6
高円宮さまの急逝について	64.3	88.6	79.9	62.0	46.5	74.0	65.0	63.7	55.7	67.6	64.4	63.0	63.6
韓国の大統領に盧武鉉氏が選出されたことについて	39.2	79.5	62.5	33.3	13.9	52.8	40.1	37.6	30.7	37.8	38.9	39.1	47.1
自衛隊イージス艦のインド洋派遣について	34.2	—	—	—	—	43.5	34.1	32.8	36.7	32.7	32.1	35.1	53.6

「よく」+「わりと」知っている割合  
 > 5ポイント >> 10ポイント以上の差  
 — は各項目中の最大値 \_ \_ \_ は各項目中の最小値

という項目では「まったくそう思う」層が国内の出来事に強い関心を示しているのに対して、「まったくそう思わない」層は外交問題に強い関心を示していることがわかる。

従来の高校教育では知識重視の教育がなされてきたきらいがあるが、生徒の感性を研ぎ澄ませる努力も今後は必要といえる。深い社会認識やバランスの取れた日本観を育てる上でも、その必要性は高まっている。

最後に、日本のイメージに対する差異をみてみよう（表4-4）。ここからわかることは、多くの項目で2つの尺度の順序に正比例していることである。「まったくそう思う」者は全体的に日本にプラスイメージを持ち、現在の日本を大変肯定的に捉えていることがわかる。もちろん、「大企業の力が強い」や「学歴がものをいう社会だ」などの問題点もしっかりと認識しており、無批判な日本肯定ではない。これに対して、「まったくそう思わない」者は、現在の日本の社会をまったく否定的に認識している。ただし、「若者とおとな

の考え方の差が大きい」や「大企業の力が強い」にも否定的であるのはどうしてなのだろうか。特に「日本はいい国だ」と「まったくそう思わない」者たちの意識の奥を今後も探る必要があろう。

以上のことから、今の日本を肯定的に捉える生徒は現状維持の保守的であり、否定的に捉える生徒は現状を打破しようとする革新的であるという図式は、現在では短絡的な評価にすぎなく、それだけでは高校生を捉えきれないことが明らかになった。最近、政治家が誤った歴史認識に基づく発言や、少年犯罪に関する軽率な発言、女性差別的な発言をしている。これらの発言は、戦後民主主義下で重視されていた価値観への挑戦やバブル崩壊後の経済の停滞化のなかでの自信喪失からくる排外的ナショナリズムへの傾斜からなされている。しかし、高校生たちの発想の多くは、これらの発言とは明確に異なる。

高校生の肯定的な日本の社会観に自信を与えるような文化や歴史像を示すことができるように、現場の我々教員も一層の研鑽が緊要である。

■表4-4 日本のイメージ × 社会への関心度・日本の社会観

(%)

	全体	自衛隊イージス艦のインド洋派遣について				民主主義が発達している				日本はいい国だ			
		よく知っている	わりと知っている	あまり知らない	まったく知らない	まったくそう思う	かなりそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	まったくそう思う	かなりそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
物が豊かにある	87.5	<u>86.9</u>	88.0	87.2	<u>88.5</u>	<u>93.5</u>	92.7	>85.0	» <u>69.3</u>	<u>94.6</u>	91.3	>83.0	» <u>64.7</u>
国民の意見が政治に反映されていない	82.9	<u>92.6</u>	88.0	>82.3	<u>77.5</u>	<u>89.8</u>	>83.3	83.4	> <u>73.9</u>	<u>80.8</u>	81.5	< <u>86.7</u>	84.7
若者とおとなの考え方の差が大きい	81.5	83.5	<u>83.9</u>	82.4	<u>79.1</u>	88.0	84.4	80.0	» <u>69.4</u>	<u>84.1</u>	82.5	81.9	» <u>68.2</u>
大企業の力が強い	76.4	<u>78.8</u>	<u>74.1</u>	77.7	76.9	<u>92.5</u>	>84.7	» <u>69.6</u>	> <u>61.3</u>	<u>82.3</u>	78.3	>73.3	> <u>67.9</u>
平和な国だと思う	76.2	75.0	<u>73.3</u>	< <u>78.8</u>	76.8	<u>89.9</u>	>84.2	» <u>70.7</u>	» <u>57.9</u>	<u>92.8</u>	>84.0	> <u>63.8</u>	» <u>41.2</u>
学歴がものをいう社会だ	66.3	<u>71.6</u>	67.1	66.4	<u>64.3</u>	<u>85.2</u>	>75.3	» <u>58.5</u>	» <u>47.7</u>	66.9	<u>68.1</u>	<u>63.9</u>	65.9
日本はいい国だ	60.9	<u>51.7</u>	<60.4	60.1	< <u>66.8</u>	<u>79.4</u>	>71.2	> <u>52.5</u>	> <u>43.2</u>	—	—	—	—
とても自由だ	48.1	<u>57.4</u>	>49.2	49.3	> <u>43.2</u>	<u>75.0</u>	» <u>58.6</u>	» <u>37.1</u>	<u>32.9</u>	<u>69.5</u>	» <u>53.9</u>	» <u>33.8</u>	» <u>22.4</u>
民主主義が発達している	47.0	<u>53.1</u>	>47.1	47.7	<u>45.3</u>	—	—	—	—	<u>57.9</u>	54.9	» <u>36.5</u>	» <u>16.7</u>
自然が美しい	44.4	<u>49.5</u>	44.7	45.3	<u>42.2</u>	<u>53.2</u>	50.4	> <u>40.0</u>	> <u>30.7</u>	<u>66.9</u>	» <u>51.2</u>	> <u>28.4</u>	» <u>16.5</u>
誰でも努力さえすれば高い地位につける	31.8	<u>35.8</u>	> <u>26.0</u>	<31.4	35.3	<u>52.8</u>	» <u>36.9</u>	» <u>25.8</u>	> <u>19.3</u>	<u>43.8</u>	>34.9	> <u>23.7</u>	> <u>16.5</u>
男女平等だ	31.6	<u>29.6</u>	<u>29.6</u>	<u>34.0</u>	31.4	<u>49.1</u>	» <u>37.4</u>	» <u>25.4</u>	> <u>19.3</u>	<u>44.4</u>	>37.4	> <u>20.3</u>	> <u>14.1</u>

「まったく」＋「かなり」そう思う割合  
 > 5ポイント >> 10ポイント以上の差  
 — は各項目中の最大値 — — は各項目中の最小値

## 第5章

海外(外国)経験の有無から  
みえてくるもの

浜島 幸司

## 1. はじめに

その昔、海外(外国)旅行は夢の世界だった。渡航の際には、安全面の保障もなく、命がけの行為でもあった。遣唐使、マルコポーロの『東方見聞録』、大航海時代、明治時代エリートたちの欧米留学など、これらは他国の文化を知ることができる反面、リスクも負っていた。

しかし、時代は変わって、今では海外旅行が自由にできる。空路・海路とも技術は発達し、移動時間は短くなった。安全性も格段に高くなっている。旅費も随分と安くなった。日本の社会は「豊か」になり、外国に行くことが身近なものとなり、その距離感は短くなりつつある。パスポートとスケジュールがあれば、海外に行くことが簡単にできる時代なのである。他国の文化などを知ることが、もはや一部の人々の特権ではないともいえよう。

それでは、現在どのくらいの高校生に、海外(外国)経験があるのだろうか。海外経験が「当たり前」なのか、調査結果からみていくことにしたい。その次に、高校生たちの「海外(外国)経験をやる／しない」によって意識に何らかの違いがみられるのか、具体的には、外国・外国人への

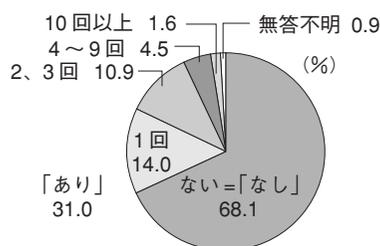
イメージ、日本社会、ナショナリズムといったものの考え方の違いを分析していくことにする。本章の目的は、高校生の海外(外国)経験の有無が、外国や日本に対する意識とどのような関係がみられるのかを明らかにすることにある。高校生のナショナリズムを探る際に、海外(外国)経験の有無が意味することとは何なのか、それを考える材料を提供できたらと思う。

## 2. 海外(外国)経験の有無

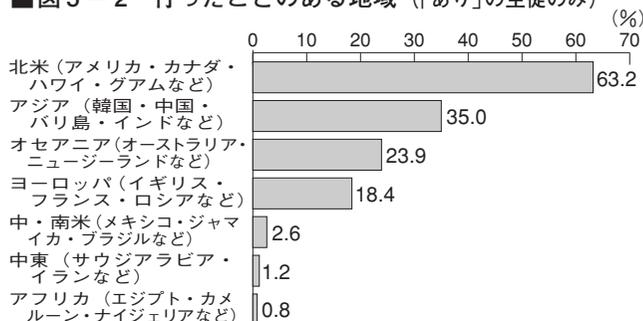
調査時点で、海外(外国)経験のある高校生は、どのくらいいるのだろうか。海外(外国)経験の有無とその回数を尋ねた結果が図5-1である。まず、海外(外国)に行ったことのない生徒が全体で、約7割いる。多くの高校生は、海外(外国)に行ったことがない。その一方で、一度でも海外(外国)へ行ったことのある生徒は、31.0%である。3割の生徒が、海外旅行もしくは両親の仕事の関係上などで、実際に海外(外国)に行った経験があるという結果であった。表は略したが、属性別では、女子とB校に海外(外国)経験者が多い。学年別・成績別では、大きな違いはみられなかった。

海外(外国)経験の回数についてみると、「1

■ 図5-1 海外(外国)経験の有無



■ 図5-2 行ったことのある地域(「あり」の生徒のみ)



回」(14.0%)、もしくは、「2、3回」(10.9%)が多く、「10回以上」(1.6%)の経験を持つ高校生はわずかでしかない。海外(外国)に行ったことがあるとしても、それは頻繁になされているわけではないようだ。

それでは、海外(外国)経験者は、どの場所に行っているのだろうか。世界といっても広いので、地域を分割して尋ねてみた。その結果が図5-2である。最も多く回答された行き先としては「北米」63.2%(312名)である。次いで、「アジア」35.0%(173名)、「オセアニア」23.9%(118名)、「ヨーロッパ」18.4%(91名)である。「中・南米」「中東」「アフリカ」への経験者は少ない。海外(外国)経験といっても、地域に偏りがみられる。「北米」経験が多いということは、高校生の体験する海外(外国)文化とは、もしかしたら「北米」文化ではないかとも思えてしまう。

以上、これら全体の結果から、3割の海外(外国)経験者がいることがわかった。この数値を多いと感じられるのか、それとも少ないと感じられるのかは、読者の世代や経験によって意見が大きく分かれるかもしれない。ともかく、この結果をもとに、海外(外国)経験が「あり」の高校生と、「なし」の高校生との比較を中心とした分析を行うことにする。

### 3. 将来やってみたいこと

将来やってみたいと思うことについて尋ねてみた。表5-1は、全体・性別・学校別・海外(外

国)経験の有無別での「やってみたい(ぜひ十でできれば)」割合である。海外(外国)経験の有無別に限り、海外経験「あり」から「なし」の数値を引いて、差の開き(ポイント)を示した。

まず、全体からみていくと、「やってみたい」と思うことは、「外国に旅行する」(90.5%)、「2か国語くらいは話せるようになる」(89.7%)などが多い。一方、「外国人と結婚する」(24.2%)、「外国の市民権を取得するために、子どもは外国で出産する」(16.1%)は低い。それ以外の項目では、おおむね50~60%の高校生が「やってみたい」と考えている。

性別では、女子が男子と比べて、「やってみたい」と思っている。質問項目のような将来の国際化意識に関しては、女子の方が積極的に考えられる。学校別では、B校の生徒に「やってみたい」が多い。

海外(外国)経験の有無別で見ると、海外(外国)経験が「あり」の生徒が、「なし」の生徒と比べて、「やってみたい」の回答が高い。差がすべてプラスの値を示しているのは、「あり」の生徒の回答が高いことを意味する。この差の開きを注目すると、その値が大きい項目として、「外国の大学に留学する」(19.4ポイント)、「外国で生活する」(19.0ポイント)、「外国人との交流会や、自宅に外国人をホームステイさせる」(15.1ポイント)、「外国人と結婚する」(10.3ポイント)、「外国の市民権を取得するために、子どもは外国で出産する」(10.4ポイント)がある。海外(外国)経験者の方が、将来の外国に関する項目に対し、

■表5-1 将来やってみたいこと × 属性・海外(外国)経験の有無

	全体	性別		χ <sup>2</sup> 検定	学校別			χ <sup>2</sup> 検定	海外(外国)経験の有無			χ <sup>2</sup> 検定
		男子	女子		A校	B校	C校		あり	なし	差	
外国に旅行する	90.5	86.6	96.5	**	87.0	91.8	92.6	**	94.5	89.9	4.6	**
2か国語くらいは話せるようになる	89.7	88.8	92.4	*	88.6	93.5	89.0	*	93.9	89.0	4.9	**
外国人との交流会や、自宅に外国人をホームステイさせる	57.9	45.8	72.2	**	50.0	65.8	56.0	**	69.0	53.9	15.1	**
外国で生活する	57.9	51.7	65.7	**	49.2	64.6	57.0	**	71.5	52.5	19.0	**
環境保護活動に参加する	57.0	53.2	62.4	**	48.8	65.5	54.6	**	61.0	56.0	5.0	
海外で難民を支援する活動に参加する	49.8	41.4	59.7	**	42.5	58.1	47.0	**	57.0	47.1	9.9	**
外国の大学に留学する	49.2	41.9	57.9	**	39.4	60.6	44.9	**	63.0	43.6	19.4	**
外国人と結婚する	24.2	16.5	33.1	**	18.9	27.9	23.9	*	31.6	21.3	10.3	**
外国の市民権を取得するために、子どもは外国で出産する	16.1	12.8	20.0	**	11.0	19.5	15.7	**	23.4	13.0	10.4	**

「ぜひ」+「できれば」やってみたい割合属性ごとに回答割合の高いセルにアミをかけた差は「あり」-「なし」の値(ポイント)  
\* p<0.05 \*\*p<0.01

積極的な意見を持っている。

先の表5-1では、男女差と海外(外国)経験の有無による差が目立った。それでは、男女別にして海外(外国)経験の有無別でみると、どのような結果となるだろうか。将来やってみたいと感じるのは、性差によるものなのか、海外(外国)経験によるものなのか、詳しくみることができる。その結果が図5-3である。

この結果より、最も外国に関して積極的なのは、海外(外国)経験が「あり」の女子である。すべての項目で「やってみたい」が高く、海外(外国)経験が「なし」の女子の回答を大きく上回る。一方、男子の場合、海外(外国)経験が「あり」と「なし」の差は女子ほど大きくない(男子でも「あり」の生徒の方が、「やってみたい」回答は多い)。一言でいうと、海外(外国)経験が「あり」の女子>海外(外国)経験が「なし」の女子・海外(外国)経験が「あり」の男子>海外(外国)経験が「なし」の男子という順番で、将来の外国に対する積極性が異なる。

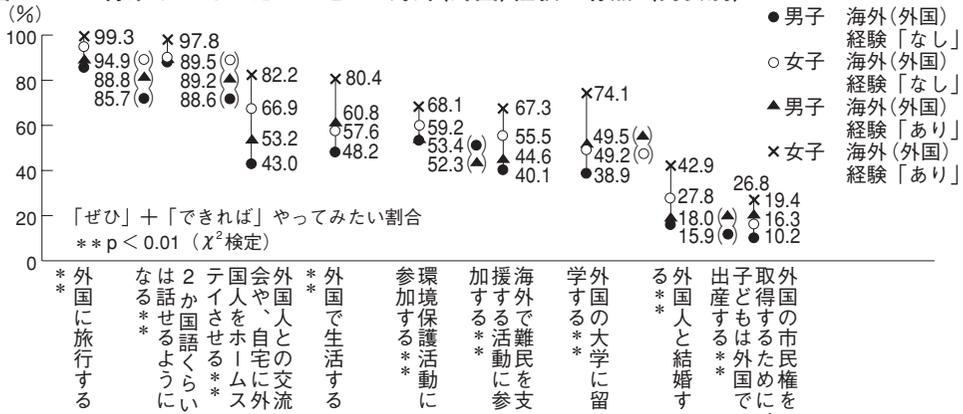
#### 4. 海外(外国)経験と音楽・授業・影響を与えたもの

ここでは、生徒の趣味(音楽)、好きな授業、日本や外国に対して影響を与えたものの項目をみていくことにする。

表5-2が、自分が聴く音楽のジャンルについて、海外(外国)経験が「あり」の生徒と「なし」の生徒の回答を比較したものである。表内の項目は、差の開きをプラスの値を基準にした大きい順に並べ替えている。表中、マイナスの値を示しているのは、海外(外国)経験が「なし」の生徒の回答が、「あり」の生徒よりも大きいことを意味している。

「洋楽」(16.9ポイント)の差が最も大きい。「クラシック音楽」「洋楽のオールディーズ」なども「あり」の回答の方が、「なし」よりもやや多い。一方、「J-POP」「テレビ・映画などの主題歌やテーマ曲」「音楽は聴かない」「日本のオールディ-

■図5-3 将来やってみたいこと × 海外(外国)経験の有無(男女別)



■表5-2 よく聴く音楽ジャンル × 海外(外国)経験の有無

	全体	海外(外国)経験の有無			χ <sup>2</sup> 検定
		あり	なし	差	
洋楽	46.8	58.3	41.4	16.9	**
クラシック音楽	14.0	16.8	12.7	4.1	*
洋楽のオールディーズ	6.3	8.5	5.3	3.2	*
イージーリスニング	2.3	4.0	1.5	2.5	**
日本のオールディーズ	5.4	5.3	5.5	-0.2	
音楽は聴かない	1.7	1.4	1.8	-0.4	
テレビ・映画などの主題歌やテーマ曲	40.6	39.3	41.4	-2.1	
J-POP	86.5	84.6	87.6	-3.0	
その他	7.1	8.9	6.2	2.7	

複数回答  
回答割合の高いセルにアミをかけた  
差は「あり」-「なし」の値(ポイント)  
\* p<0.05 \*\* p<0.01

ズ」については、「なし」の回答の方が、「あり」よりも多い。音楽の趣味と何らかの関係がありそうだ。表は略したが、この傾向は、両親の音楽の趣味を尋ねた結果でも同様であった。両親の音楽の趣味というものも背後にあるのかもしれない。

好きな授業科目（＝興味を持っている勉強科目）についても比較をしてみた（表5-3）。

海外（外国）経験が「あり」の生徒は、「なし」の生徒と比べて、「英語（外国語）」（差は11.5ポイント）、「地理」（同7.2ポイント）で「好き」の回答が多い。好きな教科についても違いを読み取ることができる。ただし、この場合、海外（外国）に行ったから、「英語」が好きになったのだとは考えることはできない。以前から「英語」に興味を持っていたが、海外（外国）に行ったことでさらに好きになったということも考えられよう。とはいえ、海外（外国）経験の有無と好きな教科についても、違いがみられるということは非常に興味深い。

日本や外国に対して影響のある情報源は、両者で異なるのであろうか。

「影響あり」の回答を差の開きの大きい順（プラスの値を基準）に項目を並び替えたものが、表

5-4である。全体では、①「新聞、ラジオ、テレビなどのマスコミ」（63.4%）、②「学校の先生や授業」（31.7%）や「親などの家族」（30.5%）、③「友人や知人」（23.4%）や「旅行や人との出会いなど自分の経験」（18.4%）の順番を示している。しかし、海外（外国）経験が「あり」の生徒の回答は大きく異なっている。彼らは、「旅行や人との出会いなど自分の経験」（37.7%）や「親などの家族」（41.5%）からの影響を大きく受けている（もちろん、マスコミや学校の先生からの影響も受けてはいるが）。それに比べて、「なし」の生徒の「旅行や人との出会いなど自分の経験」（9.8%）や「親などの家族」（25.9%）の影響は低い。

この結果をまとめてみると、海外（外国）経験が「なし」の生徒の情報源は、マスコミや学校など限られたメディアから強く受ける傾向にある。それにひきかえ、「あり」の生徒は、マスコミなどのメディアも情報源となりうるが、自分の経験や家族といった他のメディアを利用することもできている。彼らは、テレビや活字といった一方向的に発信された情報だけではなく、経験や人といった生の（ときには双方向的な）情報からも、日

■表5-3 好きな授業科目 × 海外(外国)経験の有無

	全体	海外(外国)経験の有無			χ <sup>2</sup> 検定
		あり	なし	差	
英語(外国語)	37.5	45.7	34.2	11.5	**
地理	11.6	16.6	9.4	7.2	**
世界史	20.8	23.3	19.9	3.4	
公民(現代社会、倫理、政治・経済)	14.8	15.8	14.6	1.2	
国語(古文)	15.5	16.4	15.2	1.2	
国語(現代文)	22.3	21.7	22.9	-1.2	
日本史	24.1	22.5	25.2	-2.7	

複数回答  
回答割合の高いセルにアミをかけた  
差は「あり」－「なし」の値(ポイント)  
\*\* p<0.01

■表5-4 日本や外国に対する考え方に影響を与えたもの × 海外(外国)経験の有無

	全体	海外(外国)経験の有無			χ <sup>2</sup> 検定
		あり	なし	差	
旅行や人との出会いなど自分の経験	18.4	37.7	9.8	27.9	**
親などの家族	30.5	41.5	25.9	15.6	**
友人や知人	23.4	26.1	22.3	3.8	
インターネット	9.4	9.7	9.4	0.3	
学校の先生や授業	31.7	31.4	32.2	-0.8	
雑誌や本	35.6	27.9	39.4	-11.5	**
マンガ、音楽、映画、料理などの自分の好きなもの(趣味)	41.2	32.6	45.5	-12.9	**
新聞、ラジオ、テレビなどのマスコミ	63.4	50.8	69.9	-19.1	**
その他	2.8	4.9	1.9	3.0	**

複数回答  
回答割合の高いセルにアミをかけた  
差は「あり」－「なし」の値(ポイント)  
\*\* p<0.01

本や外国に対する考え方を得ることができている。海外（外国）経験の有無による影響を受ける情報源の違いが、日本や外国への捉え方にも反映されはしないだろうか。

### 5. 海外(外国)経験と「日本」「外国」への考え方

日本社会を中心に、外国や外国人との関係のあり方について尋ねている。海外（外国）経験の有無によって、考え方に違いがみられるのだろうか。その結果が図5-4である。

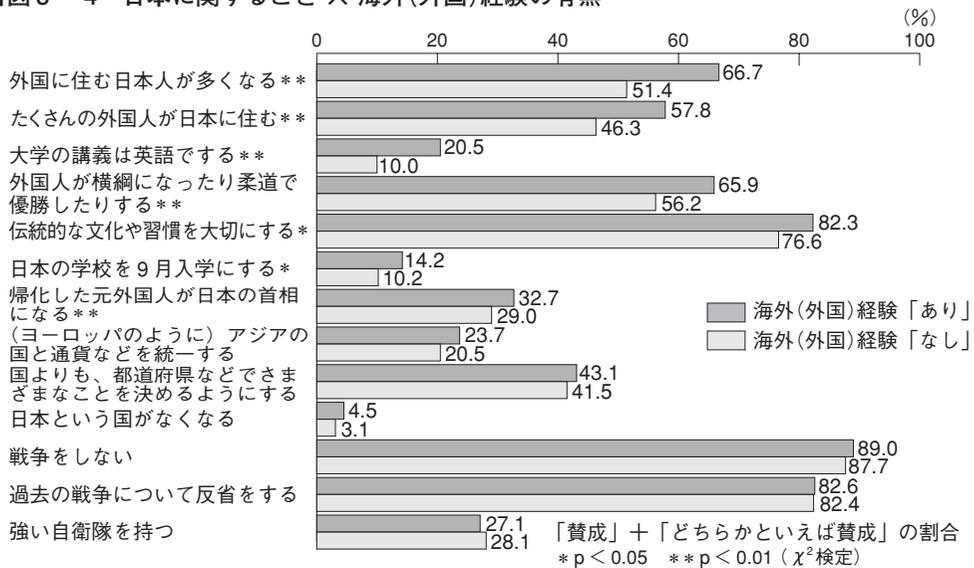
全体では、「戦争をしない」に「賛成」（賛成+どちらかといえば賛成）が87.4%、「過去の戦争について反省をする」に同じく81.7%と、反戦・平和への意見が多い。この意見については、海外（外国）経験が「あり」の生徒も、「なし」の生徒

も差異はない。

それでは、差の開きが大きい項目（プラスの値を基準）についてみると、「外国に住む日本人が多くなる」（15.3ポイント）、「たくさんの外国人が日本に住む」（11.5ポイント）、「大学の講義は英語です」（10.5ポイント）では、海外（外国）経験が「あり」の生徒の「賛成」割合が多い。一方、「あり」の生徒が外国に対して寛容な側面ばかりがみられているわけでもない。たとえば、「伝統的な文化や習慣を大切にする」については、「なし」の生徒よりも「賛成」している（5.7ポイント）。海外（外国）経験は、外国への視野を広げ、寛容になるばかりではない。同時に、自国のことや外国との問題についても考える契機を持っているともいえよう。

国内外のニュースについては、海外（外国）経験が「あり」の生徒に、「なし」の生徒よりも

■図5-4 日本に関すること × 海外(外国)経験の有無



■表5-5 知っている出来事 × 海外(外国)経験の有無

	全体 (%)	海外(外国)経験の有無 (%)			χ² 検定
		あり	なし	差	
韓国の大統領に盧武鉉氏が選出されたことについて	39.2	46.9	35.9	11.0	**
イラクに対する国連査察について	66.1	70.6	64.4	6.2	*
高円宮さまの急逝について	64.3	68.2	62.9	5.3	*
北朝鮮による拉致事件の被害者について	88.0	90.7	87.2	3.5	*
自衛隊イージス艦のインド洋派遣について	34.2	36.0	33.5	2.5	
日本人のノーベル賞2人同時受賞について	86.6	87.8	86.5	1.3	

「よく」+「わりと」知っている割合  
回答割合の高いセルにアミをかけた  
差は「あり」-「なし」の値（ポイント）  
\* p<0.05 \*\* p<0.01

「知っている」(よく十わりと) 割合が多い。「あり」の生徒は、時事問題に敏感といえよう。それが表5-5である。

スポーツの観戦スタイルは、どのようになっていのだろうか。「したい」(とても十かなり)、「してほしい」(とても十かなり)と思う回答を、これまで同様、海外(外国)経験の有無別で比較したものが表5-6である。

「外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する」ことを「したい」と思うのは、海外(外国)経験が「あり」の生徒である。「なし」の生徒との差は8.4ポイントである。国と国との争いのゲームであっても、プレーの内容を重視した観戦スタイルが読み取れる。観戦スタイルの違いは他にもみられた。「日の丸を顔や腕に描く」「応援歌を歌う」の項目で、「あり」の生徒の回答が「なし」の生徒よりも、やや多い。会場一体とな

って地元の選手を応援する参加型の観戦スタイルに関心があるようだ。

最後に「国」に対するイメージについてみていこう。どこの国が「好き」であるかみたものが、表5-7である。

まず、海外(外国)経験の有無によって、「日本」への差はほとんどない。全体で48.7%が「好き」と答えている。回答者の半数が「日本」を「好き」だとしている。

日本以外の地域すべてにおいて、海外(外国)経験が「あり」の生徒に、「なし」の生徒と比べて「好き」が多い。「あり」の生徒は、他の地域の国に対し、好意的なイメージを持っているようだ。差の開きが大きい順にみていくと、「北米」(13.6ポイント)、「オセアニア」(13.0ポイント)、「ヨーロッパ」(10.0ポイント)と続く。欧米社会に好意的である。「アジア」「アフリカ」「中・南

■表5-6 国際的な試合について×海外(外国)経験の有無

	全体	海外(外国)経験の有無			χ <sup>2</sup> 検定
		あり	なし	差	
外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する	77.5	83.6	75.2	8.4	**
日の丸を顔や腕に描く	38.5	42.7	36.6	6.1	*
応援歌を歌う	69.3	73.4	68.0	5.4	*
ウエーブをする	62.9	66.6	61.6	5.0	
日の丸をアレンジしたTシャツやタオルなどを身につける	36.4	39.3	35.0	4.3	
日の丸の旗を持って応援する	51.3	53.2	50.2	3.0	
みんなで「ニッポン!」と叫ぶ	70.5	72.7	69.9	2.8	
試合の前に起立して、みんなで「君が代」を歌う	31.0	32.3	30.5	1.8	
みんなで日本選手の名前を叫ぶ	73.3	74.3	73.1	1.2	
ミスジャッジでも日本に有利な判定には拍手する	29.2	27.3	29.8	-2.5	
日本に不利な判定にブーイングする	45.1	42.7	46.3	-3.6	
試合の前にタレントなどが「君が代」を歌う ※	30.2	27.6	31.4	-3.8	

「とても」+「かなり」したい割合  
 ※この項目の選択肢のみ、「とても」+「かなり」してほしい割合  
 回答割合の高いセルにアミをかけた  
 差は「あり」-「なし」の値(ポイント)  
 \* p<0.05 \*\* p<0.01

■表5-7 好きな国×海外(外国)経験の有無

	全体	海外(外国)経験の有無			χ <sup>2</sup> 検定
		あり	なし	差	
北米(アメリカ・カナダなど)	36.6	45.7	32.1	13.6	**
オセアニア(オーストラリア・ニュージーランドなど)	48.0	56.9	43.9	13.0	**
ヨーロッパ(イギリス・フランス・ロシアなど)	51.7	58.5	48.5	10.0	**
アジア(韓国・中国・インドなど)	15.8	19.2	13.9	5.3	**
アフリカ(エジプト・カメルーン・ナイジェリアなど)	18.3	21.5	16.6	4.9	*
中・南米(メキシコ・ジャマイカ・ブラジルなど)	18.7	21.5	17.2	4.3	*
中 東(サウジアラビア・イランなど)	9.4	10.9	8.5	2.4	
日 本	48.7	49.0	48.5	0.5	

複数回答  
 回答割合の高いセルにアミをかけた  
 差は「あり」-「なし」の値(ポイント)  
 \* p<0.05 \*\* p<0.01

米」なども「あり」の生徒に「好き」が多い。本章の冒頭で、海外（外国）経験者の地域的な偏りをみてきたが、国に対する好意も偏りがみられる。欧米社会への親近感が形成され、維持されている。その背後には、日本と欧米諸国とが政治的、経済的、文化的に強く結びついていることが考えられる。

## 6. まとめ

以上、海外（外国）経験の有無を中心に、彼らの考え方に違いがみられるのかどうかみてきた。その結果、海外（外国）経験が「あり」の生徒と「なし」の生徒とでは、考え方に違いがみられる。

「あり」の生徒は、洋楽を好み、「英語（外国語）」、「地理」を好きな科目としている。自分の旅先での経験や親の意見などの影響を受けて、日本や外国の情報を入手する。外国に日本人が住むこと、外国人が日本にやってくることには寛容である。時事ニュースにも詳しい。スポーツの観戦スタイルは、プレー重視、選手や観客と一体となった応援スタイルを好む。日本以外の他の外国（特に欧米社会）についても好意的なイメージを持つ。国際化社会に関して将来、積極的に「やってみたい」と考える。

「なし」の生徒は、新聞、テレビ、雑誌や本といったマスメディアの影響を受けて、日本や外国の情報を入手する。外国人が増える日本社会に対して、あまり寛容ではない。時事ニュースはそれほど詳しくない。日本以外の他の外国については、それほど好意的なイメージを持っていない。国際化社会に関して将来、「やってみたい」と積極的に考えてはいない。

全体では3割であるが、海外（外国）経験者は、日本以外の外国に対する視野が広がっていると

いえそうだ。経験は海外への興味・関心・寛容性・プラスイメージなどの形成には役立っているのかもしれない。経験の程度（長期滞在か、数泊の小旅行か）は尋ねなかったが、実際に海外（外国）に行ったことの経験は大きい。「百聞は一見にしかず」の諺もある。海外（外国）経験は、少なくとも日本や他の外国について——大きくいえば国際化社会——を考える効果があるようだ。もちろん、現地に行けばそれでよいというような経験のみではなく、その前後には国際化社会（もちろん日本社会も）を知るための知識習得・事後学習も必要だが。

とはいえ、残りの7割の生徒が海外（外国）未経験者である。彼らが日本以外の外国に対する視野が広がらないのは、「海外（外国）経験がないから」で済むことでもあるまい。自分が海外に行かなくとも、国内にいながら外国人と接する機会はすでに日常化している。「日本人」だけが「日本」で生活しているわけではない。それぞれの民族が固有の文化を持ちながら、共生していく時代である。海外（外国）経験はなくとも、多くのことを学ぶ機会はあるはずだ。生徒たちが国際化社会に興味を持てば、自ずと視野が広がっていくのではないか。それをサポートする役割を担うのが高校であり、現場の教師の力量に負うと筆者は考える。国際化社会を考える材料の提供が大事である。高校生の国際化意識がさらに高まれば、多民族と共生する「日本社会」の実現に近づくのではないだろうか。

海外（外国）経験で視野を広げることも大事だが、国内にいてもできることはある。異文化との共存を認め、かつ自国の文化への理解も深める努力をしていこう。そのような提案をして、本章を終えたいと思う。

## 第6章

## ナショナリズムの諸相

大野道夫

## 1. 日本が「好き」という意識

## 1) 日本が「好き」は6割5分

「愛国心」についてはさまざまな定義と議論がある。ここでは日本が「好き」という素朴な意識について考えてみることにしたい。

まず日本についてどれくらい好きかをきいてみると、「好き」（「好き」34.9%＋「やや好き」30.9%）が65.8%で最も多く、「どちらでもない」が24.7%、「嫌い」（「嫌い」2.8%＋「やや嫌い」6.4%）が9.2%だった。

また「日本」から「連想すること」という自由回答でも、

- ・肯定的イメージ26.3%（平和、和、豊か、など）、
- ・否定的イメージ19.0%（不景気、アメリカの言いなり、政治が悪い、など）
- ・その他45.1%（日の丸、島国、食べ物、着物など）

で、肯定的イメージの方が多くなっていった（無回答は9.6%）。なお「その他」の「食べ物」では、鮎、納豆、お茶、梅干し、ご飯などがみられた。

## 2) 町や村、県が「好き」だと日本も「好き」に

次に日本が「好き」という意識と、高校生が所属している他のさまざまなグループなどが「好き」という意識との関係を見ることにしたい。

表6-1に示されるように、家族、友だちのグループ、学校のクラス、学校の部、通っている学校、住んでいる町や村（地域）、住んでいる県、そして日本が「好き」という意識のすべての中で、あるものが「好き」なら、他のものも「好き」という相関関係があった。

特に日本が「好き」という意識とは、住んでいる県（0.374）、住んでいる町や村（地域）（0.321）、家族（0.277）、友だちのグループ（0.247）、通っている学校（0.243）、学校のクラス（0.214）、学校の部（0.098）の順で結びつきがあった。このように日本が「好き」という思いは、やはり住んでいる土地と関連するようであった。なおその他では、町や村（地域）と県（0.682）、友だちとクラス（0.525）などの間で「好き」という意識の結びつきが強かった（数値は相関係数で、相関関係の強さをあらわす）。

■表6-1 日本が「好き」と他のグループなどが「好き」の関係

	(相関係数)						
	家族	友だちのグループ	学校のクラス	学校の部	通っている学校	住んでいる町や村(地域)	住んでいる県
家族	—	—	—	—	—	—	—
友だちのグループ	0.377**	—	—	—	—	—	—
学校のクラス	0.293**	0.525**	—	—	—	—	—
学校の部	0.228**	0.374**	0.305**	—	—	—	—
通っている学校	0.317**	0.312**	0.447**	0.388**	—	—	—
住んでいる町や村(地域)	0.304**	0.247**	0.253**	0.243**	0.392**	—	—
住んでいる県	0.303**	0.232**	0.263**	0.168**	0.374**	0.682**	—
日本	0.277**	0.247**	0.214**	0.098**	0.243**	0.321**	0.374**

\*\*=危険率1%の両側検定で有意な差がある

## 2. ナショナリズムの志向

### 1) 日本も外国も好きという相互性志向は約4割

次に日本が「好き」という志向と、外国が「好き」という志向との関係性をみることにしたい。Q12から、日本の国が好きに○—日本の国が好きに○をつけない（X軸）、外国の国が好きに1つでも○—外国の国が好きに1つも○をつけない（Y軸）を組み合わせ、ナショナリズムの枠組みを作成した。

すると図6-1にみられるように、日本が好きで外国も好きという相互性志向（第1象限）が40.3%で最も多く、次いで、日本が好きでなく外国が好きという外国志向（第2象限）が31.8%、そして日本も外国も好きでないというゼロ志向（第3象限）が19.5%、日本が好きで外国は好きでないという自国志向（第4象限）が8.4%であった。このように現代の高校生のナショナリズムは、日本が好きだが排他的になるのではなく外国

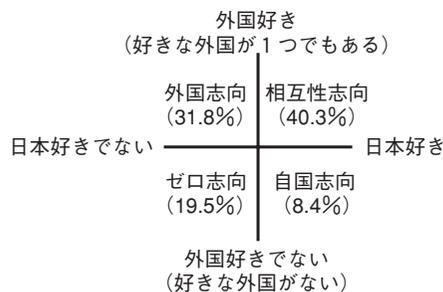
も好きという相互性志向が最も多かった。

またこの相互性志向は、学校の先生や授業一特に「国語（現代文）」「国語（古文）」「英語（外国語）」「日本史」「地理」が好きな場合、そして「旅行や人との出会いなど自分の経験」があるほど多くなる傾向がみられた。

### 2) 日の丸での応援は相互性志向に関連

それではこのナショナリズムの志向と、第2章でみた国際的な試合での応援の方法との関係性を分析することにした。表6-2に示されるように、自国志向の生徒に「試合の前に起立して、みんなで『君が代』を歌う」13.4%、「試合の前にタレントなどが『君が代』を歌う」11.4%が最も多くなっている。しかし「日の丸の旗を持って応援する」20.9%、「日の丸を顔や腕に描く」13.3%、「日の丸をアレンジしたTシャツやタオルなどを身につける」12.6%、「みんなで『ニッポン!』と叫ぶ」41.7%、「みんなで日本選手の名前を叫ぶ」41.2%、「応援歌を歌う」33.5%は、むしろ相互性志向の生徒に多い。このように若者<sup>1)</sup>の応援

■図6-1 ナショナリズムの志向



■表6-2 ナショナリズムの志向と応援の方法

	(%)			
	ゼロ志向	外国志向	自国志向	相互性志向
試合の前に起立して、みんなで「君が代」を歌う	6.6	6.7	13.4	10.5
試合の前にタレントなどが「君が代」を歌う※	7.1	6.9	11.4	7.2
日の丸の旗を持って応援する	8.1	12.5	18.1	20.9
日の丸を顔や腕に描く	5.2	8.5	8.2	13.3
日の丸をアレンジしたTシャツやタオルなどを身につける	5.8	7.1	8.2	12.6
みんなで「ニッポン!」と叫ぶ	22.5	30.3	29.9	41.7
みんなで日本選手の名前を叫ぶ	21.8	32.7	29.9	41.2
応援歌を歌う	19.3	27.3	23.3	33.5

「とてほしい」の割合  
 ※この項目の選択肢のみ、「とてしてほしい」の割合  
 — は最大値

の方法に危惧を持つ議論もあるが、日の丸は少なくとも応援のときは、自国志向との関係よりも、相互性志向の生徒が積極的に応援する形態の1つとして存在するようであった。

### 3) サブカルチャーが好きだとその国も好きになる

さまざまな国の、音楽や映画、ファッションなどのサブカルチャーについてみてみよう。まず好きな「音楽や映画、テレビ番組」についてみると、「日本」84.5%、「北米」63.9%、「ヨーロッパ」34.8%の順で、あとの地域は1割以下であった。外国の具体的な内容としては、ハリウッド映画（金がかかっていて迫力がある）、洋楽（日本のより歌がうまい）、パンクロックやヒップホップ（かっこいい）などがみられた。また好きな「料理やファッション」は、「日本」71.7%、「ヨーロッパ」64.7%、「アジア」53.6%、「北米」51.0%の順で、あとの地域は2割かそれ以下であった。外国の具体的な内容としては、イタリア料理、キムチ、中華料理などがみられた。

また日本を含めたどの地域においても、音楽や映画、テレビ番組、そして料理やファッションが好きだと、その国も好きになるという傾向がみられた。このように音楽や料理、ファッションなどのサブカルチャーに関心を持ち、リスペクトすることは、ある国を理解し、好きになることに影響を与えているようであった。

## 3. 日本の将来像

それでは最後に、高校生が描く日本の将来像をみることにしたい。

### 1) 国内と外へのベクトル

現在日本に限らず近代化によって成立した国には、その内外へさまざまなベクトルが働いていると考えられる。

まず移民という、人の移動についてのベクトルをきいてみよう。表6-3にみられるように、「たくさんの外国人が日本に住む」という移入民に賛成（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」、以下同様）が49.8%、それに対して「外国に住む日本人が多くなる」という移出民に賛成が55.9%でやや多くなっていた。

次に、「国よりも、都道府県などでさまざまなことを決めるようにする」という国内への地方分権のベクトルは、41.7%が賛成で、反対は14.0%（「反対」＋「どちらかといえば反対」、以下同様）であった。それに対して、「（ヨーロッパのように）アジアの国と通貨などを統一する」という国の外へのベクトルは、賛成が21.3%、反対が41.9%であった。このように高校生にとって、ワールドカップの日韓共催などはあったが、さしあたり日本周辺のアジアの国との国家の統合は現実味がないようであった。

■表6-3 日本の将来像

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらでもない	どちらかといえば反対	反対
たくさんの外国人が日本に住む	24.8	25.0	30.4	13.0	6.5
外国に住む日本人が多くなる	26.5	29.4	35.6	6.5	1.6
国よりも、都道府県などでさまざまなことを決めるようにする	14.6	27.1	43.7	9.9	4.1
（ヨーロッパのように）アジアの国と通貨などを統一する	9.4	11.9	36.4	21.7	20.2
伝統的な文化や習慣を大切にする	45.9	31.9	18.2	2.1	1.3
強い自衛隊を持つ	12.3	15.4	39.2	18.9	13.8
戦争をしない	79.9	7.5	8.2	1.1	2.6
過去の戦争について反省をする	62.7	19.0	13.1	1.8	2.7
日本という国がなくなる	1.8	1.7	12.8	10.7	72.7

## 2) 9割近くが戦争反対

次に戦争の問題についてみると、「戦争をしない」に賛成が9割近く(87.4%)あり、高校生においても反戦志向は強いようであった。これは「戦争」から「連想すること」という自由回答にもあらわれており、

- ・肯定的イメージ0.5% (参加したい、時には必要など)、
- ・否定的イメージ65.6% (死、反対、こわいなど)
- ・その他 26.5% (アメリカ、第2次大戦、原爆など)

というように、否定的イメージが圧倒的になっていった(無回答は7.4%)。

「親などの家族」、そして「旅行や人との出会いなど自分の体験」の影響がある者は、反戦志向が強かった。また日本や外国に対する考え方に影響を与えたものとしてインターネットを選択した場合は、むしろ「戦争をしない」に賛成が少なくなるといふ戦争志向に影響を与えていた。

日本が好きという意識との関係については、日本が「好き」なほど「戦争をしない」に賛成が増える(日本が「嫌い」60.0%<「好き」85.2%)という傾向がみられた。このように「日本が好き」という意識は、むしろ他の国と戦争をしないという反戦志向と関係があった。

またナショナリズムの志向との関係を見ると、「戦争をしない」に賛成は、相互性志向(91.2%)、自国志向(90.3%)、外国志向(87.5%)、ゼロ志向(80.7%)の順で、特に日本も外国も好きでないというゼロ志向に「戦争をしない」という反戦志向が少なかった。

## 3) 過去の戦争についての反省も8割

また過去の戦争についても、「過去の戦争について反省をする」に賛成が8割(81.7%)あり、反対は4.5%であった。

ただ「強い自衛隊を持つ」については、「賛成」27.7%、「どちらでもない」39.2%、「反対」32.7%となっており、「どちらでもない」が4割近くで最も多く、「賛成」と「反対」が3割前後という拮抗した関係がみられた。

なおこれらの意見は関連しており、「過去の戦争について反省をする」高校生ほど「戦争をしない」という傾向がみられた。またそれに対して、「強い自衛隊を持つ」と考える高校生ほど、「戦争をしない」と思わず、「過去の戦争について反省する」のではないという傾向がみられた。

## 4) 文化や習慣を大切に使うが8割

最後に日本の文化への意識についてみると、「伝統的な文化や習慣を大切に使う」に「賛成」が77.8%で、8割近くの高校生が日本の文化を大切に思っていた。また「日本という国がなくなる」に「賛成」は3.5%、「反対」が83.4%で、8割以上の高校生は、日本がなくなることを望んでいなかった。

## 4. 調査結果

### 1) 高校生のソフトなナショナリズム

今回の調査から、ウルトラ・ナショナリズムでもナショナリズムの完全な否定でもない、高校生のソフトなナショナリズムがみえてくるように思う。調査では政治の面だけでなく、スポーツなどの文化の面もとりあげてきたので、それにふれながらまとめていくことにしたい。

#### ①ソフトな「ナショナルなもの」の範囲

高校生のソフトなナショナリズムは、まず「ナショナルなもの」の範囲にみられる。それは「ナショナルチーム」への意識に典型的にみられる。第2章でみたように、日本のチームに対して、外国人監督に約8割、外国人選手に約6割が賛成しているが、これなどは10年前に調査をすれば、許容範囲はより狭かったと考えられる。ただしナショナルチーム(日本のチーム)を否定しているわけではなく、外国人選手を許容する高校生の約7割が、それが選手全体の3割以下という限度を望んでいる。また外国で活躍している日本選手もオリンピックなどでは日本のチームにもどってきてほしいという期待も、7割以上に達していた。

またこのようなソフトな「ナショナルなもの」の範囲は、国自体についてもみられる。たとえば移入民は約5割、移出民は約5割5分の高校生が賛成するが、アジアの国との統合は約2割しか望まず、日本がなくなることには8割以上が反対している。

なおこのスポーツチーム、国への意識には関連がみられる。外国人監督、外国人選手を認める高校生は、移入民、移出民に賛成する傾向がみられる。また外国で活躍している日本選手もオリンピックなどでは日本のチームにもどってきてほしいと願う高校生は、アジアの国との統合を望まず、伝統的な文化や習慣を大切に、日本がなくなることには反対する傾向がみられた。

このように現代の高校生は、「ナショナルなもの

の」の範囲としてさまざまなものをソフトに受け入れるが、日本が他国と統合したりなくなったりすることは望んでいない、という傾向がみられる。

## ②ソフトな外国との関係

また高校生のソフトなナショナリズムは、他の国との関係でもみられる。第2章でみたように、スポーツで「外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する」は約8割に達している。それに対して、「ミスジャッジでも日本に有利な判定には拍手する」は約3割であった。

また、ナショナリズムの志向は日本も好きで外国も好きという相互性志向が約4割で最も多かった。また外国に対して、「戦争をしない」に賛成が約9割、「過去の戦争について反省する」が約8割であった。

この外国に対する、スポーツとナショナリズムに関する志向などにも関係がみられる。すなわち、スポーツで外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する者は、ナショナリズムの相互性志向に最も多く、また戦争をしない、過去の戦争を反省する、という傾向がみられた。

## 2) 近代国家のゆらぎとナショナリズム

ところで、現在はナショナリズム<sup>2)</sup>が高まっているといわれるが、むしろ21世紀は近代化により形成されたナショナリズム、国がゆらいでいる時期ではないだろうか？ 日本ではあまり顕在化されていないが、ヨーロッパのように国家連合へのベクトルや、逆のベクトルで内部の移民や民族問題でゆらいでいる国は多い。また日本でもグローバリズムの政治、経済への影響や、道州制などの地方自治へのベクトルが議論されている。またアメリカ、ロシアなどの大国でも、内外からのテロから完全に自国を守ることができないでいる。このように、お腹が病気になるとそれまで意識されなかった胃が意識されるように、現在のナショナリズムへの関心の高まりは、むしろ近代化によって形成された国、そしてナショナリズムの危機が反映されているように思われる。

また日本のナショナリズムの歴史はやや特殊で、遅れてきた近代化により戦前にウルトラ・ナショナリズムが台頭した。それが第2次大戦をへて戦後批判されたが、戦後50年、1990年代の半ばぐらいから、戦後の「見直し」、おおよげ公論などの新保守主義が台頭し、現在まで続いている。また新保守主義に対して、日本ではあまり顕在化していないが、地方分権、コスモポリタンな国家、多文化

主義、国連などによるグローバルなガバナンス（統治）という第3の道<sup>3)</sup>を唱える立場もある。またナショナリズムを強く否定する議論も継続し、エグザイル（亡命者）<sup>4)</sup>としての視点を唱える議論もある。

そして高校生のソフトなナショナリズムは、メディアが発達して人間や情報が国を越えて行き来するなか、前述した国のゆらぎに対応した意識、といえるだろう。

## おわりに代えて——ナショナリズムのゆくえ

なお、このようなソフトなナショナリズムが、今後どのように変わるかは未知数である。

ただ外国との関係では、ナショナリズムの相互性志向には、学校の先生や授業、旅行や人との出会いなどの自分の経験が影響を与えていた。また戦争をしないという反戦志向には、家族、旅行や人との出会いなどの自分の経験が影響を与えていた。また両者の関係は、相互性志向が反戦志向に関係し、そして日本だけが好きという自国志向よりも日本も外国も好きでないというゼロ志向の方に戦争志向が強くなっていた。

このように日本が好きな場合でも、それが外国に対して排他的にならないためには、授業や家族、そしてさまざまな体験の場を提供していくことが重要であろう。

第1章の音楽の分析でみたように、「日本的なもの」も受け手の多様な歌い方や感じ方の積み重ねで変化していく。どのようなナショナリズムであろうとその未来形は若者が決めるものであり、そのゆくえを注意深く見守っていききたい。

（なお、自由回答の分析では大正大学2年生ゼミ生の協力を得た）

## [注および引用文献]

- 1) 香山リカ『ぶちナショナリズム症候群—若者たちのニッポン主義』中公新書、2002年
- 2) なおナショナリズム (nationalism) は、民族主義、国民主義、国家主義等と訳されるように非常に多義的な概念である。ここでは、あるネーション（これ自体多義的な概念だが、一般には国民、民族等と訳されている）の一体性、自立性、発展をめざす意識、とゆるやかに定義しておくことにしたい。（参考文献、森岡清美、塩原勉、本間康平『新社会学辞典』有斐閣、1993年）
- 3) A. ギデンズ（佐和隆光訳）『第3の道』日本経済新聞社、1999年
- 4) エドワード・W・サイード（大橋洋一訳）『知識人とは何か』平凡社、1995年

## ●まとめに代えて

## 21世紀型ナショナルのパラダイム作りを

深谷昌志

## ●日本と外国との相互乗り入れ

これまでふれてきたように、高校生にとっての日本を調べてみた。その中で最も印象的だったのは、日本と外国との境界意識が薄れている事実だった。

スポーツの項で紹介したように、「日本のチームの監督に外国人がなってもいいと思う」に賛成する者は78.6%、「日本の選手も、どんどん外国で活躍してほしい」と思う生徒も83.2%を占める。

もっとも、サッカーの日本代表の監督といえば、オフトやトルシエ、ジーコの名前が浮かぶし、日本人選手の海外活躍の例としては、中田英寿や中村俊輔をはじめ、サッカーだけでも10人近い名前があがってくる。

こうした傾向を視野に入れると、事実の方が先行しているという印象を抱く。スポーツに限っても、サッカーのほか、野球、テニス、ゴルフなど、現在では多くの日本人選手が海外で活躍している。少数ながら、バスケットやアメフト、ラグビーでがんばっている選手もいる。それとは逆に日本でも、サッカーや野球、バスケット、ゴルフなどでは、外国人選手が日本人選手以上に活躍している。

もちろん、こうした状況はスポーツより、音楽などではもっと激しい。第1章でふれているように、「なつかしく、親しみを持てる」という意味では、《翼をください》と《カントリーロード》は同じカテゴリーに入る。音楽の中に、ロック系やラップ系などの分類があっても、国籍は問われないのであろう。ソウル系がアメリカ南部をルーツにするのは確かだが、国際化するにつれて、ルーツは本籍のようなものになる。そして、その文化はルーツを越えて広く共通されるようになる。

## ●多重の世界から

仕事の関係で、山形県の酒田を訪問した。山脈をへだて、鉄道の路線も異なるので、酒田は庄内という独自の文化圏を作り、山形や米沢と文化圏を異にしている。酒田の人と話していると、酒田の中が海岸部や山間部などに分かれ、酒田がそうしたエリアを統合する単位として機能している。

酒田という地域があって、その上に山形という県、さらにその上に日本、そして世界というように、多重構造の外縁に世界が位置している。

酒田の後で、土佐の中村を訪ねた。高知から単線の特急で2時間半かかる地域らしく、中村は高知とは別の文化圏だった。ここでは、市町村が合併して、四万十市を作る動きが具体化していた。中村は京都の一条家の流れを汲む小京都で、中村としてまとまりのある文化圏を形成している。そして、酒田と同じように、中村（地域）—高知（県）—日本—世界と4層構造を設定すると理解しやすい。

筆者は東京の上野に生まれた。当時の感覚では、上野は浅草までを含めた範囲で下町文化圏を作っていて、人形町や水天宮はむろん、銀座や新橋は同じ下町でも、別の文化圏という感じだった。まして、山の手住宅地は、まったく無縁の世界で、山の手と下町との間は、現在の日本とアメリカの差以上の距離を感じていた。

したがって、酒田や中村のような地域感覚は都市にもみられたように思われる。歴史的な考察を加えるなら、幕藩体制の名残を受け、明治に入っても、藩が社会の単位で、国といえば、藩的な規模をイメージした人が多かったのであろう。そのような中で、藩的な愛着心を弱めつつ、国的な意識を強固にしていっていったのが日本の近代であろう。そうした意味では、国という概念は近代化の中で意図的に形成されたもので、決して昔から存在したものではない。

## ●交流の中から独自性を作る

現在、筆者は千葉県の幕張メッセの近くに住んでいるが、残念ながら、幕張メッセのような地域に独自の文化圏を感じることはできない。地域意識が希薄なだけでなく、千葉県という気持ちも薄い。千葉都民という言い方は、埼玉都民や神奈川都民にも通じるもので、関東エリアでは、県という感覚も弱い。

このところ、幕張メッセの近くでは、外国人を見かけることが多い。旅行者だけでなく、情報処理の会社員もいれば、店で働く人もいる。それだけに、国際化が日常化し、伝統的な日本意識がゆらいできたのを感じる。

すでにふれたように、日本と外国との境界が曖昧というのが、高校生の反応の特性だった。しかし、おとなたちにしても、少しずつ境界の曖昧な世界に身を置いているのではないか。食事を例にすれば、和食、中華、イタリアン、韓国、インドなどのミックスだし、衣類もさまざまな産地のものを利用している。高校生ほどではないにしても、生活の中に外国がとけ込み、日本独自を保てない状況が進んでいる。

現在のようにグローバル化された情勢のもとでは、それぞれの国が交流の少ない中で、その国の固有な文化を持つという形のかつての国意識は崩壊していく。いわば、20世紀型の国家のパラダイムは有効性を失っている。だからといって、ナショナルは喪失するのか。

つまり、グローバル化すれば、国意識が解消するのだろうかという疑問が生まれる。EUがそうした新しい国像を提起している。EU社会では、統合の動きが強まる中で、独自性を持っていないと周囲に圧倒され、自分の文化が消滅してしまう。それだけに、EU時代だからこそ、ミュンヘンとかフランクフルト、コペンハーゲンなど、それぞれの文化を発揮することが大事になるといわれ

る。

それと同じように、グローバル化社会の中で生き抜くためには、これまで以上に独自性の形成が大事になる。

今回の調査の中で、高校生は日本社会に否定的な反応を示した。日本のイメージとして、「物が豊か」(87.5%)で、「平和な国だ」(76.2%)と思うが、「自由」(48.1%)で、「民主主義が発達している」(47.0%)とは思えない。「国民の意見が政治に反映されていない」も82.9%に達する。日本社会に誇りを持ちにくい。これでは、自信を持って日本を自分のものとして内在しにくい。そこで問題になるのは、高校生が積極的に支持できる日本らしさをいかに形成できるかであろう。日本社会を住みよい場として、生徒たちからみて誇りの持てる社会にすることが重要であろう。そして、日本のみに固執するのではなく、グローバル化を認めた上で、独自性を発揮する。それが21世紀型のナショナルなもののパラダイムであろう。

こうしたとき、ストレートな形で国を持ち出しても現実感がなく、独自性も見いだしにくい。国というより、「我が住む町」を出発点とするのが現実的であろう。「我が住む町」に愛着を持てれば、その延長線上に国意識も成り立つ。

「我が住む町」といっても、高校生なりの町でよいわけで、地域にコミットして、自分なりの誇りの持てる町意識を作る。しかし、高校生が町と無関係に生きているのが現状であろう。

表3-6 (p.24)、表3-7 (p.25)で示したように、家族や部活動、クラス、学校などの集団にコミットしている者は日本を意識していた。どのようなものであれ、社会集団にコミットしていると、社会性が育ってくる。そうした意味では、高校生たちが帰属集団を持たず、一人ひとりで孤立していることがナショナルを考えるとときの最も大きな問題のように思われる。

## アンケートのお願い

このアンケートは、高校生の皆さんから見ただけ日本についてお聞きするためにつくったものです。あなたの大切な時間をいただいて申しあげませんが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。  
(お名前はいりませんので、ありのままをお答えください)

高校教育研究会  
 東京成徳短期大学教授 深谷 昌志  
 上智大学教授 武内 清  
 明治学院大学教授 望月 重信

1 1 まず、あなたの学校、学年、性別についてお聞きします。

1. 学校名……(                      ) 高等学校
2. 学 年……( 1. 1年    2. 2年 ) (○をつけてください)
3. 性 別……( 1. 男子    2. 女子 ) (○をつけてください)

1. 音楽、食べ物、スポーツなどについてお聞きします。

2 「日本的な歌(音楽)」と聞いて、あなたが一番最初に思い出すのは、どんな歌や音楽ですか。その歌や音楽のタイトルを  の中に書いてください。正確なタイトルが思い出せない場合は、タイトルや歌詞の一部でもかまいません。

3 あなたは今まで、小・中学校の音楽の授業以外に、次にあげるようなかたちで音楽を習ったり、したことがありますか。

- |                          |            |               |             |
|--------------------------|------------|---------------|-------------|
|                          | 現在<br>している | かついだ<br>ことがある | したこと<br>がない |
| 1. 高校の芸術の授業で音楽を選択する      | -----      | -----         | -----       |
| 2. 学校で音楽系のクラブ活動や部活動に参加する | -----      | -----         | -----       |
| 3. 友達とバンドを組む             | -----      | -----         | -----       |
| 4. ピアノを習う                | -----      | -----         | -----       |
| 5. 管弦楽器など西洋音楽の楽器を習う      | -----      | -----         | -----       |
| 6. 琴や三味線や太鼓など和楽器を習う      | -----      | -----         | -----       |

【回答のしかた】 特にとわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ○をつけてください。

7. あなたの音楽へのかわりについてお聞きします。あなたはふだん、次のようなことをどれくらいしますか。

- |          |      |        |        |         |         |
|----------|------|--------|--------|---------|---------|
| 毎日のようにする | よくする | ときどきする | あまりしない | ほとんどしない | まったくしない |
| 1        | 2    | 3      | 4      | 5       | 6       |
1. コンサートやライブに行く……………1—2—3—4—5—6
  2. カラオケに行く……………1—2—3—4—5—6
  3. 外出するときにポータブルCD、MDプレーヤーなどで音楽を聴く……………1—2—3—4—5—6
  4. 家でテレビやラジオの音楽番組を聴く……………1—2—3—4—5—6
  5. 家でCDやMDなどを聴く……………1—2—3—4—5—6
  6. 勉強しているときに“ながら聴き”をする……………1—2—3—4—5—6
  7. 習い事などとは関係なく、楽器を弾いたり歌ったりする……………1—2—3—4—5—6
  8. お店でCDやMDを買う……………1—2—3—4—5—6
  9. レンタルCDを借りる……………1—2—3—4—5—6
  10. 友だちとCDやMDなどの貸し借りをする……………1—2—3—4—5—6
  11. 友だちとJ-POPや洋楽の話を……………1—2—3—4—5—6

8. あなたがふだん、よく聴く音楽のジャンルは何ですか。あなたはまるきりのすべてにQをつけてください。

- |                      |               |               |
|----------------------|---------------|---------------|
| 1. J-POP             | 2. 洋楽         | 3. クラシック音楽    |
| 4. イージーリスニング         | 5. 日本のオールディーズ | 6. 洋楽のオールディーズ |
| 7. テレビ・映画などの主題歌やテーマ曲 |               |               |
| 8. その他 ( )           |               |               |
| 9. 音楽は聴かない           |               |               |

9. あなたの家族の方がふだん、よく聴く音楽のジャンルは何ですか。あなたはまるきりのすべてにQをつけてください。

- |                      |               |               |
|----------------------|---------------|---------------|
| 1. J-POP             | 2. 洋楽         | 3. クラシック音楽    |
| 4. イージーリスニング         | 5. 日本のオールディーズ | 6. 洋楽のオールディーズ |
| 7. テレビ・映画などの主題歌やテーマ曲 |               |               |
| 8. その他 ( )           |               |               |
| 9. 音楽は聴かない           |               |               |

7. あなたは、次にあげる歌や曲に「なつかしさ」や「親しみ」や「日本の音楽らしさ」を感じますか。それぞれについて、あてはまるすべての欄にQをつけてください。また、その歌や曲を知らない場合は、「この歌を知らない」の欄にQをつけてください。

	1		2		3		4	
	なつかしさを感ずる		親しみを感ずる		日本の音楽らしさを感ずる		この歌を知らない	
1. 「故郷（ふるさと）」								
2. 「蛍の光」								
3. 「越天楽今様」								
4. 「さくらさくら」								
5. 「蟹をください」								
6. 「北の国から」								
7. 「アイーダ」(W杯日本代表応援歌)								
8. 「大きな古時計」								
9. 「いとこのエリー」								
10. 「負けないで」								
11. 「ハワイ口旅立ち」								
12. 「LOVE LOVE LOVE」								
13. 「カントリロード」								
14. 「川の流れるように」								
15. 「First Love」								

8. 次の中から、あなたの好きな食べ物を3つ選んでQをつけてください。

- |         |          |             |          |
|---------|----------|-------------|----------|
| 1. おすし  | 2. 天ぷら   | 3. そば (うどん) | 4. ハンバーグ |
| 5. ステーキ | 6. ピザ    | 7. スパゲッティ   | 8. ビシンバ  |
| 9. 焼き肉  | 10. ぎょうざ | 11. 八宝菜     |          |

9. あなたは、次のような食べ物を食べるとき、ある特定の国との結びつきを感じますか。

- |                |             |            |            |
|----------------|-------------|------------|------------|
| 1. ハンバーガーとアメリカ | 2. コーラとアメリカ | 3. ピザとイタリア | 4. カレーとインド |
| 1              | 1           | 1          | 1          |
| 2              | 2           | 2          | 2          |
| 3              | 3           | 3          | 3          |
| 4              | 4           | 4          | 4          |

資料1 ◆調査票見本

6. みんなで「ニッポン！」と叫ぶ……………1——2——3——4
7. みんなで日本選手の名前を叫ぶ……………1——2——3——4
8. ウェーブをする……………1——2——3——4
9. 応援歌を歌う……………1——2——3——4
10. 外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する……………1——2——3——4
11. 日本に不利な判定にブーイングする……………1——2——3——4
12. ミスジャッジでも日本に有利な判定には拍手する……………1——2——3——4

12 次の中から、あなたが好きなものがあれば、あてはまるすべての欄に○をつけてください。

	1 音楽や映画、 テレビ番組	2 料理や ファッション	3 国
1. 日本の			
2. アジア (韓国・中国・インドなど) の			
3. 中東 (サウジアラビア・イランなど) の			
4. ヨーロッパ (イギリス・フランス・ロシアなど) の			
5. アフリカ (エジプト・カメルーン・ナイジェリアなど) の			
6. 北米 (アメリカ・カナダなど) の			
7. 中・南米 (メキシコ・ジャマイカ・ブラジルなど) の			
8. オセアニア (オーストラリア・ニュージーランドなど) の			

SQ. 特に好きな外国の音楽、映画、テレビ番組、料理、ファッション、国などがあれば、その理由もふくめて教えてください。

〔 外国の好きなもの : 〕

〔 理由 : 〕

5. みそ汁と日本……………1——2——3——4
6. キムチと韓国……………1——2——3——4
7. ラーメンと中国……………1——2——3——4

10 野球やサッカーなどのチームが、オリンピックのような国際的な試合に出るときなど、あなたほどのように思えますか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。

1. 日本のチームの監督に外国人がなってもいいと思う
2. 日本のチームに外国人の選手が入ってもいいと思う
- ↓
- SQ. [○をつけた人にお聞きします。]  
外国人の選手がどれくらい入ってもいいと思いますか。
1. 何人でも入ってよい
2. 半分くらい
3. 2、3割くらい
4. 1割くらい
3. 日本の選手も、どんだん外国で活躍してほしい
4. 外国で活躍している日本選手も、オリンピックなどの国際的な試合では日本のチームにもどってきてほしい
5. 団体競技で、日本のチームと外国のチームの試合で外国を応援したことがある
6. 個人競技で、日本人と外国人の試合で外国人を応援したことがある

11 オリピックなどの国際的な試合で、あなたは次のようなことをしたい(してほしい)と思いますか。

1. 試合の前に起立して、みんなが「君が代」を歌う……………1——2——3——4
2. 試合の前にタレントなどが「君が代」を歌う……………1——2——3——4
3. 日の丸の旗を持って応援する……………1——2——3——4
4. 日の丸を顔や腕に描く……………1——2——3——4
5. 日の丸をアレンジしたTシャツやタオルなどを身につける……………1——2——3——4

II. 次に、あなたの日本についての考え方をお聞きします。

13. あなたが、「日本」または「日本人」を感じるときは、どんなときですか。
- |        |        |         |          |
|--------|--------|---------|----------|
| とても感じる | かなり感じる | あまり感じない | ぜんぜん感じない |
| 1      | 2      | 3       | 4        |
- オリンピックで日の丸があがったとき
  - 温泉に入ってこたつでのんびりするとき
  - スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき
  - 和服を着たり、着ている人を見るとき
  - 宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること
  - 能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき
  - 漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき
  - 京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき
  - 日本の昔話や童話を触れるとき
  - 水道水が安心して飲めるとき
  - 外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと

14. あなたはさまざまなグループなどに所属していると思いますが、自分が入っている次のようなグループをどれくらい好きですか。

- |    |      |         |      |    |
|----|------|---------|------|----|
| 好き | やや好き | どちらでもない | やや嫌い | 嫌い |
| 1  | 2    | 3       | 4    | 5  |
- 家族
  - 友だちのグループ
  - 学校のクラス
  - 学校の部
  - 通っている学校
  - 住んでいる町や村(地域)
  - 住んでいる県
  - 日本

15. あなたは、次のような出来事を知っていますか。

- |         |          |         |          |
|---------|----------|---------|----------|
| よく知っている | わりと知っている | あまり知らない | まったく知らない |
| 1       | 2        | 3       | 4        |
- イラクに対する国連査察について
  - 日本人のノーベル賞2人同時受賞について
  - 北朝鮮による拉致事件の被害者について
  - 韓国の大統領に盧武鉉氏が選出されたことについて
  - 自衛隊イージス艦のインド洋派遣について
  - 高円宮さまの急逝について

16. 今の日本の社会について、あなたはどのように思っていますか。

- |          |         |           |          |
|----------|---------|-----------|----------|
| まったくそう思う | かなりそう思う | あまりそう思わない | まったく思わない |
| 1        | 2       | 3         | 4        |
- とても自由だ
  - 男女平等だ
  - 誰でも努力さえすれば高い地位につける
  - 物が豊かにある
  - 平和な国だと思う
  - 学歴がものをいう社会だ
  - 民主主義が浸透している
  - 大企業の方が強い
  - 若者とおとなの考え方の差が大きい
  - 国民の意見が政治に反映されていない
  - 日本はいい国だ
  - 自然が美しい

17. あなたは、日本に関する次のようなことについて、どのように思っていますか。

- |    |            |            |    |
|----|------------|------------|----|
| 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらかといえば反対 | 反対 |
| 1  | 2          | 3          | 4  |
- 日本の学校を9月入学にする
  - 大学の講義は英語でやる
  - 外国人が横断になったり柔道で優勝したりする
  - 帰化した元外国人が日本の首相になる

資料1 ◆調査票見本

	賛成	どちらかといえは賛成	どちらでもない	どちらかといえは反対	反対
5. たくさんの外国人が日本に住むようになる	1	2	3	4	5
6. 外国に住む日本人が多くなる	1	2	3	4	5
7. 国よりも、都道府県などでさまざまなことを決めるようにする	1	2	3	4	5
8. (ヨーロッパのように) アジアの国と通商などを続ける	1	2	3	4	5
9. 伝統的な文化や習慣を大切にすること	1	2	3	4	5
10. 強い自衛隊を持つ	1	2	3	4	5
11. 戦争をしない	1	2	3	4	5
12. 過去の戦争について反省をする	1	2	3	4	5
13. 日本という国がなくなる	1	2	3	4	5

Ⅲ. 最後に、あなたと外国とのかわりについてお聞きします。

19. あなたはこれまで、外国に行ったことがありますか。

- 1. ない
- 2. 1回
- 3. 2、3回
- 4. 4～9回
- 5. 10回以上

→ S.Q. 【外国に行ったことが「1回以上」あると答えた人のお聞きします。】  
今まで行ったことのある外国の地域はどこですか。(あてはまる地域すべてに○をつけてください)

- 1. アジア (韓国・中国・バリ島・インドなど)
- 2. 中東 (サウジアラビア・イランなど)
- 3. ヨーロッパ (イギリス・フランス・ロシアなど)
- 4. アフリカ (エジプト・カメルーン・ナイジェリアなど)
- 5. 北米 (アメリカ・カナダ・ハワイ・グアムなど)
- 6. 中・南米 (メキシコ・ジャマイカ・ブラジルなど)
- 7. オセアニア (オーストラリア・ニュージーランドなど)

18. 次の言葉から連想することを、短い文章(一言でもよいです)で書いてください。

1. 「日本」

2. 「若が代」

3. 「戦争」

20. あなたは将来、次のようなことをしたいと思いますか。

	ぜひやってみたい	できればやってみたい	あまりやりたくない	まったくやりたくない
1. 外国人との交流会や、自宅に外国人をホームステイさせる	1	2	3	4
2. 外国に旅行する	1	2	3	4
3. 2か国語くらいは話せるようになる	1	2	3	4
4. 外国の大学に留学する	1	2	3	4
5. 海外で難民を支援する活動に参加する	1	2	3	4
6. 外国で生活する	1	2	3	4
7. 外国の市民権を取得するために、子どもは外国で出生する	1	2	3	4
8. 外国人と結婚する	1	2	3	4
9. 環境保護活動に参加する	1	2	3	4



## 資料2 ◆基礎集計表

単位：サンプル数、[1]以外はパーセント

質問項目		全体	性別					
			男子	女子				
サンプル数		1,591	824	767				
[1]	学 年	1. 1年 2. 2年	305 519	387 380				
[3]	今まで、小・中学校の音楽の授業以外に、次あげるようなかたちで音楽を習ったり、したことがあるか	高校の芸術の授業で音楽を選択する	1. 現在している 2. かつてしたことがある 3. したことがない	29.7 23.3 46.3	24.3 28.6 47.1	35.9 18.0 46.1		
		学校で音楽系のクラブ活動や部活動に参加する	1. 現在している 2. かつてしたことがある 3. したことがない	9.6 19.0 70.7	4.3 7.7 88.0	15.5 31.5 53.1		
		友だちとバンドを組む	1. 現在している 2. かつてしたことがある 3. したことがない	3.3 6.8 89.1	5.4 6.8 87.8	1.2 6.9 92.0		
		ピアノを習う	1. 現在している 2. かつてしたことがある 3. したことがない	7.7 46.8 44.9	2.4 26.9 70.7	13.5 68.7 17.8		
		管弦楽器など西洋音楽の楽器を習う	1. 現在している 2. かつてしたことがある 3. したことがない	6.1 14.5 78.6	3.8 9.0 87.2	8.7 20.6 70.8		
		琴や三味線や太鼓など和楽器を習う	1. 現在している 2. かつてしたことがある 3. したことがない	0.6 9.2 89.3	0.4 5.1 94.5	0.9 13.7 85.4		
		[4]	音楽へのかかわりについて、ふだん、次のようなことをどれくらいするか	コンサートやライブに行く	1. 毎日のようにする	0.2	0.2	0.1
					2. よくする	3.0	1.0	5.2
					3. ときどきする	22.6	13.2	32.9
					4. あまりしない	12.9	10.5	15.6
					5. ほとんどしない	16.3	16.2	16.6
					6. まったくしない	44.5	58.9	29.6
カラオケに行く	1. 毎日のようにする			0.4	0.4	0.4		
	2. よくする			21.3	13.4	29.9		
	3. ときどきする			36.0	29.9	42.6		
	4. あまりしない			11.3	13.7	8.6		
	5. ほとんどしない			14.8	18.1	11.2		
	6. まったくしない			16.2	24.5	7.3		
外出するときにポータブルCD、MDプレーヤーなどで音楽を聴く	1. 毎日のようにする			19.5	22.0	16.9		
	2. よくする			19.4	18.1	20.9		
	3. ときどきする			19.9	21.3	18.5		
	4. あまりしない			10.5	8.3	12.9		
	5. ほとんどしない			11.2	9.6	12.9		
	6. まったくしない			19.4	20.8	17.9		
家でテレビやラジオの音楽番組を聴く	1. 毎日のようにする	22.7	19.7	26.1				
	2. よくする	42.4	39.5	45.9				
	3. ときどきする	22.6	25.5	19.8				
	4. あまりしない	5.8	6.9	4.7				
	5. ほとんどしない	3.4	4.3	2.5				
	6. まったくしない	2.6	4.1	1.0				

資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
4	音楽へのかかわりについて、 ふだん、次のようなことをどれくらいするか	家でCDやMDなどを聴く	1. 毎日のようにする	51.2	49.0	53.6
			2. よくする	27.6	25.8	29.5
			3. ときどきする	13.8	14.3	13.3
			4. あまりしない	2.5	3.3	1.7
			5. ほとんどしない	2.5	3.3	1.7
			6. まったくしない	2.3	4.2	0.1
		勉強しているときに“ながら聴き”をする	1. 毎日のようにする	15.0	15.1	15.0
			2. よくする	23.1	23.0	23.2
			3. ときどきする	25.3	23.0	27.9
			4. あまりしない	10.7	11.6	9.9
			5. ほとんどしない	11.7	12.4	11.0
			6. まったくしない	14.0	15.0	13.0
		習い事などとは関係なく、 楽器を弾いたり歌ったりする	1. 毎日のようにする	13.0	10.3	15.9
			2. よくする	13.8	9.2	18.6
			3. ときどきする	20.5	13.5	28.0
			4. あまりしない	12.4	12.5	12.3
			5. ほとんどしない	12.8	15.7	9.8
			6. まったくしない	27.4	38.7	15.4
		お店でCDやMDを買う	1. 毎日のようにする	5.5	7.2	3.8
			2. よくする	29.7	27.2	32.5
			3. ときどきする	39.8	37.5	42.2
			4. あまりしない	9.8	9.7	9.9
			5. ほとんどしない	8.0	7.3	8.9
			6. まったくしない	7.0	11.1	2.7
レンタルCDを借りる	1. 毎日のようにする	3.5	4.9	2.1		
	2. よくする	34.3	33.5	35.2		
	3. ときどきする	28.8	26.5	31.3		
	4. あまりしない	10.3	8.9	11.9		
	5. ほとんどしない	8.7	8.7	8.7		
	6. まったくしない	14.3	17.5	10.8		
友だちとCDやMDなどの貸し借りを する	1. 毎日のようにする	3.6	5.0	2.2		
	2. よくする	27.2	22.2	32.7		
	3. ときどきする	40.0	34.5	46.0		
	4. あまりしない	12.4	14.3	10.5		
	5. ほとんどしない	7.2	8.7	5.6		
	6. まったくしない	9.3	15.2	3.0		
友だちとJ-POPや洋楽の話を する	1. 毎日のようにする	8.6	8.7	8.5		
	2. よくする	28.6	22.8	34.8		
	3. ときどきする	36.0	33.4	38.9		
	4. あまりしない	12.2	13.2	11.1		
	5. ほとんどしない	7.3	9.3	5.1		
	6. まったくしない	7.3	12.5	1.7		
5	あなたがふだん、よく聴く音楽の ジャンル（複数回答）	1. J-POP	86.5	82.9	90.5	
		2. 洋楽	46.8	38.1	56.1	
		3. クラシック音楽	14.0	9.8	18.5	
		4. イージーリスニング	2.3	1.7	2.9	
		5. 日本のオールディーズ	5.4	5.1	5.7	
		6. 洋楽のオールディーズ	6.3	6.3	6.3	
		7. テレビ・映画などの主題歌やテーマ曲	40.6	32.6	49.2	
		8. その他	7.1	8.0	6.1	
		9. 音楽は聴かない	1.7	3.2	0.1	

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
6	家族がふだん、よく聴く音楽のジャンル（複数回答）	1. J-POP	72.0	71.7	72.2	
		2. 洋楽	28.8	26.6	31.3	
		3. クラシック音楽	21.9	18.3	25.7	
		4. イージーリスニング	2.2	1.8	2.6	
		5. 日本のオールディーズ	18.0	15.9	20.2	
		6. 洋楽のオールディーズ	8.3	6.1	10.7	
		7. テレビ・映画などの主題歌やテーマ曲	25.1	19.5	31.2	
		8. その他	3.8	2.1	5.6	
		9. 音楽は聴かない	7.2	9.3	5.0	
7	次にあげる歌や曲に「なつかしさ」や「親しみ」や「日本の音楽らしさ」を感じるか（複数回答）	「故郷（ふるさと）」	1. なつかしさを感じる	40.7	36.2	45.6
			2. 親しみを感じる	16.5	14.3	18.8
			3. 日本の音楽らしさを感じる	47.8	41.5	54.6
			4. この歌を知らない	14.3	22.1	6.0
		「蛍の光」	1. なつかしさを感じる	34.3	33.1	35.5
			2. 親しみを感じる	26.8	27.1	26.5
			3. 日本の音楽らしさを感じる	39.0	33.6	44.9
			4. この歌を知らない	9.5	13.8	4.8
		「越天楽今様」	1. なつかしさを感じる	3.5	4.0	2.9
			2. 親しみを感じる	3.1	3.5	2.7
			3. 日本の音楽らしさを感じる	52.3	44.2	61.0
			4. この歌を知らない	41.5	47.9	34.7
		「さくらさくら」	1. なつかしさを感じる	15.8	17.1	14.5
			2. 親しみを感じる	14.1	13.5	14.7
			3. 日本の音楽らしさを感じる	76.9	69.4	84.9
			4. この歌を知らない	3.2	5.9	0.3
		「翼をください」	1. なつかしさを感じる	40.9	39.4	42.4
			2. 親しみを感じる	57.9	52.1	64.1
			3. 日本の音楽らしさを感じる	8.2	10.8	5.3
			4. この歌を知らない	1.5	2.8	0.1
		「北の国から」	1. なつかしさを感じる	39.7	38.6	40.9
			2. 親しみを感じる	40.9	40.2	41.7
			3. 日本の音楽らしさを感じる	16.4	18.2	14.5
			4. この歌を知らない	9.4	8.4	10.6
		「アイーダ」（W杯日本代表応援歌）	1. なつかしさを感じる	11.4	10.9	12.0
			2. 親しみを感じる	46.4	43.9	49.0
			3. 日本の音楽らしさを感じる	5.5	6.3	4.7
			4. この歌を知らない	32.3	34.2	30.2
		「大きな古時計」	1. なつかしさを感じる	52.3	49.8	55.0
			2. 親しみを感じる	53.2	49.5	57.2
			3. 日本の音楽らしさを感じる	8.5	9.7	7.2
			4. この歌を知らない	1.1	2.1	0.1
		「いとこのエリー」	1. なつかしさを感じる	25.0	23.8	26.2
			2. 親しみを感じる	56.0	54.7	57.4
			3. 日本の音楽らしさを感じる	5.3	6.9	3.5
			4. この歌を知らない	12.5	13.1	11.9
「負けないで」	1. なつかしさを感じる	29.9	28.6	31.3		
	2. 親しみを感じる	63.8	60.1	67.8		
	3. 日本の音楽らしさを感じる	5.3	6.7	3.8		
	4. この歌を知らない	4.8	7.0	2.5		

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
7	次にあげる歌や曲に「なつかしさ」や「親しみ」や「日本の音楽らしさ」を感じるか(複数回答)	「いい日旅立ち」	1. なつかしさを感じる	37.6	30.3	45.4
			2. 親しみを感じる	21.7	20.1	23.3
			3. 日本の音楽らしさを感じる	19.7	19.7	19.8
			4. この歌を知らない	23.6	31.1	15.6
		「LOVE LOVE LOVE」	1. なつかしさを感じる	21.8	21.7	21.9
			2. 親しみを感じる	64.7	51.2	79.3
			3. 日本の音楽らしさを感じる	3.8	5.5	2.0
			4. この歌を知らない	11.5	18.4	4.0
		「カントリーロード」	1. なつかしさを感じる	45.5	41.9	49.4
			2. 親しみを感じる	55.3	49.0	62.1
			3. 日本の音楽らしさを感じる	3.5	4.6	2.3
			4. この歌を知らない	7.1	10.9	3.0
		「川の流れるように」	1. なつかしさを感じる	34.4	32.2	36.8
			2. 親しみを感じる	15.6	16.7	14.3
			3. 日本の音楽らしさを感じる	56.3	53.4	59.3
			4. この歌を知らない	2.9	4.5	1.2
		「First Love」	1. なつかしさを感じる	13.6	16.5	10.6
			2. 親しみを感じる	74.0	63.5	85.3
			3. 日本の音楽らしさを感じる	4.0	5.8	2.0
			4. この歌を知らない	7.2	11.2	2.9
8	好きな食べ物(3つ選択)	1. おすし	52.0	55.8	48.0	
		2. 天ぷら	15.2	14.0	16.6	
		3. そば(うどん)	33.6	34.0	33.2	
		4. ハンバーグ	22.7	18.9	26.7	
		5. ステーキ	21.6	32.0	10.3	
		6. ピザ	31.2	26.9	35.9	
		7. スパゲッティ	34.1	25.5	43.3	
		8. ビビンバ	17.5	11.3	24.1	
		9. 焼き肉	47.3	57.8	36.0	
		10. ぎょうざ	18.5	17.4	19.7	
		11. 八宝菜	4.0	3.8	4.3	
9	結びつきを感じるか 次のような食べ物とある特定の国との	ハンバーガーとアメリカ	1. とても感じる	27.0	26.1	28.0
			2. かなり感じる	29.1	26.7	31.8
			3. あまり感じない	32.9	31.5	34.6
			4. ぜんぜん感じない	10.8	15.7	5.6
		コーラとアメリカ	1. とても感じる	23.3	22.0	24.7
			2. かなり感じる	26.2	22.4	30.5
			3. あまり感じない	35.0	35.6	34.5
			4. ぜんぜん感じない	15.3	20.0	10.3
		ピザとイタリア	1. とても感じる	34.1	34.1	34.2
			2. かなり感じる	33.2	31.5	35.2
			3. あまり感じない	23.6	22.3	25.0
			4. ぜんぜん感じない	9.0	12.2	5.6
		カレーとインド	1. とても感じる	43.9	41.6	46.4
			2. かなり感じる	24.2	24.9	23.5
			3. あまり感じない	23.4	23.0	24.0
			4. ぜんぜん感じない	8.4	10.5	6.1
		みそ汁と日本	1. とても感じる	60.3	57.7	63.4
			2. かなり感じる	25.6	24.0	27.5
			3. あまり感じない	9.4	10.8	8.0
			4. ぜんぜん感じない	4.5	7.5	1.2

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
9	感じるか 次のような食べ物とある特定の国との結びつきを	キムチと韓国	1. とても感じる	64.4	62.8	66.5
			2. かなり感じる	24.1	23.1	25.2
			3. あまり感じない	7.8	8.5	7.1
			4. ぜんぜん感じない	3.5	5.6	1.2
	ラーメンと中国	1. とても感じる	10.0	12.7	7.2	
		2. かなり感じる	14.6	12.8	16.7	
		3. あまり感じない	47.9	43.3	52.9	
		4. ぜんぜん感じない	27.3	31.3	23.2	
10	スポーツのチームが、オリンピックのような国際的な試合に出るときなどに思うこと（複数回答）	1. 日本の監督に外国人がなってもいいと思う	78.6	75.7	81.6	
		2. 日本に外国人の選手が入ってもいいと思う	58.3	49.6	67.5	
		3. 日本の選手も、外国で活躍してほしい	83.2	82.9	83.6	
		4. 国際的な試合では日本に戻ってきてほしい	74.9	74.2	75.7	
		5. 団体競技で、外国を応援したことがある	18.9	23.5	14.0	
		6. 個人競技で、外国を応援したことがある	25.7	25.0	26.5	
	（上の質問で2を選択した人）外国人選手がどれくらい入ってもいいと思うか	1. 何人でも入ってよい	26.9	32.8	22.6	
		2. 半分くらい	4.4	5.1	3.9	
		3. 2、3割くらい	36.6	33.6	39.8	
		4. 1割くらい	31.0	28.4	33.7	
11	オリンピックなどの国際的な試合で、次のようなことをしたい（してほしい）と思うか	試合の前に起立して、みんなで「君が代」を歌う	1. とてもしたい	8.7	11.0	6.4
			2. かなりしたい	22.3	18.9	26.0
			3. あまりしたくない	43.1	37.9	49.1
			4. ぜんぜんしたくない	25.5	32.3	18.5
		試合の前にタレントなどが「君が代」を歌う	1. とてもしてほしい	7.4	8.4	6.4
			2. かなりしてほしい	22.8	18.4	27.6
			3. あまりしてほしくない	39.9	38.2	42.1
			4. ぜんぜんしてほしくない	29.5	34.9	23.9
		日の丸の旗を持って応援する	1. とてもしたい	15.5	15.5	15.7
			2. かなりしたい	35.8	29.4	42.7
			3. あまりしたくない	34.1	34.5	33.7
			4. ぜんぜんしたくない	14.5	20.6	8.0
		日の丸を顔や腕に描く	1. とてもしたい	9.7	7.7	12.0
			2. かなりしたい	28.8	20.3	37.9
			3. あまりしたくない	39.1	40.1	38.1
			4. ぜんぜんしたくない	22.3	31.9	12.0
		日の丸をアレンジしたTシャツやタオルなどを身につける	1. とてもしたい	9.2	9.1	9.3
			2. かなりしたい	27.2	25.3	29.3
			3. あまりしたくない	41.7	38.1	45.6
			4. ぜんぜんしたくない	21.8	27.5	15.8
		みんなで「ニッポン！」と叫ぶ	1. とてもしたい	33.2	27.6	39.5
			2. かなりしたい	37.3	34.8	40.3
			3. あまりしたくない	21.4	25.1	17.5
			4. ぜんぜんしたくない	7.8	12.5	2.7
みんなで日本選手の名前を叫ぶ	1. とてもしたい	33.7	25.7	42.5		
	2. かなりしたい	39.6	37.1	42.5		
	3. あまりしたくない	19.9	25.8	13.6		
	4. ぜんぜんしたくない	6.6	11.4	1.4		
ウエーブをする	1. とてもしたい	27.2	22.3	32.7		
	2. かなりしたい	35.7	33.9	37.9		
	3. あまりしたくない	27.7	30.2	25.3		
	4. ぜんぜんしたくない	9.0	13.6	4.1		

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
11	オリンピックなどの国際的な試合で、次のようなことをしたい(してほしい)と思うか	応援歌を歌う	1. とてもしたい	27.8	21.0	35.5
			2. かなりしたい	41.5	38.1	45.5
			3. あまりしたくない	22.7	29.0	16.1
			4. ぜんぜんしたくない	7.5	11.9	2.9
		外国のチームがよいプレーをしたときには拍手する	1. とてもしたい	32.2	35.3	29.1
			2. かなりしたい	45.3	44.6	46.5
			3. あまりしたくない	18.1	14.6	22.0
			4. ぜんぜんしたくない	4.0	5.5	2.5
		日本に不利な判定にブーイングする	1. とてもしたい	17.6	20.5	14.6
			2. かなりしたい	27.5	24.8	30.7
			3. あまりしたくない	37.5	33.2	42.4
			4. ぜんぜんしたくない	17.0	21.6	12.3
		ミスジャッジでも日本に有利な判定には拍手する	1. とてもしたい	9.7	13.9	5.2
			2. かなりしたい	19.5	18.1	21.1
			3. あまりしたくない	49.2	42.0	57.2
			4. ぜんぜんしたくない	21.3	25.9	16.4
12	好きなもの(複数回答)	日本の	1. 音楽や映画、テレビ番組	84.5	84.1	85.0
			2. 料理やファッション	71.7	60.9	83.2
			3. 国	48.7	46.4	51.2
		アジア(韓国・中国・インドなど)の	1. 音楽や映画、テレビ番組	9.8	9.3	10.3
			2. 料理やファッション	53.6	49.6	57.9
			3. 国	15.8	14.6	17.1
		中東(サウジアラビア・イランなど)の	1. 音楽や映画、テレビ番組	2.8	2.9	2.7
			2. 料理やファッション	13.1	11.9	14.3
			3. 国	9.4	9.1	9.6
		ヨーロッパ(イギリス・フランス・ロシアなど)の	1. 音楽や映画、テレビ番組	34.8	29.6	40.4
			2. 料理やファッション	64.7	59.1	70.7
			3. 国	51.7	47.9	55.7
		アフリカ(エジプト・カメルーン・ナイジェリアなど)の	1. 音楽や映画、テレビ番組	5.0	5.5	4.6
			2. 料理やファッション	9.9	9.6	10.3
			3. 国	18.3	17.6	19.0
		北米(アメリカ・カナダなど)の	1. 音楽や映画、テレビ番組	63.9	58.0	70.3
			2. 料理やファッション	51.0	47.5	54.9
			3. 国	36.6	35.1	38.2
		中・南米(メキシコ・ジャマイカ・ブラジルなど)の	1. 音楽や映画、テレビ番組	8.2	7.6	8.9
			2. 料理やファッション	23.5	20.1	27.1
			3. 国	18.7	19.3	18.0
		オセアニア(オーストラリア・ニュージーランドなど)の	1. 音楽や映画、テレビ番組	9.0	7.4	10.7
			2. 料理やファッション	21.1	19.1	23.3
			3. 国	48.0	39.0	57.6
13	ときは、「日本」または「日本人」を感じる ときは、どんなときか	オリンピックで日の丸があがったとき	1. とても感じる	19.5	18.9	20.2
			2. かなり感じる	35.4	32.6	38.6
			3. あまり感じない	33.8	33.7	33.9
			4. ぜんぜん感じない	11.1	14.8	7.2
		温泉に入ってこたつでのんびりするとき	1. とても感じる	29.8	28.1	31.7
			2. かなり感じる	30.8	27.5	34.5
			3. あまり感じない	29.6	30.5	28.7
			4. ぜんぜん感じない	9.6	13.9	5.1
		スポーツの試合で「ニッポン、ニッポン」と叫んで応援するとき	1. とても感じる	20.4	15.3	26.0
			2. かなり感じる	38.9	36.7	41.4
			3. あまり感じない	30.5	34.2	26.7
			4. ぜんぜん感じない	9.9	13.7	5.9

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別							
			男子	女子						
13	「日本」または「日本人」を感じるときは、どんなときか	和服を着たり、着ている人を見るとき	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	43.6 38.5 13.5 4.2	33.7 40.8 18.2 7.3	54.3 36.3 8.5 0.9				
		宗教とは関係なくクリスマスやバレンタインのイベントに熱心になること	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	8.7 16.8 47.9 26.5	9.6 16.1 43.6 30.8	7.7 17.6 52.7 21.9				
		能や狂言、歌舞伎などを鑑賞するとき	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	28.4 40.3 22.7 8.2	25.5 38.3 24.5 11.7	31.8 42.7 20.9 4.6				
		漆器や茶道、短歌などの伝統芸術に触れるとき	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	35.4 40.9 16.8 6.5	30.0 39.6 20.1 10.2	41.6 42.5 13.5 2.5				
		京都や奈良の歴史的な建造物を見るとき	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	53.1 32.1 10.1 4.4	47.2 32.7 12.6 7.6	59.8 31.6 7.6 1.0				
		日本の昔話や童話に触れるとき	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	18.4 40.1 34.0 7.2	17.0 38.4 33.5 11.1	20.0 42.2 34.7 3.1				
		水道水が安心して飲めるとき	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	8.2 12.3 46.8 32.5	10.5 13.0 38.8 37.7	5.9 11.5 55.6 27.0				
		外国のものを日本人の好みにアレンジして取り込んでしまうこと	1. とても感じる 2. かなり感じる 3. あまり感じない 4. ぜんぜん感じない	5.2 15.8 53.0 25.6	6.0 17.4 47.6 29.0	4.3 14.2 59.3 22.2				
		14	自分が所属している次のようなグループをどれくらい好きか	家族	1. 好き 2. やや好き 3. どちらでもない 4. やや嫌い 5. 嫌い	44.4 31.7 17.7 3.6 2.3	34.0 36.0 22.4 4.3 3.3	55.7 27.3 12.7 3.0 1.3		
					友だちのグループ	1. 好き 2. やや好き 3. どちらでもない 4. やや嫌い 5. 嫌い 6. 入っていない	60.8 27.9 8.5 0.6 0.7 1.3	52.9 33.0 10.7 0.5 1.0 1.9	69.5 22.6 6.3 0.7 0.4 0.7	
						学校のクラス	1. 好き 2. やや好き 3. どちらでもない 4. やや嫌い 5. 嫌い	32.1 36.1 24.3 4.0 3.3	25.0 37.4 30.3 3.7 3.7	39.8 35.0 18.0 4.3 2.9

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
14	自分が所属している次のようなグループをどれくらい好きか	学校の部	1. 好き	34.3	31.8	37.3
			2. やや好き	23.8	25.2	22.5
			3. どちらでもない	16.0	15.3	16.7
			4. やや嫌い	4.5	4.5	4.6
			5. 嫌い	4.0	4.1	3.9
			6. 入っていない	17.0	19.0	15.0
		通っている学校	1. 好き	20.5	17.4	23.9
			2. やや好き	33.8	29.6	38.5
			3. どちらでもない	29.5	34.2	24.5
			4. やや嫌い	9.2	10.8	7.6
			5. 嫌い	6.8	8.0	5.5
		住んでいる町や村（地域）	1. 好き	26.8	24.7	29.3
			2. やや好き	27.8	27.2	28.8
			3. どちらでもない	33.4	34.6	32.5
4. やや嫌い	7.5		8.4	6.7		
5. 嫌い	4.0		5.1	2.7		
住んでいる県	1. 好き	20.0	19.5	20.6		
	2. やや好き	25.0	24.2	26.0		
	3. どちらでもない	41.5	41.8	41.4		
	4. やや嫌い	8.4	8.3	8.6		
	5. 嫌い	4.8	6.2	3.4		
日本	1. 好き	34.9	34.2	35.9		
	2. やや好き	30.9	29.5	32.5		
	3. どちらでもない	24.7	25.1	24.4		
	4. やや嫌い	6.4	7.3	5.5		
	5. 嫌い	2.8	3.9	1.7		
15	次のような出来事を知っているか	イラクに対する国連査察について	1. よく知っている	17.7	22.1	13.1
			2. わりと知っている	48.4	49.1	47.8
			3. あまり知らない	28.2	23.6	33.3
			4. まったく知らない	5.4	5.1	5.8
		日本人のノーベル賞2人同時受賞について	1. よく知っている	36.0	38.3	33.6
			2. わりと知っている	50.6	48.7	52.9
			3. あまり知らない	11.9	11.3	12.7
			4. まったく知らない	1.3	1.7	0.8
		北朝鮮による拉致事件の被害者について	1. よく知っている	34.0	34.3	33.9
			2. わりと知っている	54.0	51.0	57.5
			3. あまり知らない	10.7	13.3	8.1
			4. まったく知らない	1.0	1.5	0.5
		韓国の大統領に盧武鉉氏が選出されたことについて	1. よく知っている	12.0	14.4	9.5
			2. わりと知っている	27.2	25.9	28.8
3. あまり知らない	34.3		35.3	33.3		
4. まったく知らない	26.2		24.4	28.4		
自衛隊イージス艦のインド洋派遣について	1. よく知っている	11.1	16.0	5.9		
	2. わりと知っている	23.1	29.4	16.6		
	3. あまり知らない	34.9	32.4	38.0		
	4. まったく知らない	30.4	22.2	39.5		
高円宮さまの急逝について	1. よく知っている	22.4	22.7	22.1		
	2. わりと知っている	41.9	40.5	43.7		
	3. あまり知らない	22.9	24.7	21.2		
	4. まったく知らない	12.5	12.0	13.1		

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別		
			男子	女子	
16	とても自由だ	1. まったくそう思う	9.2	10.3	8.0
		2. かなりそう思う	38.9	37.6	40.5
		3. あまりそう思わない	44.8	43.1	46.8
		4. まったくそう思わない	6.9	9.0	4.7
	男女平等だ	1. まったくそう思う	3.5	5.6	1.3
		2. かなりそう思う	28.1	29.7	26.5
		3. あまりそう思わない	58.7	54.4	63.7
		4. まったくそう思わない	9.4	10.3	8.5
	誰でも努力さえすれば高い地位につける	1. まったくそう思う	6.5	8.5	4.3
		2. かなりそう思う	25.3	24.7	26.0
		3. あまりそう思わない	54.5	51.0	58.6
		4. まったくそう思わない	13.5	15.8	11.1
	物が豊かにある	1. まったくそう思う	39.5	38.9	40.3
		2. かなりそう思う	48.0	44.5	52.0
		3. あまりそう思わない	9.9	13.0	6.7
		4. まったくそう思わない	2.3	3.5	1.0
	平和な国だと思う	1. まったくそう思う	31.5	33.5	29.6
		2. かなりそう思う	44.7	41.8	48.2
		3. あまりそう思わない	20.4	19.9	21.2
		4. まったくそう思わない	3.0	4.9	1.0
	学歴がものをいう社会だ	1. まったくそう思う	23.6	26.2	20.9
		2. かなりそう思う	42.7	43.1	42.6
		3. あまりそう思わない	28.7	24.6	33.2
		4. まったくそう思わない	4.8	6.2	3.3
	民主主義が発達している	1. まったくそう思う	6.8	8.9	4.6
		2. かなりそう思う	40.2	42.0	39.1
		3. あまりそう思わない	46.6	42.0	52.5
		4. まったくそう思わない	5.5	7.2	3.8
大企業の力が強い	1. まったくそう思う	26.9	31.7	22.0	
	2. かなりそう思う	49.5	46.2	53.3	
	3. あまりそう思わない	21.1	18.9	23.7	
	4. まったくそう思わない	2.1	3.2	1.0	
若者とおとなの考え方の差が大きい	1. まったくそう思う	37.8	40.9	34.8	
	2. かなりそう思う	43.7	41.0	46.9	
	3. あまりそう思わない	16.2	15.2	17.4	
	4. まったくそう思わない	1.9	2.9	0.9	
国民の意見が政治に反映されていない	1. まったくそう思う	38.0	42.2	33.9	
	2. かなりそう思う	44.9	41.2	49.2	
	3. あまりそう思わない	15.3	14.3	16.5	
	4. まったくそう思わない	1.4	2.3	0.4	
日本はいい国だ	1. まったくそう思う	17.5	20.2	14.7	
	2. かなりそう思う	43.4	41.0	46.6	
	3. あまりそう思わない	33.1	30.6	36.3	
	4. まったくそう思わない	5.3	8.2	2.4	
自然が美しい	1. まったくそう思う	11.3	13.4	9.2	
	2. かなりそう思う	33.1	33.1	33.4	
	3. あまりそう思わない	46.8	43.6	50.5	
	4. まったくそう思わない	8.4	9.9	6.9	

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別		
			男子	女子	
17	日本の学校を9月入学にする	1. 賛成	6.1	7.8	4.3
		2. どちらかといえば賛成	5.3	4.9	5.8
		3. どちらでもない	45.5	47.7	43.4
		4. どちらかといえば反対	18.9	13.1	25.2
		5. 反対	23.9	26.5	21.3
	大学の講義は英語です	1. 賛成	4.1	4.5	3.8
		2. どちらかといえば賛成	9.1	7.3	11.1
		3. どちらでもない	30.6	29.1	32.4
		4. どちらかといえば反対	24.5	22.5	26.8
		5. 反対	31.4	36.6	25.9
	外国人が横綱になったり柔道で優勝したりする	1. 賛成	36.7	38.5	35.1
		2. どちらかといえば賛成	22.3	18.0	27.0
		3. どちらでもない	29.1	30.9	27.4
		4. どちらかといえば反対	7.8	7.9	7.7
		5. 反対	3.8	4.6	2.9
	帰化した元外国人が日本の首相になる	1. 賛成	14.0	16.3	11.5
		2. どちらかといえば賛成	16.2	15.5	17.1
3. どちらでもない		36.4	34.3	38.8	
4. どちらかといえば反対		19.4	16.8	22.4	
5. 反対		13.8	17.2	10.2	
たくさんの外国人が日本に住む	1. 賛成	24.8	22.9	27.1	
	2. どちらかといえば賛成	25.0	21.5	28.8	
	3. どちらでもない	30.4	32.4	28.5	
	4. どちらかといえば反対	13.0	14.6	11.4	
	5. 反対	6.5	8.6	4.3	
外国に住む日本人が多くなる	1. 賛成	26.5	24.8	28.5	
	2. どちらかといえば賛成	29.4	24.1	35.3	
	3. どちらでもない	35.6	42.1	28.9	
	4. どちらかといえば反対	6.5	6.7	6.4	
	5. 反対	1.6	2.2	0.9	
国よりも、都道府県などでさまざまなことを決めるようにする	1. 賛成	14.6	18.4	10.8	
	2. どちらかといえば賛成	27.1	28.0	26.4	
	3. どちらでもない	43.7	39.8	48.4	
	4. どちらかといえば反対	9.9	8.9	11.0	
	5. 反対	4.1	4.9	3.4	
(ヨーロッパのように) アジアの国と通貨などを統一する	1. 賛成	9.4	11.8	6.8	
	2. どちらかといえば賛成	11.9	11.7	12.3	
	3. どちらでもない	36.4	36.4	36.6	
	4. どちらかといえば反対	21.7	18.0	25.9	
	5. 反対	20.2	22.0	18.4	
伝統的な文化や習慣を大切ににする	1. 賛成	45.9	40.6	52.3	
	2. どちらかといえば賛成	31.9	30.5	33.9	
	3. どちらでもない	18.2	24.0	12.1	
	4. どちらかといえば反対	2.1	3.0	1.1	
	5. 反対	1.3	1.9	0.7	
強い自衛隊を持つ	1. 賛成	12.3	17.7	6.6	
	2. どちらかといえば賛成	15.4	16.7	14.2	
	3. どちらでもない	39.2	36.8	42.2	
	4. どちらかといえば反対	18.9	15.7	22.4	
	5. 反対	13.8	13.2	14.7	

## 資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別					
			男子	女子				
17	どの日本に関する次のようなことについて、どのように思うか	戦争をしない	1. 賛成	79.9	71.5	89.9		
			2. どちらかといえば賛成	7.5	10.1	4.9		
			3. どちらでもない	8.2	12.7	3.5		
			4. どちらかといえば反対	1.1	1.7	0.5		
			5. 反対	2.6	4.0	1.2		
		過去の戦争について反省をする	1. 賛成	62.7	55.5	71.4		
			2. どちらかといえば賛成	19.0	20.4	17.9		
			3. どちらでもない	13.1	17.0	9.1		
			4. どちらかといえば反対	1.8	2.6	1.1		
			5. 反対	2.7	4.6	0.7		
		日本という国がなくなる	1. 賛成	1.8	3.0	0.4		
			2. どちらかといえば賛成	1.7	2.8	0.5		
			3. どちらでもない	12.8	16.7	8.8		
			4. どちらかといえば反対	10.7	11.1	10.5		
			5. 反対	72.7	66.4	79.8		
19	外国に行ったことがあるか	1. ない	68.1	72.4	64.7			
		2. 1回	14.0	12.8	15.6			
		3. 2、3回	10.9	9.6	12.4			
		4. 4～9回	4.5	4.1	5.1			
		5. 10回以上	1.6	1.1	2.2			
	(外国に行ったことがある人) 今まで行ったことのある外国の地域はどこか	1. アジア	35.0	37.1	33.3			
		2. 中東	1.2	1.8	0.7			
		3. ヨーロッパ	18.4	17.0	19.6			
		4. アフリカ	0.8	0.9	0.7			
		5. 北米	63.2	63.4	63.0			
		6. 中・南米	2.6	2.2	3.0			
		7. オセアニア	23.9	17.9	28.9			
		20	将来、次のようなことをしたいと思うか	外国人との交流会や、自宅に外国人をホームステイさせる	1. ぜひやってみたい	20.1	11.8	29.4
					2. できればやってみたい	37.8	34.0	42.8
3. あまりやりたくない	29.7				36.7	22.8		
4. まったくやりたくない	11.3				17.4	5.0		
外国に旅行する	1. ぜひやってみたい		67.8	58.0	79.6			
	2. できればやってみたい		22.7	28.6	16.9			
	3. あまりやりたくない		6.9	10.7	3.0			
	4. まったくやりたくない		1.6	2.7	0.5			
2か国語くらいは話せるようになる	1. ぜひやってみたい		52.4	50.1	55.8			
	2. できればやってみたい		37.3	38.7	36.6			
	3. あまりやりたくない		7.1	8.3	6.0			
	4. まったくやりたくない		2.3	3.0	1.6			
外国の大学に留学する	1. ぜひやってみたい		17.7	13.8	22.2			
	2. できればやってみたい	31.5	28.1	35.7				
	3. あまりやりたくない	36.5	40.0	33.6				
	4. まったくやりたくない	13.3	18.1	8.5				
海外で難民を支援する活動に参加する	1. ぜひやってみたい	12.1	8.4	16.2				
	2. できればやってみたい	37.7	33.0	43.5				
	3. あまりやりたくない	37.5	43.0	32.5				
	4. まったくやりたくない	11.7	15.5	7.9				
外国で生活する	1. ぜひやってみたい	26.0	19.8	33.1				
	2. できればやってみたい	31.9	31.9	32.6				
	3. あまりやりたくない	29.7	34.0	25.7				
	4. まったくやりたくない	11.4	14.3	8.6				

資料2 ◆基礎集計表

質問項目		全体	性別		
			男子	女子	
20	将来、次のようなことをしたい 外国の市民権を取得するために、子どもは外国で出産する	1. ぜひやってみたい	3.2	3.2	3.3
		2. できればやってみたい	12.9	9.6	16.7
		3. あまりやりたくない	53.2	53.4	54.4
		4. まったくやりたくない	29.4	33.7	25.6
	外国人と結婚する	1. ぜひやってみたい	5.5	3.8	7.5
		2. できればやってみたい	18.7	12.7	25.6
		3. あまりやりたくない	51.3	55.4	48.5
		4. まったくやりたくない	23.1	28.1	18.4
	環境保護活動に参加する	1. ぜひやってみたい	13.5	12.6	14.7
		2. できればやってみたい	43.5	40.6	47.7
		3. あまりやりたくない	32.7	34.4	31.8
		4. まったくやりたくない	9.1	12.5	5.8
21	日本や外国に対する考え方に影響を与えたもの（3つまで○）	1. 親などの家族	30.5	28.3	33.0
		2. 友人や知人	23.4	22.5	24.4
		3. 学校の先生や授業	31.7	31.2	32.3
		4. 雑誌や本	35.6	38.8	32.1
		5. 新聞、ラジオ、テレビなどのマスコミ	63.4	65.5	61.0
		6. インターネット	9.4	13.0	5.6
		7. 自分の好きなもの（趣味）	41.2	41.0	41.5
		8. 旅行や人との出会いなど自分の経験	18.4	14.0	23.1
		9. その他	2.8	2.2	3.5
22	部活動をしているか	1. 運動部に入って熱心に活動している	34.8	45.1	24.8
		2. 運動部だが、あまり熱心に活動していない	13.6	16.2	11.2
		3. 文化部に入って熱心に活動している	13.8	5.8	22.6
		4. 文化部だが、あまり熱心に活動していない	14.7	7.0	23.2
		5. 以前入っていたが、今は入っていない	13.5	15.9	11.2
		6. 入ったことがない	6.6	7.4	5.9
		7. その他	1.9	2.6	1.2
23	好きな授業（複数回答）	1. 国語（現代文）	22.3	18.8	26.1
		2. 国語（古文）	15.5	11.2	20.1
		3. 英語（外国語）	37.5	27.7	48.0
		4. 日本史	24.1	23.2	25.2
		5. 世界史	20.8	20.0	21.6
		6. 地理	11.6	13.2	9.8
		7. 公民（現代社会、倫理、政治・経済）	14.8	16.4	13.2
24	クラスの中での成績	1. 上	6.0	7.8	4.2
		2. 中の上	16.8	18.0	16.1
		3. 中	29.2	28.7	30.8
		4. 中の下	23.7	22.0	26.3
		5. 下	22.7	23.5	22.6